

法律と経済との関係（科外講義）

ボワソナード / 森, 順正 / 佐々木, 茂三郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律学校

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

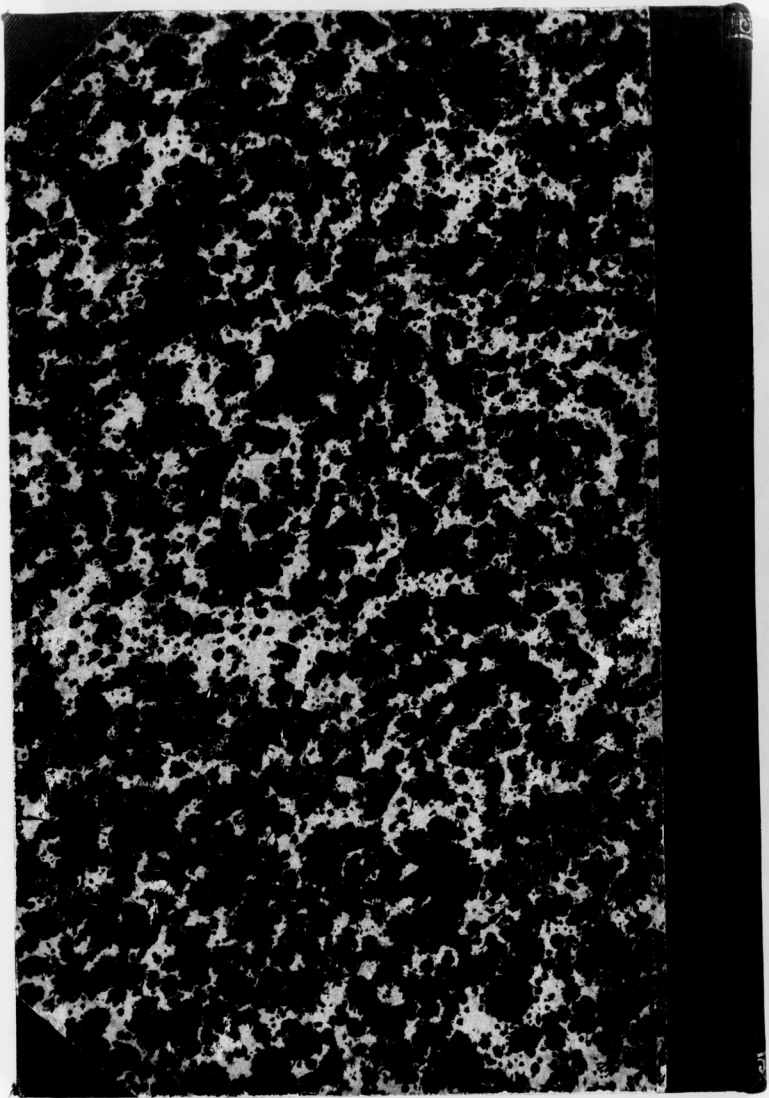
和佛法律学校講義録 / 和佛法律学校講義録

(開始ページ / Start Page)

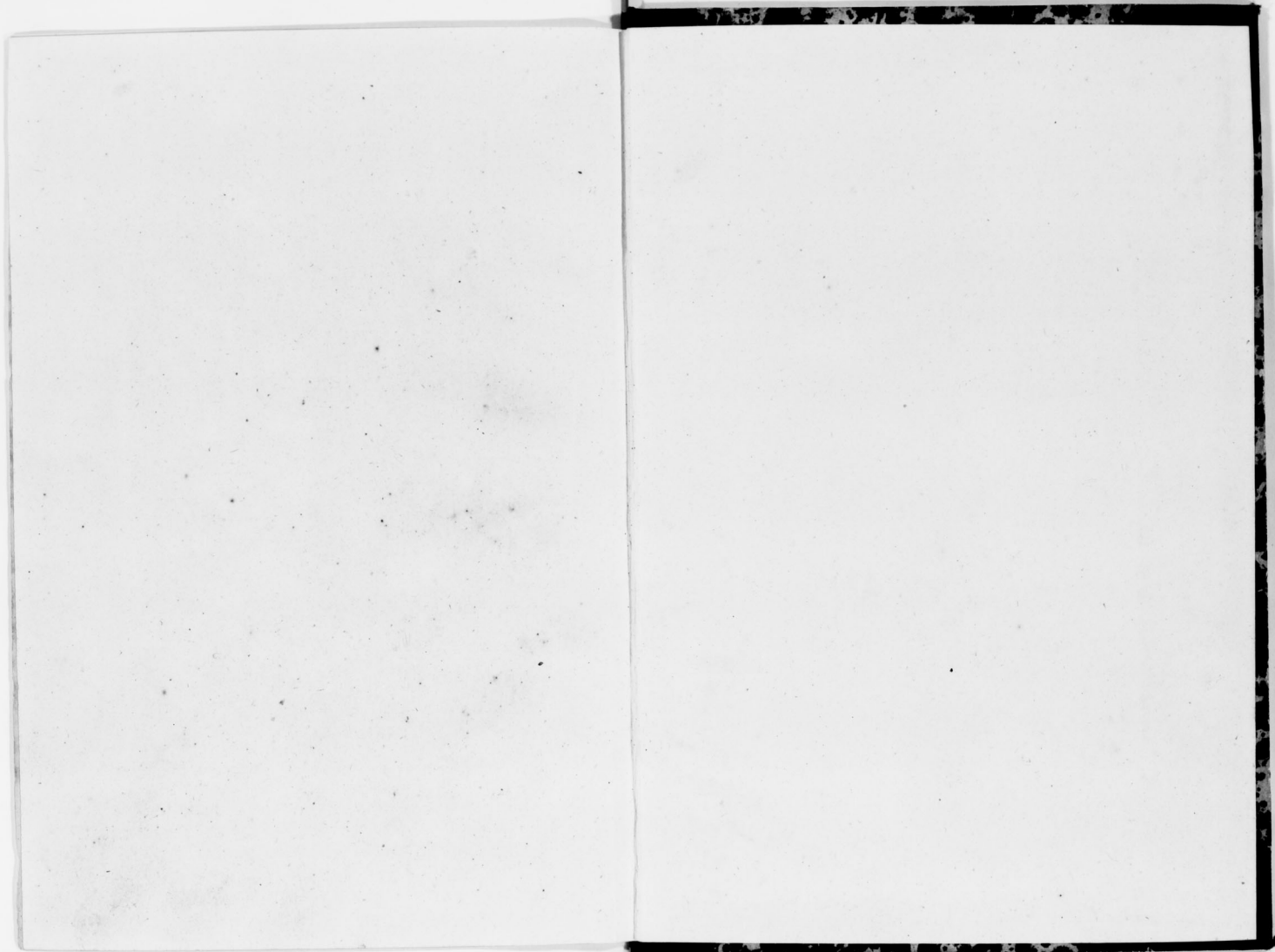
1

(終了ページ / End Page)

78



0292



0293

法律ト經濟トノ關係科外講義

佛國法律大博士
日本帝國大學教授
日本民法起草者
本校教頭

ポアソナード先生講述

本校講師 森 順 正先生口譯

本校校友 佐々木茂三郎君筆記

本論ハ教頭本校ニ於テ科外講義トシテ會テ脫述セラレタル所ノモノナリ今登
載シテ以テ諸君ノ講學ノ資ニ供ス唯々謝ス筆者ト他ニ負携スル所ノ科目ハ山
ノ如シ是ヲ以テ身事勿々未タ本論ノ筆記ヲ訂正スルノ暇ヲ得ス即座ノ筆記ヲ
其儘登載ス誤謬脫漏魯魚ノ管筆者固ヨリ其實ヲ辭セサルナリ請フ諸君焉ヲ諒

セ

抑モ物ノ對照比較ハ其異同ハ點ヲ見ルヲ目的トス夫レ能ク物ノ性質ヲ知ラン

(法律ト經濟トノ關係)

ト欲セハ其物ノ離體ト總體トヲ察シ其起因ト目的トヲ考ヘ其本末ト終始トヲ究ムル而已ヲ以テ足レトセス又之ヲ其性質多少相類スルノ物ト比較對照セサル可ラス此ノ如クシテ始テ克ク各物ノ範圍境界ヲ分明ニシ是ニ據テ以テ紛擾錯綜ノ患ヲ免カル、ヲ得可シ

物ノ關係ハ其連接ノ點ヲ知ルコトヲ旨トシ、又其相互ニ扶持維保スル所以チ、發見スルヲ要トス、此事學藝ニ於テ最モ益アリトス
余カ茲ニ講題ヲ擇テ法律ト經濟トノ關係ト云フハ兩者ヲ比較對照シテ其異同ヲ見ルノ謂ニアラス此兩者カ密着ナル連接アリテ相互ニ扶持維保スル點ヲ指摘セント欲スルニ在ルノミ即チ物ノ異同ヲ見ルニアラスシテ其關係スル所ヲ見ルニ在リ

凡ソ學術ハ其相互ニ連鎖關係スルモノ極テ多シ物理學ハ化學ト關係ヲ有シ航海學ハ天文學ト關係ヲ有シ其他兵學ト地理學ト化學ト醫學ト皆ナ關係ヲ有ス而シテ法律學ハ物理學化學天文學等ト關係ナキカ故ニ此等ノ學科ヲ法律學ニ連接シテ其關係ノ點ヲ研究スルノ必要アリトハ決シテ吾人ノ腦裡ニ浮出スル

コトナシト雖トモ夫ノ醫學トハ多少ノ關係アリ故ニ之ヲ醫學ニ連接シテ觀察スルコトヲ得可シ法律學カ醫學ト關係アル所以ハ近時裁判醫學テ一種特別ノ學科ヲ生セシヲ見テ知ル可シ裁判醫學ハ刑律ノ適用ニ際シ醫學化學ヲ使用スルコトナリ蓋シ刑事裁判所ニ於テ殺傷毆打墮胎狂亂毒殺等ニ關シ事實ノ疑ハシキ場合ヲ判定スルコト實ニ尠ナカラズ此時ニ當テ裁判官ハ其事件ハ果シテ毒殺ナルヤ否ヤ毆打ナルヤ否ヤノ判定ニ苦ムハ蓋シ亦免カル可ラサルナリ此ノ如キ場合ニ於テハ到底醫學化學等ニ通曉スル人々ヲシテ之ヲ判定鑑定セシム法律ト醫學トノ關係即チ此點ニ存ス
其關係尙ホ一層甚シキモノアリ法律ト道德ト是ナリ法律學ト道德學ハ共ニ性理ニ關シ形而上ニ屬スル學ニシテ皆ナ吾人相互ノ義務ヲ示スコトヲ目的トシ其區域境界頗ル之ヲ規定スルニ苦ムモノアリ斯ノ如キヲ以テ其間ニ存スル密接ノ關係モ亦タ醫學ト法律トノ關係ノ比ニ非ラス顧フニ諸君ノ法律學上ニ於ケル智識ノ進歩ハ實ニ驟々乎タリ故ニ之ヲ其後日ニ研究セハ其關係ノ理義ヲ知ル一層容易ニシテ且ツ好結果ヲ奏ス可キヲ以テ此法律學ト道德學ノ關係ハ

之ヲ其日ニ譲リ今ハ唯々諸君ト共ニ形而上ニ属スル一派ノ學科タル經濟學ト
法律學ノ關係ヲ研究セントスルノミ
試ミニ經濟學ト道德學トニ就キ諸君ノ學識ノ厚薄多寡ヲ論セハ恐ラク諸ノ學
識ハ經濟學ヨリモ道德學ニ多キコト辨チ俟タサルナリ蓋シ道德學ハ必竟已レ
ノ心情ニ關スルモノニシテ且殊ニ有名ナル大儒孔孟ノ經書アリテ幼時ヨリ頗
フル研究スル所アリシニ由ラン然ルニ夫ノ經濟學ハ其思想ヲ舶載シテヨリ年
イマタ久シカラズ隨テ之ヲ研究スルノ時日モ猶ホ淺キチ以テ其思想ニ乏シト
云フモ蓋シ經言ニ非ラサルナリ是ノ故ニ爰ニ之ヲ論スルハ諸君ノ爲メ裨益ス
ル所アル可キハ余カ自ラ信スル所ナリ今先ツ經濟學ノ何タルコトヲ明ニセ
ン

經濟學トハ一般ノ富ヲ講究スルノ學ナリ
余カ所謂一般ノ富トハ彼ノ無形人即チ政府ノ富ヲ指稱スルニアラサルナリ凡
ソ政府ト人民トハ同一物ニアラス故ニ政府富テ人民貧シキコトアリ又人民富
テ政府貧キアリ假令ハ專制政府カ苛稅ヲ歛徵スルコトアレハ國庫ハ爲メニ一

時ノ富ヲ致スモ人民ハ爲メニ貧弱トナル又時トシテハ國家變亂ノ爲メ國庫ハ
空匱貧乏ナルモ人民尙ホ殷富ナルコトアリ故ニ余カ一般ノ富ト云フハ國民全
般ノ富ノ義ト知ル可シ

今日本ニ就テ云ヘハ日本國民カ物ノ有形無形ヲ間ハス總テ幸福利徳ニ浸潤シ
所謂食足り家給シ千事萬般都テ不足ナキトキハ公衆富メリト云フ可シ然レト
モ一國富メリトスルニハ一二ノ例外ヲ除クノ外坦然トシテ全國一般ニ充足セ
ルヲ要ス故ニ國中ノ一部分充足シテ他ノ一部分ノ不足スル場合ニハ之ヲ稱シ
テ公衆ノ殷富トハ云フヲ得サルナリ

爰ニ歐洲ノ一部分ヲ占メタル邦國アリ此國ヤ其境域頗ル廣大ナリト雖トモ之ヲ
領スル者ハ僅々ノ人ニ過キス人民ハ皆テ借地人ナリ而シテ此等ノ土地所領人
ハ獨リ自ラ富ミ其他ノ人民ハ皆貧苦ニ陥レリ此ノ如キ國ニ於テハ決シテ富メ
リト云フヲ得ス其國ハ何レソ曰ク英國ノ一部分ナル愛蘭土即チ是レナリ此愛
蘭土ハ元ト英國ニ屬セシモノニアラサリキ又地面上ヨリ觀察スルモ甚々遠隔
ノ土地ナリ然ルニ夙ニ英ハ數名ノ豪家カ其土地ヲ所有シ借地人チ苛虐シ自ラ

有形無形ノ富ヲ專領セリ是ヲ以テ近來借地人ハ之ヲ不當トシ將ニ爲ス所アラントスル者ノ如シ

此愛蘭土ノ有權ヲ日本新維以前ノ當時ニ比較スレハ稍ヤ相似タルノ形情アリ當時日本ニハ諸侯全國ヲ分割シテ之ニ據リ諸侯各々自ラ其利益ヲ專ニシテ而シテ中央政府ハ殆ト之ニ關涉セサルモノ、如シ然レトモ日本諸侯ハ其借地人ヲ苛虐ニセス又不當ノ利益ヲ壟斷セサルカ故ニ此點少シク彼ト異ナル所ナリト雖トモ其土地ヲ分割領有セシ點ハ殆ント相全シキナリ

却說經濟トハ富ヲ得ルノ道ニシテ此道ヲ行ケハ富ヲ致ス可ク彼道ヲ履メハ富ニ害ナシト互ニ其富ムヘキ道ヲ求メ害ヲ免カルヘキ道ヲ講スルノ方法ヲ云フモノナリ

此經濟學ノ開祖者トモ稱スヘキハ英人アダムスミス氏ナリトス此人ノ所說ハ經濟學ノ法典トマテ稱セラレ大ニ世人ノ尊崇ヲ受ケ今日經濟家ノ泰斗ト仰カレ、ニ至レリ而シテ同氏ハ此經濟ナル字義ヲ解釋シテ曰ク經濟ハ一國ノ富ヲ致スノ學ナリト此格言ハ後人敢テ異議スル者ナク猶今日ニ存セリ

此ノ如ク經濟ノ字義ヲ解釋シ來レハ諸君或ハ云ハン法律ハ素ト是レ富ヲ致スノ學ニアラス然ルニ之ヲ以テ經濟ト關係スル處アリトハ抑何シヤト余ハ之ニ答テ曰ハノ法律モ亦富ヲ致スノ具ニ過キスト何トナレハ法律ハ人間相互ノ爭訟ヲ停メ平安ヲ維持センコトヲ目的トスルモノナリ夫ノ財產ニ債權ニ利益ニ身體ニ生命ニ苟モ各自富ヲ至スノ要具ヲ掠奪傷害シ若シクハ妨碍スル者アレハ法律ハ銳意其掠奪傷害ヲ斥ケ障碍危險ヲ遠サケ以テ經濟ノ進歩ヲ看護スルニ非ラスヤ故ニ到底法律ハ富ヲ致スノ目的ナリト解釋ス可シ要スルニ法律ヤ經濟ヤ皆之レ爭ヲ目的トシテ成立ツモノナリ余カ講說ノ主格ト爲シ私法ハ私ノ爭ヲ決スルヲ目的トシ而シテ夫ノ經濟ハ公ケノ爭ヲ目的トス然レハ法律ノ關スル所ハ大ニ經濟ト其趣ヲ異ニセリ法律ハ實ニ人民ノ利益ヲ扶助スト雖トモ又之ヲ害スルコトアリ蓋シ國家ノ安寧秩序ヲ保護シ人民一般ノ利益ト幸福トヲ増進センカ爲メニ或ル事ヲ爲スヘシト令シ又ハ爲ス可ラスト禁シ以テ一私ノ利福ヲ得セシメサルコトアリ此禁制ト命令トハ社會公益ノ爲メ之ナカル可ラス又其必要アリ故ニ法律ニ於テ此禁ト令トノ二箇ナクシハ吾人ノ所有權ハ

兇惡暴戾ノ爲メニ侵掠セラレテ一日モ其堵ニ安ニスル能ハス又契約ノ如キモ強者ハ弱者ヲ輕侮シテ長者ハ幼者ヲ欺瞞シ權義倒行スルコトアラン又或ハ強暴詐欺ノ爲メニ約諾スルコトアラン是ヲ以テ法律ハ此ノ如キノ兇者ヲ斥テ善良ナル人民ノ安全ヲ保護ス故ニ時トシテ法律ハ一個人ノ利益ヲ害スルコトアリト云フモ過言ニアラサルナリ然トモ經濟ニ至リテハ人民ノ利益ニ干渉シテ之ヲ禁制シ若クハ命令スルカ如キコトアラス唯其利益ヲ生ス可キノ道理ヲ指示スルニ過キサルナリ而シテ此指示タルヤ必ス此ノ如ク爲ス可シト強制スルヲ要セス外國ノ事ハ暫ク措キ内地ノ事ニ就キ概説センニ内地ノ工業者カ各自奮テ相競争スルコトアリ此競争ヲ決シテ干渉ヲ要ス可ラス否ナ自由ニ放任セハ必スヤ至大ノ富ヲ増殖シ經濟ノ進歩ヲ來タスハ吾人カ既ニ知ル所ナリ若シ之ニ干渉シ此事業ハ何人ニ限リ此行爲ハ何人ニ許サスト人ニ依リ事ニ依テ其事業其利益ヲ專得セシメンカ社會ノ經濟知ル可キノミ故ニ經濟ニ付テハ其競争ヲ自由ニ放任スルトキハ其進歩ヲ發々乎トシテ止マルヲ知ラサルナリ乞フ今一例ヲ以テ之ヲ證セン當今農業利益ハ遙ニ商工業ノ上ニ在リ是レ他ナシ商

經濟ハ自由ナルサ
ル可ラス

工業ハ一舉一動常ニ法律ノ束縛ヲ受ケテ自由快活ナル能ハストイヘトモ農業ニ至テハ敢テ法律ノ干渉ヲ受ケス自由自在ナルヲ以テ終ニ自ら進歩發達シテ富ヲ致スニ至レリ

商業ニ於テハ民法編纂以前ニ在テ甚々鄭重ナル方則ニ束縛セラレテ五穀ノ如キハ一地方ノ外ニ輸出スヘカラサル制アリタリ故ニ偶々其地方ノ豊稔ニ會スレハ其收穫大ニ倍徒シ隨テ供給願ニ増加シテ需用之ニ稱ハス其極遠ニ大ニ價格ノ下落ヲ見ルニ至ル之ニ反シ同時ニ他ノ地方ニ在テハ偶々凶歉ニシテ五穀稔ラス價格非常ニ騰貴シ民飢ハ人凍フルニ至ルコトアリ國ヲ同フシ地ヲ異ニシテ而シテ此ノ如キ不平均不便利ナル現象ヲ呈出スルコトアルハ何ソ蓋シ輸出入ヲ制禁スル干渉ノ結果ナリ然レトモ當今此ノ如キ束縛ナク東西交通頻繁ニシテ且ツ自由ナルカ故昔時ノ如キ現象ヲ呈出スルコトナカル可シ上ノ理論ハ獨リ一地方ノ豊稔ト兇歉トノミナラス國ト國トノ間ニ於テモ亦大同一理ナリ今日日本ニ凶歉ノ年アリト假定セヨ此場合ニ於テ若シ外交貿易ノ自由ナルアラハ我ニ足ラサル物ハ自然外國ヨリ輸入スルヤ必セリ而シテ其輸入

物タル最初ニ在テハ需用多キカ爲メ價格或ハ低廉ナラスト雖トモ次第ニ供給ノ増加スルニ至リ以前ノ價格ハ自然下落スルニ至ル而シテ若シ其價格際限ナク下落スルノ傾向ニ至ルトキハ外商ハ供給ヲ止メ輸入ヲ減スヘシ然ルトキハ其價格ハ敢テ最下點ニ低落スルニ至ラスシテ中途ニ止マリ克ク其平均ヲ保ツ可シ斯ク價格ニ偏輕偏重ノ差ナク自ラ其平均ヲ得ルニ至ル所以ハ敢テ干涉スルコトナク自由ニ放任スルノ結果ナリ又工業ニ於テモ然リ佛國今ヲ距ル一世紀前ニ於テハ甚タ不完全ナル法律アリテ工業ヲ營ムニハ相當ノ試驗ヲ受ケ且ツ官府ノ允許ヲ受クルニアラサレハ之ヲ行フヲ得ス而シテ此試驗タルヤ其至難ナル恰モ法律ノ至難ナルカ如ク大ニ學識アルモノニアラサレハ容易ニ及第スルコトヲ得サリキ是ヲ以テ工業ヲ爲サントスル者甚ク少ナク一方ノ餘地ハ之ヲ開クモ他ノ一方余地ハ蔽塞シ爲メニ工業者奮發競争スルノ力ナク他ノ諸國ニ在テハ經濟上見ルヘキノ進歩アルモ獨リ佛國ハ萎靡振ハサルノ景況ニ立ナ至レリ

ノ代書師若クハ公證人ノ如ク之ニ就職セシメ而シテ其一人ノ死去スルカ或ハ其他ノ事故アリテ退職欠員スルニ非サルヨリハ他ノ者ヲシテ此職ニ就クヲ得セシメサリキ此患害ノ結果遂ニ莫大ノ影響ヲ工業上ニ及シタリ例ヘハ日本ニ於テ絲ヲ繰リ織ルノ工人ハ一郡ニ何人一區ニ幾人ト其員數ヲ限定シタリト假定スルトキハ國中何百千人ノ工人アルモ其職業ハ獨リ此等數人ノ專獨スル處トナリ其幾百千人ノ工人ハ之ト競争セントスルモ能ハサルカ故ニ需用多クシテ供給足ラサルノ結果必スヤ價格騰貴シテ其平均ヲ失スルノ現象ヲ呈出スヘシ然レトモ之ヲ自由ニスルトキハ此患害ナク克ク其平均ヲ得ヘシ以上講述スル所ニ由リ之ヲ約言スレハ法律ハ其性質禁ト令トノ二點ニシテ經濟ハ自由ノ一性質ナリトス故ニ農タリ工タリ若シハ商タルヲ論セス經濟上ノ主義ハ皆ナ自由ナラサルヘカラス然レトモ或ル場合ニ於テハ禁令セサルヘカラサルコトアリ即チ他ノ自由ヲ妨害シ不正ノ行爲ヲナストキ是レナリ然レトモ尙ホ經濟ハ自由ナリトノ理論ヲ妨ケサルナリ蓋シ自由ヲ妨害シ不正ノ行爲ヲ爲スヲ停止スルハ法律ノ預ル處ナリ而シテ此禁令ハ其制文ヲ法律ニ掲ク

ルモ經濟ニ在テハ素ヨリ關スル所ニアラサルカ故ニ此等ノ制文アルコト無
シ
今夫レ經濟ノ奧義ヲ知得スルハ法學者ノ欠クヘカラサル事ニアラス裁判官ニ
マレ辨護士ニマレ只其大要ヲ知ルヲ以テ足レリトス然リト雖トモ夫ノ立法官
ニ於テハ之カ深旨ヲ知得スルハ緊要欠ク可ラサル所ノモノナルコトヲ知ル可
シ
今一例ヲ舉テ之ヲ徵セン昔時世人カ法學士ノ淵藪ト稱道シ其格言等ハ今ニ尊
崇セラレ實ニ法律ノ元祖ト呼ハレタルハ即チ羅馬並ニ其國ノ法學士ナリ此國
ハ斯クマテニ法理ニ明ニ律意ニ達スル學士ノ多キニ似合ハス經濟ノ學術ニ至
テハ之ヲ知ル者寥寥トシテ有ルコトナシ假令僅々之アルモ皆多クハ腐陳誤謬
ノ說タルニ過キサルナリ然レトモ尙ホ法學士ノ淵藪ト稱セラルハナリ
又佛國ニ於テ慣習法ノ行ハレシ古キ時代ニ在テハ其法學家中ニモ有名ナル博
識士アリ此等學者ノ論述ニ係ルモノニシテ今日法律上參考ノ良材トシテ存ス
ルモノ少ナカラス然レトモ當時經濟學者ニ至テハ殆ト之ナク偶マ之アルモ誤

謬ノ妄誕ノミ然レトモ其當時ニ在テハ法學士ハ甚々多ク且殆ト學士ノ名ニ背
カサリシ是ニ由テ之ヲ觀レハ法學者ハ敢テ經濟ノ深奧ヲ知ルヲ要セサルカ如
シ然リト雖モ立法者ニ在テハ必ス其深旨ヲ熟知セサルヘカラス何トナレハ其
法ノ司法ニ關スルト行政ニ關スルトチ問ハス苟モ法律ヲ以テ經濟ノ(即チ自由
區域ニ侵入スヘカラサルハ深ク立法者ノ戒ムヘキ所ナリ而シテ其區域ニ侵入
スルコトヲ避ケント欲セハ經濟學ヲ知悉セサルヘカラス
凡ソ佛國現時ノ民法ハ今ヲ距ルコト數十年ノ昔ニ編成サレタルモノナリ而シ
テ當時議院ニ就テ爲セル討論ヲ見ルニ委員ノ論議中往々經濟ノ點ニ注目シ或
ル事ヲ禁スレハ經濟ニ害アリ或ル事ヲ除カサレハ經濟ニ利ナシ等ノ語氣ハ其
外ニ溢レタリ是當時ニ在テ已ニ經濟ノ立法上ニ必用ナルコトヲ感知シタル萌
芽ヲ發生セシヲ知ルニ定ル今日ニ至テハ此民法中多少ノ改正ヲ要スルモノア
リ而シテ此改正ハ多クハ經濟上ノ點ニ出ルヲ見ルコトアルヘシ
佛國民法ハ編制以來多少ノ改正ヲナセル箇條アリテ而シテ其改正ノ箇條ハ多
クハ特別法トナセリ之ヲ特別法ト爲セシハ敢テ別個ノ條目トナササルヘカラ

サルノ必用アルニアラス唯民法ノ箇條中ニ入ルコトヲ得サル困難アルカ爲メ
ノミ而シテ此改正ノ數ヶ條ヲ觀ルニ多クハ經濟ノ點ニ傾向スルモノ、ノ如シ
今茲ニ其著シキ二例ヲ舉示セシ

第一不動産ノ讓渡ニ關スル一箇ノ改正ニシテ即チ登記及ヒ公示ノ方法はレナ
リ此ノ法律ハ公益ヲ保護スルニ出テタルモノナリ(筆記者曰ク日本ノ登記法モ
亦然リ)何トナレハ今登記其他公示ノ方法ナキトキハ前ニ已ニ隱秘知ルコトヲ
得サルノ獲得者アリシ爲メ後ニ獲得シタル者ハ前獲得者ノ爲メニ突然其獲得
シタル物件ヲ追奪セラレ不應ノ損害ヲ受ケン夫レ苟モ此ノ如クンハ人各々危
懼シ願慮スルノ念ヲ抱キ容易ニ獲得セス遠ニ社會貨物ノ流通ヲ蔽塞スルニ至
レハナリ世人カ此法律ヲ稱シテ經濟ニ出ルノ改正法ナリト云フハ實ニ至當ノ
解釋ト云フヘシ斯ク論シ來フハ諸君ハ疑ヲ懷キ言フ者アラン曰ク此法律ハ即
チ命令ノ法律ナリ而シテ汝ハ前段ニ於テ經濟ハ自然ニ放任シ敢テ禁令スルモ
ノニ非スト云ヘリ然ルニ斯ノ如キ命令ナル法律ヲ目シテ經濟ニ出ルト云フハ
實ニ自家撞着ノ解釋ナラスヤト然レトモ是レ決シテ前後撞着ノ解釋ニアラス

何トナレハ(一)假令此ノ方法ハ經濟上ノ理由ヨリ出ツルニモセヨ私取則チ一個
ノ法律ナリ故ニ此命令ノ威力ヲ生スルハ獨リ法律ノ力ニシテ經濟ノ預ル所ノ
モノニアラス故ニ敢テ前説ニ抵觸セルモノニアラサルナリ(二)人若シ政府ニ仕
ヘハ其間其職ニ相當スル官服ヲ着ヌ可シト雖トモ一朝其官職ヲ辭スルトキハ
之ヲ服スルコトヲ許サス若シ之ヲ許ストキハ或ハ官ニ僭擬シテ世人ヲ欺瞞ス
ルノ虞アルノミナラス遠ニ官民ノ序ヲ失スルニ至ラン然レトモ之ヲ以テ經濟
上ノ干渉ナリトハ云フ可ラサルナリ又賈買贈與ニ於テモ爾リ若シ他人ニ物件
ヲ讓渡シタルノ後ハ其物件ヲ所有スルヲ得ス故ニ其讓渡ヲ世人ニ知ラシメサ
ルヘカラス若シ之ヲ世人ニ知ラシメサレハ遠ニ此空虛ノ所有權ハ詭託ノ媒介
トナルコトアルヘシ是故ニ之ヲ世人ニ公示セシム何シ之ヲ以テ干渉ナリト云
フヲ得ンヤ是ニ因テ諸君ノ疑團ハ自ラ氷釋セシナラン

第二今ヲ距ルコト四十年民法ノ濫觴ニ關スル法則ヲ補充セシモノアリ今其一
ヲ例センニ甲者ノ土地ニ冠漚シタル惡水ヲ他ニ流下セサルヘカラサル場合ニ
於テハ其隣地即チ乙者ノ土地ニ水路ヲ開設シテ之ヲ他ニ流下セシムルコトヲ

(法律ト經濟トノ關係)



得隣地ノ所有者乙者ハ決シテ之ヲ拒ムヲ得ス(但シ相當ノ價金ヲケレハ出來ス)此方法モ亦々法律ニシテ所有地ニ向テ其服従スヘキコトヲ命令スルモノナリ(筆記者曰ク我民法財産編第二百三十四條ニモ亦々此規定アリ)而シテ此法律ノ理由經濟上ヨリ出テタルコト明カナリ何トナレハ今土地ニ惡水流水ノ通路ナキトキハ其水土地ヲ浸害シ土地ハ爲メニ耕耘ノ用ニ供スルヲ得ス遂ニ荒蕪ノ地トナラン是レ大ニ經濟ニ影響ヲ及ホスヘシ今隣地ハ其通路ヲ供スルノ義務ニ服シ土地ノ利益ヲ減縮シ多少ノ損害アルヘシト雖トモ之僅少ノ損害ナリ彼ノ惡水湛テ洩下スルコトナキ土地ノ大害ニ比スレハ其利害ノ月鑑自ラ判然タリ故ニ法律上此ノ如キ規則アルハ經濟ノ理由ニ關スルコト明知スルニ足レリ試ニ土地水患ナク悉ナク耕耘ニ適スト想像セン收穫物自ラ繁殖ス可シ收穫物繁殖スレハ隨テ社會經濟ノ點ニ好結果ヲ及スヘシ最モ法律ノコノ點ニ注目セル所以ナリ

佛國ノ此規定ハ佛民法中最モ新シキモノナリ其他各國ニ於テモ此類枚舉ニ違アラズ就中以太利ニ於テハ此ノ流水ノ自由ヲ規定セルハ往昔ニアリテ佛國ノ獨定ニ先ツコト莫ニ違シ立法上經濟ノ必用ナル夫レ此ノ如シ立法者タル者豈注意セスヤテ可ナランヤ余ハ前段ニ於テ立法者ハ必ス經濟ノ深旨ヲ熟知スルヲ要スト雖トモ佗ノ法學者立法者ノ如ク深キ關係ヲ有セスト曰ヘリ夫レ然リ然レトモ法學者ハ毫モ之ヲ知ルノ必要ナシト云フニアリサルナリ法學者コソ之カ大要ヲ知得スルトキハ制法ヲ解釋スルニ當リテ大ナル便益ヲ感スルナリ夫レ天下如何ニ善法嘉律典型アリト雖トモ天下萬般ノ事ヲ網羅シテ洩スコトナキカ如キコトハ決シテ人定法ノ克クシ得可キ所ニアラス時ニ不備ナルアラノ時ニ欠典ナルアラン不備欠典ノ場合ニ於テ法學者カ解釋ヲ下スニ當テハ多少法學ノ原則ニ準据スヘシト雖トモ又須ク立法ノ精神ニ汚リテ解釋セサルヘカラス故ニ道德ノ事柄ヲ含蓄スル法律ハ其法律ノ精神ハ道德ニ基因セルモノナリト解釋セサルヘカラス

例ヘハ民法ニ詐僞ニ因テ爲シタル契約ハ無効ナリトアリ此ノ詐僞タル素ヨリ眞實ニ反シ道德ノ擯斥惡所爲ナリ故ニ法律上斯ノ如キ場合ヲ解釋スルニハ是レハ正實ノ所爲ナリ又ハ詐僞ノ所作ナリトニ道德ニ依テ穿鑿セサルヘカラス

ナルカ如シ
 管ニ道德上ノヨナラス經濟上ニ在テモ亦然リ或ル條款中經濟ニ關スル規定ア
 ランカ先ツ其規定ハ如何ナル點ニ於テ經濟ト關係アルヤヲ見テ解釋セサルヘ
 カラス若シ法學者ニシテ經濟ノ理ニ關クシテ茲ニ及フコトヲ得サルトキハ其
 解釋上甚不便ナルヘキナリ故ニ曰ク經濟學ハ只ニ立法者ノヨナラス法學者ニ
 於テモ亦必要ナリト
 而シテ余カ爰ニ此二箇ノ意義ヲ比照シ其密着ナル關係ヲ講究スルハ實ニ立法
 上欠クヘカラサルノ要件タリ管ニ立法上ノミナラス講法上ニ於テモ必用ナキ
 ニアラス何トナレハ制法ノ精神ハ多クハ經濟ノ點ヨリ起因ス然ラハ是ヲ解釋
 スルニハ經濟ノ何タルヲ知ラサレハ其制法ノ精神ヲ解釋スルニ困難ナレハナ
 リ
 經濟ナル語ハ前已ニ解釋セルカ如ク一般ノ富ヲ致スノ意義ナリトス然レトモ
 其富ヲ致スノ方法ニ立テ入りテ之ヲ區別スレハ又多少ノ小區別アリ今古來學
 者ノ採用スル所ニシテ且ツ余輩カ確實ナリトシテ贊成スル所ノ區別アリ

經濟學ノ
 分類

第一 生産
 第二 流通
 第三 配當
 第四 消費
 此消費ノ部門ニハ供給ヲモ含蓄スルモノトス何トナレハ消費ト供給トハ恰モ
 車ノ輪ニ於ケル鳥ノ翼ニ於ケルカ如ク密着ノ關係ヲ有スレハナリ
 右ハ世上一般ニ採用セル經濟學ノ分類ナリ然ルニ此四箇ノ分類ニ人口論ヲ附
 加シテ第五ノ部類ト爲ス者アリ寔ニ一國ニ於テ人口ノ繁殖及ヒ減少ヲ研究ス
 ルノ切要ナル固ヨリ言チ俟タズ若シ人口漸次ニ減少センカ遂ニ一國ノ喪亡ヲ
 致スコトアリ經濟學ハ則チ其原因ヲ研究シ之ヲ防止スルノ學ナリ
 又若シ人口ノ繁殖迅速ニ過キンカ國民ヲシテ生活ニ困難ナラシムルアラシ
 濟學ハ又則チ其生産ノ道ヲ獎勵シ止ムチ得スンハ人民ノ移住ヲ促スコトアル
 可
 然レトモ之ヲ他方ヨリ考察スルトキハ人口ノ多寡ハ一國ノ消費若クハ配當ニ

(法律ト經濟トノ關係)



關係スルヲ以テ特ニ第五ノ部類ト爲サスシテ第三又ハ第四ノ部類ニ從屬附加シテ論スルコトヲ得可シ故ニ余ハ別ニ之カ部門ヲ設クルコトヲ爲サ、ルナリ其詳細ハ後段ニ至テ述シ

此ノ人口ノコトニ付キ制文律上ニ其方法ヲ規定セリ即チ民法人事編中婚姻ノコトニ關スル法則是レナリ然レトモ法律カ人口増殖ノコトニ干渉シテ吾人ニ婚姻ヲ獎勵シ而シテ之レカ賞罰ヲ施行セルカ如キハ佛國ニモ日本ニモ未ダ曾テ有ラサルナリ往昔羅馬ニ一種ノ奇法アリタリ其奇法トハ他アラズ當時其國戰亂ノ爲メ國人遠征シテ久シク軍旅ノ中ニ在リ其他戰事ノ爲メ妻ヲ娶ルコト能ハスシテ男子ハ一生ノ獨身ニシテ空ヲ終フル者比々皆是ナリキ斯クテハ自然人口生殖ノ根原ヲ斷絶スルノ憂アルヲ以テ茲ニ法律ヲ制定シ婚姻シテ以テ子孫ヲ繁榮セシメタルノ者ハ之ヲ嘉賞シ婚姻セスシテ獨身ナルモノハ之レヲ責罰シ一ニ人口ノ繁殖ヲ務ムルニ惟勞セリ今日ノ開明社會ニ在テハ此ノ如キ奇法ハ其痕跡ヲ絶チ又之アルコトナシト雖トモ婚姻ノコトニ關スル制文律ハ人口ノ増減ニ多少ノ注意ヲ爲シタルハ疑ナカル可シ

斯ノ如キ奇法ハ敢テ詳説スルノ要ナシト雖トモ參考ノ爲メ一言スヘキモノアリ羅馬ハ當時人民ヲ有妻者ト無妻者トニ區別シテ婚姻ヲ勸奨シ又權利ヲ有子者ト無子者トニヨリテ區別シ以テ相續人タルヘキ子ヲ有スル者ヲ尊崇シタリキ之レヲ約言スレハ左ノ三級トナル

第一 有妻子者

第二 有妻無子者

第三 無妻子者

右三級ニ區別シ而シテ其階級ニ依リ各々其族權ヲ異ニシタリ前段ニ一言セシカ如ク人口ノコトヲ獨立ナル一種別トシテ經濟ノ部門ヲ五箇トナスハ余ノ採ラサル所ノモノナリ余ハ經濟上ノ區別ハ到底四箇ニシテ此人口ナルモノハ或ル部分ニ含蓄スヘキモノナルコトヲ信ス乞フ重テ之ヲ説明セ即チ第一生産ノ部分及ヒ第二融通ノ部分ニハ左程關係セスト雖トモ第三配當ノ部分ニハ包含スヘシ何トナレハ人口多クシテハ勢力ニ配當スル賃料低廉ナルヘク人口寡ナケレハ其配當ノ賃料高額ナルヘケレハナリ是レ大ニ人口ノ多

少ニ關係スル所以ナリ第四消費ノ部分ニモ亦大ニ關係スル所アリ何トナレハ人口多クハ消費多カルヘシ人口少クハ消費随テ少ナカルヘケレハナリ是ヲ以テ人口ヲ獨立ナル部門ニ置クコトヲ要セザルナリ

此ノ如經濟ニハ四個ノ區別アリテ存スルナリ此區別唯經濟ノヨナラス法律上ニモ亦自ラ其區別アリ例ヘハ私法中ニ人事ト財産トノ別アリ又其財産中ニハ種々ノ區別アリ而シテ本題ヲ解釋スルニハ下ノ二法アリ第一法律上ノ區別ヲ採テ經濟上ノ區別ニ比照ス第二經濟上ノ區別ヲ以テ法律ノ區別ニ比照ス是レナリ余ハ第二ノ方法ニ隨ハン

經濟上ノ區別ヲ以テ法律上ノ區別ニ比スルニ又二箇ノ方法アリ其一ハ先ツ民法ヲ通覽シテ此ケ條ハ殖産ニ關シ又此ケ條ハ融通ニ關スト初條ヨリ一々其關係スル所ニ隨ヒ之ヲ經濟ノ部門ニ比照シ夫ルノ方法ナリ此方法タルヤ實ニ粗莽ニシテ且ツ煩雜ナルモノナリ他ノ一方法ハ之ト異リ先ツ細カニ法文ヲ玩味シ生産ニ關スル者ハ部類ハ生産ノ部類ノミ融通ノ部類ハ融通ノ部類ノミト第一部ヨリ漸次比照シ了スルノ方法ナリ余ハ第二ノ好法ヲ撰テ説明セントス

生産

第一 生産

生産トハ吾人ハ或ル物品ニ已レカ勞力ヲ加ヘテ需用ニ適合シ價格ヲ生ゼシムルノ謂ナリ夫ノ天然ノ産物ハ吾人之ヲ創造スルコトヲ得ス看ヨ微々タル路傍ノ菜草ト雖トモ人ノ得テ産出シ得キ處ニ非サルナリ故ニ經濟上ノ所謂生産中ニハ天然ノ産物ハ包含セス唯々或ル物品ニ人ノ勞力ヲ加ヘテ需用ト價格ヲ生ゼシムル之ヲ生産ノ道ト云フナリ

故ニ生産ニハ第一吾人ノ心力ヲ役シ形體ヲ動かサハルヘカラス例セハ人アリ山林若クハ原野ヨリ所有主ナキノ土石若クハ竹木運搬シ來リテ一字ノ家屋ヲ構造セリト假定セン此場合ニ於テ其人ハ土石竹木ヲ製作セシニ非ス其天然ノ物品ナル竹木土石ニ已レ勞力ヲ加ヘテ始メテ此ノ要用ニシテ且ツ價直アル家屋ヲ構造スルニ至リシモノナリ是ヲ以テ物品ニ價格ト需用トヲ生ゼシムルニハ吾人カ勞力ニ起源スルヲ觀ルニ足ル

此類ノ例題ハ敢テ之ヲ往時ニ求ムルヲ要セス佛ニモ日本ニモ如此ノ類例ハ屢之ヲ見ルコトヲ得可シ即チ山崖崩レテ巖石道路ニ充塞シ土堤壞テ土砂通路ニ

(法律ト經濟トノ關係)



所有權

堆積スルカ如キ際ニ當リ其所有者ナクシテ之ヲ運搬シ又ハ破碎シテ家屋ノ建造其他ニ使用シテ需用ト價格トヲ生セシムルモ何人モ之ヲ故障スルコトヲ得ス蓋シ其人ハ先占ニ因テ所有者トナル可クレハナリ

此ノ如ク家屋建造ノ材料トナル所ノ土石ハ之ヲ稱シテ資本ト云フ抑モ此資本ナル意義ハ單ニ金錢ヲ指シテ云フノミニアラス苟クモ各人カ作業上欠クヘカラサルノ物品ハ皆之ヲ資本ト云フナリ假令ハ今此卓上ニアル瑣々タル小器トイヘトモ各人ニ必用ナレハ之ヲ稱シテ資本ト云フ故ニ資本ナル意義ハ金錢ナル狹隘ノ意義ニ非スシテ廣ク業作上ノ用品ヲ指稱スルナリ

已ニ所有主ナキ資本ニ自己ノ勞力ヲ加ヘタル以上ハ其物上ニ所有權アルコトハ實ニ道理ノ然ラシムル所ナリ今一例ヲ舉テ更ニ之ヲ詳ニセン漁夫アリ海草ヲ編ミテ一箇ノ網ヲ製シ樹木ヲ斫テ一個ノ舟ヲ作レリトセン此網此舟ノ漁夫ニ屬スルハ言ヲ俟タサルナリ而シテ今又此舟ヲ泛ヘ此網ヲ下シテ魚類ヲ漁セハ其魚類亦タ漁夫ノ所屬タリ而シテ又其所有ノ魚類ヲ以テ米穀其他ノ物品ト交換セハ其米穀其物品ノ亦タ漁夫ノ所有ナルコト瞭然ナリ斯ノ如ク資本ニ各

自ノ勞力ヲ加ヘテ得タル物品即動産ニ所有權ノ有ルコトハ道理ニ適シ古來未ダ曾テ非難スル者アラス

然レトモ不幸ニシテ土地ノ所有權ニ至テハ古來往々異說ヲ唱フル者アリ其說ニ曰ク土地ハ確然トシテ始終定處アリ又際限アルノ物件ナリ加之ナラス別ニ吾人ノ勞力ヲ用ヒスシテ天然ニ價格アリ又需用アルモノナリ故ニ道理上動産ノ如ク所有權ヲ有シ得ヘキ物件ニ非ルナリ然ルニ法律ハ之ニ所有權アリト規定シ以テ自ラ得色アルハ不正モ亦太甚シカラスヤト此謬說淺解ハ猶或ル經濟學士ノ口吻ニ殘レリ抑モ法律民法取得編ニ掲ケテ所有權アリト規定シタル所以ノモノハ抑亦道理ノ存スル所アレハナリ請フ試ミニ往昔混沌ノ時代ニ溯リテ當時ノ形情ヲ回顧セヨ土地空漠ニシテ草木叢茂シ怪禽林ニ棲ミ猛獸野ニ群リ茫茫タル曠野絶ヘテ人跡ヲ見ス此時ニ當リ一人アリ猛獸ヲ驅リ荊藿ヲ芟シテ其荒地ヲ開拓シ水道ヲ開鑿シ物産ヲ殖シ或ハ畜類ヲ牧育シ魚鳥ヲ飼養シ其他百般ノ勞力ヲ加ヘテ初メテ人間ノ境界トナセシコトヲ想像セヨ斯ノ如ク所有者ナキ土地ヲ領シテ己レカ勞力ヲ加ヘタル以上ハ其所有權ヲ取得スルコト

夫ノ動産ヲ所得スルト同一ノ理コアラスマ否カ吾人ハ此ノ如クシテ所有權ヲ取得スルコトヲ知ル夫レ然リ而シテ物換リ星移リテ今日ノ社會トナリテハ所有主ナキ土地ハ政府ニ屬スルヲ以テ昔時ノ如ク各人權ニ領得スルヲ得サルニ至レリ故ニ若シ國ニ不毛ノ荒地アリテ之ヲ開墾シ己カ所有ト爲サント欲セハ先ツ政府ニ請願シテ其讓渡ヲ受ケサルヘカラサルナリ即チ日本北海道ノ土地ニ於ケルカ如キ是レナリ而シテ余カ己ニ土地ニ所有權アリト云ヒシ所以ヲ知ラントセハ前ニ述ヘタルカ如ク先ツ往昔草昧時代ノ形情ヲ回想シ全ク之ヲ領取セシハ恰モ動産ノ所有權ヲ得ルト同一轍ニ出テタルコトヲ觀ハ恐ラク土地所有權ハ不正ナリトノ感想ヲ起スコトハ非ラサル可キナリ

現今無主ノ土地ナク皆各國政府ノ所有ニ屬セリ然レトモ不毛ノ荒地ハ國トシテ之ナキハナシ彼ノ亞米利加ノ如キ中央亞細亞ノ如キ渺范數千里ニ連亘スルモノアリ故ニ偶々人アリテ之ヲ所有セメコトヲ請求スレハ最廉ノ價ヲ以テ之ヲ讓渡ス而シテ之ヲ讓受ケタル者ハ之ニ所有權ヲ行フモ誰アツテ之ヲ怪ミ之ヲ咎ムル者アラサルナリ

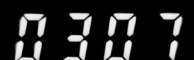
外國人ニ
土地ヲ所
有セシメ
ルノ法

要スルニ土地ノ所有者カ所有ノ權利アル所以ノモノハ最初正當ニ之ヲ領得シ或ハ之ヲ買得シ若シクハ交換シテ以テ取得シタルニ由ル決シテ不正ノモノニアラサルナリ今生産ヲ分テ左ノ三個トス第一資本第二勞力第三土地是レナリ而シテ或ハ土地ハ資本中ニ包含スヘキモノトスル學者アリ然レトモ余ハ爰ニ之ヲ區別スルヲ可トス

先ツ土地ニ付キ一言ス可キモノアリ佛國一千八百十九年以前ニ於テハ佛國ノ土地ハ内國人ノミニ限リテ所有スルヲ得之ヲ外國人ニ讓リ渡スコトヲ許サハリキ然ルニ當時財政困難ノ折柄大ニ金額ヲ要スルコトアリ遂ニ右ノ法禁ヲ解テ其財政ノ困弊ヲ救フニ至レリ日本ハ未タ之ヲ外國人ニ許サハルカ如シ佛國カ昔時ノ慣例ヲ破リテ其禁ヲ解キシハモシ其物ノ所有者死去セル場合ニ於テハ其遺産ハ土地ヲ併テ悉ク政府ニ沒収セラル民人進ンテ耕耘所有セントスルモ之カ爲メニ耕耘シ所有スルノ土地ナク遂ニ財政上ノ困難ヲ惹キ起スニ至レルヲ以テナリ

又土地經濟ニ關スル一ノ法律アリ鎮抗ニ關スル法律是レナリ此法律ニヨレハ

(法律ト經濟トノ關係)



鑛物ニ關スル法律

經令今人民ノ私有地ト雖トモ其鑛物ニ關シテハ人民ハ政府ノ認許ヲ得シテ
 檀ニ之ヲ探掘スルコトヲ得ス故ニ其鑛坑ハ所謂政府ノ所有ニ屬シ人民ハ只土
 地ノ表面ノミヲ所有スルノ權アルノミ決シテ鑛坑マテ之ヲ所有シ當然授受シ
 得キモノニアラサルナリ
 右ノ法律タルヤ獨リ佛國ノミナラス日本ニ於テモ亦之アリ抑モ此法律アルハ
 如何ナル理由ニ基クカ請フ説述セン
 夫レ鑛物ノ品類タルヤ其數甚タ多シト雖トモ皆ナ是レ社會ノ爲メ莫大ノ効用
 ナ致スモノニシテ所謂國家ノ富源ト云フヘキナリ故ニ之ヲ探掘シテ其用度ニ
 適セシムレハ實ニ社會ノ鴻利ナリ公益ナリ然レトモ之ヲ探掘シテ之ヲ利スル
 ニ至ル其間ノ困難ハ決シテ他ノ事業ノ比ニ非ラサルナリ故ニ先ツ探掘ノ方術
 精熟ナラサルヲ得ス加之之ヲ探掘スルノ費用ハ最モ巨大ノ額ヲ要ス是ヲ以テ
 凡庸人ノ決シテ成功シ得ヘキ所ニアラス夫レ然リ然ルニ之ヲ人民ノ自由ニ放
 任シ去ラハ空シク巨額ノ費用ト夥多ノ勞力トヲ爲シ而シテ一モ得ル所ナク所
 謂收支相償ヘス或ハ事業其緒ニ就カスシテ產ヲ破リ家ヲ傾ケテ先ツ倒ル、者

他人ノ土地ニ建築ヲ爲セシメル場合ノ規定

アラシテ決シテ經濟ノ利ニ非ラサルナリ是ニ於テカ政府之ニ關與シテ或ハ精
 熟セル會社ノ一手ニ受ケ負ハシムルカ若クハ政府自ラ之ニ從事スルカ其事ヲ
 鑑コセス是ニ因テ徒費徒勞ノ患ナク大ニ利益ヲ獲得シ國家ノ富源ヲシテ全カ
 ラシム可キナリ
 凡ソ鑛物ノ所有ヲシテ人民ニ放任スルノ邦國ハ未ダ曾テコレ有ラサルナリ夫
 ノ君主國ニテハ鑛坑ハ國王ニ屬シ共和國ニ在テハ國ニ屬ストノ格言ハ又以テ
 鑛坑ハ人民一己ノ自由ニ所有シ得ヘカラサル所以ヲ知ルニ足ル
 又民法中ニ經濟ニ關スル規則アリ即チ他人ノ土地ニ建物工作植付等ヲ爲シタ
 ル場合ノ規定是ナリ例ヘハ土地ノ所有主他行シテ暫時其土地ノ監守ヲ離レタ
 ルニ偶マ他人アリ來リテ自己ノ材料費用トチ以テ其土地ニ一字ノ家屋ヲ建築
 シタリシニ料ラスモ異ノ所有者其地ニ歸リ來リタル場合ニ於テハ其家屋ハ土
 地所有主ノ所有ト爲スコトヲ得ヘシ但シ相當ノ價金ヲ拂フハ勿論ナリ然レト
 モ其價金ハ家屋ヲ建築スルニ付キ用ヒタル百般ノ入費ヲ拂フニ非スタ、其建
 造セシ者カ惡意ナルトキハ土地ノ受ケタル價額ノ増加ニ關ハラス其材料ノ價

(法律ト經濟トノ關係)



土地ノ所
有者他人
ノ材料ヲ
以テ建築
シタル場

額ト手間賃トヲ拂ヘハ足レリ若シ建築者善意ナルトキハ右ノ償金又ハ地價ノ
増加額ヲ拂フカ孰レニテモ土地所有者ノ隨意ナリ日本民法ハ善意ト惡意トヲ
問ハス土地所有者ノ撰擇ヲ以テ材料及ヒ手間賃ヲ拂ヒ又ハ土地ノ増加額ヲ拂
フモノトス佛民法第五百五十五條日本民法財産取得編第十一條其基屋ハ土
諸君中本例ヲ見テ奇怪ナリトノ感想ヲ起ス者アラシカ然レトモ之經濟ノ理由
ヨリ出テタルモノニシテ敢テ怪ムニ足ラサルナリ今之ヲ土地所有者ノ所有ト
ナサス建築者之ヲ取毀ナテ佗ニ持去ル可キモノト爲ストキハ徒ニ巨多ノ費用
ヲ掛ケルノミニシテ他ニ利益スル所アラサルナリ是レ決シテ經濟ノ趣旨ニ非
ラサルナリ是レ法律ノ規定アル所以ナリ但シ土地ノ所有者其家屋ヲ所有スル
ヲ欲セス家屋建築者之ヲ望ムトキハ之ニ附與スルモ敢テ不可ナキナリ只土地
所有者ノ欲スル場合ニ於テノミ之ヲ据置シモノナリ
又右ト同一ノ精神ニ出テ、其場合ヲ異ニスル法律アリ即チ土地ノ所有者カ他
人ノ材料ヲ以テ己レノ土地ニ植付工業ヲ爲シタル場合ノ規定是ナリ例ヘハ土
地ノ所有者アリ佗人所有ノ材木ヲ持來テ己レカ地内ニ家屋ヲ建築セリトセヨ

合ノ規定

用益權
本ノ規定

此場合ニ於テハ其建築者ノ故意ニ出ツルト錯誤ニ出ルトヲ問ハス取毀テ其本
材ヲ所有者ニ返關スルニ及ハス其家屋ハ土地所有者ノ所有トナルナリ但シ木
材ノ所有者ニ相當ノ償金ヲ拂ハサルヘカラス此規定モ亦經濟上ノ理由ヨリ出
テタルモノナリ蓋シ其度毎ニ之ヲ破壊シテ木材所有者ニ返還ス可シトスルト
キハ已ニ木材ノ性質ヲ變シテ建造物トナリタル家屋ヲ無用ニスルノミナラス
之カ爲メニ要セシ費額ハ眞ニ徒費トナリ經濟上ノ大不利クレハナリ佛民法第
五百五十四條日本民法財産取得編第九條其基屋ハ土諸君中本例ヲ見テ奇怪
用益權ニ關スル規則中ニモ亦經濟上ノ理由ヨリ出タルモノアリ今其大畧ヲ摘
示セン其基屋ハ土諸君中本例ヲ見テ奇怪ニ出ツルト錯誤ニ出ルトヲ問ハス取毀
用益權ハ諸君ノ已ニ知レルカ如ク所有權ノ他人ニ屬スル物ニ付キ其用方ニ從
ヒ其元質本體ヲ變スルコト無ク有期ニテ使用及ヒ收益ヲ爲スノ權利ヲ云ナリ
此ノ權利ハ權利者ノ一生涯ニ止マリ子孫若クハ佗人ニ移轉スルモノニ非ス此
理他アラス若シ之ヲ一生ニ限ラサレハ大ニ弊害アルヲ以テナリ羅馬法學士ハ
之ヲ論セテ曰ク是レ所有權ノ無益ニ屬センヲ恐レテナリト定ニ然リ用益權ヲ

(法律ト經濟トノ關係)

地役

水ノ關スル規定

永久ニ所有權ヨリ分離シテ用權者ニ附與シ其利益ヲ專占セシムルトキハ所有權ハ有名無實其極ヤ財産ノ運轉ト起業トヲ妨クルノミナラス資本ノ改良及ヒ其增加ヲ斷テ大ニ經濟ノ不利ヲ來タスニ至レハナリ

用益權ハ用益者三十年間繼續シテ使用セザルトキハ其權當然消滅スルモノト做セリ是亦前ト同一ノ理由ニ出ツ

是ヨリ民法中地役ニ關スル規定ヲ略說セン向キニ例說シタルカ如ク隣地所有者ハ惡水排泄ノ爲メ其通路ヲ供スルノ責アルハ惡水ノ存スル土地ノ損害ト其通路トセラル、所有地ノ損害トヲ比スレハ經濟上雲泥ノ差アリ是ヲ以テ法律ハ損害些少ナルヲ捨テ、損害ノ莫大ナル方ヲ保護シタリ

又水泉ノ事ニ關スル規定アリ即チ或ル所有者ノ土地内ニ水源アリ而シテ若シ此水カ全村又ハ其住民ニ必要ナルトキハ其全村住民ハ其水ヲ汲取テ之ヲ使用スルコトヲ得而シテ水源ノ所有者ハ之ヲ拒絕シテ獨リ其利益ヲ壟斷スルコトヲ得ス是レ亦經濟上ノ利害ニ關スルニ因ルモノニシテ此規則アルハ至當ノコト、云フヘシ(佛民法第六百四十三條日本民法財産編第二百二十七條第二百二

經界ノ規定圍障ノ規定

互有壁ノ規定

袋地ノ規定

十八條參看

又相隣者ハ樹石抗材等ヲ以テ其經界ヲ定メント互ニ強要スルコトヲ得其他又分界圍障ノ分擔ヲ強要スルコトヲ得ルナリ而シテ假令一方ノ者之ヲ欲セザルコトアリトモ其費用ハ雙方ヨリ半額ツ、ヲ割合ハサルヘカラス此強要ノ規定ハ必竟佗日雙方土地境界ノコトヨリ爭論ヲ起シ爲メニ社會經濟ニ患害ヲ及ホスヲ慮カリタルモノナリ(佛民法第六百四十六條第六百五十三條日本民法財産編第二百三十九條第二百四十六條)

又牆壁アル地ノ隣人ハ其牆壁ノ厚サ又ハ高サヲ増スノ工事ニ與カラザリシト雖トモ其費用ノ半額ヲ償ヒハ其増築シタル牆壁互有權ノ讓渡ヲ要求スルコトヲ得又牆壁ニ接スル土地ノ所有者ハ其牆壁ノ價額ノ一半ヲ其所有者ニ償ヒ互有權ヲ獲得スルコトヲ得(佛民法六六〇六六一日本民法財産取得編第二百五十六條參看)

又或ル土地アリ其土地ノ四周他人ノ土地ニ圍遶ラセレ公路ニ通スルコト能ハサルトキハ其圍繞ノ隣地ハ公路ニ至ル通路ヲ袋地ニ供セザル可ラス但シ袋地

(法律ト經濟トノ關係)



土地用收

相續

ノ者ハ其公路ニ至ル距離ノ最モ近キ處ニ通路ヲ作ルヘシ然レトモ又其通路ハ隣地ノ爲メニ最モ損害ノ少キ場所ニ之ヲ作り且ツ此事ニ付キ隣地ニ生スヘキ損害ノ償金ヲ拂フヘキハ勿論ナリトス如此キノ場合ハ財産分派ノ際ニ於テ生スルコトアリ夫レ此通路ノ地主ハ之カ爲メ幾分か己レノ利益ヲ減殺セラルハナラン然レトモ其中間ニ在テ如何トモスルナキノ土地ニ比スレハ其利害霄壤ノ差アリト云フヘキナリ(佛民六八二以下日本民法財産編二百十八條以下參看)又國家ハ自ラ其利益ヲ保護スルカ爲メ吾人ノ所有地ヲ買上クルコトアリ此時ニ當テ吾人ハ之ヲ拒ムヲ得ス必ス政府ニ讓渡セサル可ラス是レ全ク社會公益ノ爲メナレハナリ假ヘハ日本政府カ北海道ニ鐵道ヲ布敷スル計畫ヲ爲シタリトセヨ此線路ニ當ルノ土地ハ悉ク之ヲ強要賣上クヲ爲スヘシ此トキニ當リ地主ハ愛惜又ハ損害ノ爲メ之ヲ欲セサルヘシト雖トモ社會一般ノ交通ヲ便ニシ大ニ富ヲ致スノ方法ナレハ必ス之カ收用ニ應セサルヘカラス又其時ニ當リ相續法モ亦大ニ經濟上ニ關係ヲ有スルナリ今生産ニ付テ云ハンニ法律ニ於テ所有權ヲ保護シテ安固ナラシメ生キテハ自由ニ使用シ收益シ處分シ又死シ

テ後ニハ之ヲ其子ニ傳ヒ又ハ其欲スル所ニ移轉スヘキカ國家生産ノ發達増進ヲ欲セサルモ豈夫レ得可ンヤ看ヨ人ハ粉骨碎身未タ須臾クモ勞働ヲ離レサルヲ寔ニ一生ノ間唯タ形ヲ使ヒ心ヲ役スルニ劇シキノミ而シテ此勞働タルヤ誰ノ爲メニ然ルヤ世上一般ノ情ヲ見ルニ唯タ己レ一身ノ爲メノミニ非ラス猶ホ子孫ノ爲メニ然ルナリ即チ財ヲ積ミ實ヲ貯ヘ子アル者ハ其子ニ傳ヒ子ナキモルチ欲スルナリ然ルニ若シ法律上所有權ノ鞏固ナル保護ナク奪掠侵害ノ横行セラルハアラハ誰カ其子孫ノ計ヲ爲サンヤ誰カ其財産ヲ改良シテ生産ノ増殖ヲ謀ラシヤ故ニ獨リ其生存中ノミナラス猶ホ其死後ノ處分マテモ自然ノ道理ニ由テ保護スルハ生産上大ニ利益アルヤ言ヲ竣タサルナリ茲ニ相續制度ノコトニ付キ一言セサル可ラス昔時佛國ハ日本相續制度ノ如ク長子獨リ相續權ヲ有セリ斯ク長子ヲシテ獨リ相續ヲ得セシタルハ遺產ヲ分割セス隨テ其費消ノ容易ヲ免レ遂ニ資本ノ區々ヲ避ケテ之ヲ廣大ニスル等ノ主意ニ起因スルモノナリ然ルニ其後佛國ハ平等

(法律ト經濟ト關係)

分派ノ却テ大ニ經濟ト道理トニ適合セルヲ知り終ニ今日ノ平等分派ノ制トナセリ惟フニ現時日本ノ長子相續制ハ或ハ夫レ眞理ニ反セルナカラシカ何トナレハ吾人人生時ノ早晚前後ヲ以テ其權利ニ差等ヲ設ケ有無ヲ限ルカ如キハ眞正ノ道理ニ背クノミナラス親タル者ノ愛情ハ長子ト次子トニ依リ厚薄アルニアラサルヲ以テナリ然レトモ又惟フニ日本制度ハ其理ノ正不正ニ關セス一ニ國風及ヒ現時ノ公益上ヨリ設定セラレタルモノナルヘシ佛國ニ於テハ之ト異ナリ其正公ナル道理ニ適ヒ兼テ公益公利ニ鑑ミテ分派相續ヲ採用セシモノナリ故ニ佛ト日本トハ法律ノ趣向ヲ異ニセルモノト云フヘシ

然レトモ佛國ノ相續制度タルヤ非難ヲ試ムル者ナキニアラス即チ平等分派相續ヲ以テ生産上ニ害アリト爲ス説是ナリ何故ニ平等ニ分配シテ相續セシムルトキハ生産上ニ害アリヤト云フニ平等分派ヲ爲ストキハ資本即チ相續財産ノ分割ヲ來タシ從來ノ工業ヲ廢スルニ至レハナリ例ヘハ甲者或ル製造場ヲ建築シ器械ヲ据付ケ盛ニ工業ヲ營ミシカ一朝病魔ノ爲メニ三人ノ子ヲ遺シテ鬼籍ニ上レリト假定セヨ若シ其三子ノ意共ニ其製造業ヲ欲セハ格別ナレトモ三人

共ニ同一ノ意望ナルコトハ殆ト之ナク一人ハ官吏ヲ欲シ一人ハ農業者タルコトヲ欲シ一人ハ工業家タルコトヲ欲シテ各々其目的ヲ異ニセンカ其製造場ハ不得已賣拂ヘ共代金ヲ三人ニ分タサル可ラス寔ニ此ノ如クナランカ工業ハ中途ニ廢タレ生産ヲ妨グルニ至ラン此弊獨リ工業ノミナラス農業等ニ至テモ亦タ爾リ即チ初メ一人ノ人カ有セシ土地カ其死去ニ依テ二人ニ分レ又四人ニ分レ五人六人ニ分レ遞次相續ニ依テ際限ナク分レ遂ニ初ノ土地ハ割テ甚盛ノ日ノ如キニ至ラン是レ生産上ノ妨害ニアラスヤト

夫レ然リ豈夫レ然ランヤ平等分派相續ハ論者ノ云フカ如キ弊害アルモノニアラサルナリ且弊害アリト假定スルモ又利益アルモノナリ理論ニ涉ルトキハ長クナル故ニ唯タ事實上ヨリ之ヲ一言センニ昔日佛國長子相續法ノ時代ニ在テハ全國ノ土地ハ凡ソ十分ノ三四セサル不毛ノ荒地ナリシカ其後平等分派ノ制度以來大ニ昔日ノ體面ヲ改メ今日ハ全國至ル處殆ソト不毛ノ荒地ヲ見サルニ至レリ而シテ其地價ノ如キモ前時ニ比スレハ三倍ノ格位ヲ加ヘ且ツ其利益ノ如キモ凡ソ十五倍ノ巨額ニ上レリ是レ悉ク平等分派制度ニ起源セルニ非サル

贈與

ヘシト雖トモ亦以テ其制度ノ之ニ利益ヲ及ホシタルノ一班ヲ觀ルニ足ル
是レヨリ歩ヲ生存中ノ贈與ニ關スル規則ニ進メテ畧説セン凡ソ贈與者カ他人
ニ或ル物ヲ贈與シタル上ハ決シテ之ヲ取還スコトヲ得加之或ル時限ニ至ラハ
之ヲ取戻ス可キノ條件ヲ贈與書ニ明言スルモ無効タリ例ヲ以テ云ヘハ甲者乙
者ニ或ル不動産ヲ贈與シ之ニ條件ヲ附シテ今之ヲ汝ニ贈與スト雖トモ若シ余
他日零落シテ赤貧洗ヒ盡シ生活ノ途殆ト之ナキトキニ至ラハ此物ヲ余ニ還附
セヨト此ノ如キ條件付ノ贈與ハ決シテ法律ノ許サ、ル所ナリ何トナレハ斯ノ
如ク受贈者ヲシテ終始義務ヲ負擔セシメハ其受贈者ハ常ニ返還ノ時期ヲ顧慮
シ此物ヲ以テ或ル事業ヲ起サント欲スルモ或ハ中途ニシテ取還サル、ナカラ
ンカト又ハ此物ヲ以テ或ル廣大ノ利益ニ換ヒント欲スレトモ突然取還ノ要求
ナカラシカト懸念セサル可ラス是ヲ以テ寧ロ抛置スルニ如カスト爲シ遠ニ貴
重ナル資本ヲ不使用ニ飯セシムルニ至ルヘシ是豈利益ナランヤ故ニ法律ハ此
制ヲ設ケテ受贈者ノ權利ヲ鞏固ニシ舊テ事業ニ從事シ以テ社會ノ利益ヲ増進
セシメントシタリ

遺贈

然レトモ遺言贈與遺贈ニ付テハ右ト異ナリ例ヘハ甲者乙者ニ向テ余カ死スル
ノ後ハ汝ニ此ノ不動産ヲ贈與セント云ヒ其後ニ至リ甲者前言ヲ食テ之ヲ取り
戻サントスルトキハ之ヲ取り戻スコトヲ得ヘシ何者遺贈ハ遺贈者ノ死後ニ於
テ始テ其効ヲ生スルモノナリ故ニ其贈與者死セサル間ハ其遺贈効果ヲ生セス
是ヲ以テ之ヲ取戻スコトハ恰モ自己ノ所有物ヲ取戻スト異ナラサルナリ是レ
其生存中ノ贈與ト遺言贈與ト其趣ヲ異ニスル所以ナリ

貸貸借

又貸貸ナルモノアリ此貸貸ハ生産ニ大關係ヲ有スルモノナリ凡ソ土地所有者
ハ已レ所有ノ土地ヲ自ら悉ク耕作シ又ハ自ら使用スルコト能ハサルコトアリ
此場合ニ於テハ其地面ヲ他人ニ貸付シテ使用シ收益セシメ其報酬トシテ若干
ノ貸賃ヲ得之ヲ貸貸ト云フナリ此貸賃ハ亦タ資本運用ノ一ニシテ生産上ニ大
ナル利益アリ何トナレハ所有者不使用ノ土地資本ヲ貸與シテ報酬ヲ得賃借主
ハ之ヲ使用シテ利益ヲ得可ケレハナリ貸賃ハ此他尙ホ配當ニ關係セリ其部ニ
至テ論セン

此他右ト同シク契約上資本ト勞力ト兩ナカラ運用スルコト往々之アリ夫ノ會

(法律ト經濟トノ關係)

會社

貸借

社ノ組織ヲ見ヨ株主ハ己カ資本ヲ出タシ役員ハ己カ勞力ヲ出シテ相互ニ利益ヲ計ルニアラスヤ之ヲ以テ是ヲ觀レハ亦資本ト勞力ト相共ニ運用スルアルコトヲ見ルニ足ル

又金錢貸借ノ場合ニ於テモ自ラ之レアルヘシト云フモノアリ眞ニ然リ貸主ヨリ之ヲ見レハ己カ資本ヲ貸與シテ幾分ノ利子ヲ得借主ヨリ之ヲ見レハ其金錢ヲ使用シテ利得ヲ計レハナリ故ニ此場合ニ於テモ資本勞力共ニ運用スト云フ可シ

以上生産ノ部ニ付テ講述セリ今他ノ部ニ移ルニ當リ前己ニ述タル所ヲ尙一應約說シテ愈ヨ詳明ナラシム可シ

向キニ說示シタルカ如ク法律ノ區別ヲ經濟ノ區別ニ照シテ講述スルノ方法アリ又經濟ノ區別ヲ法律ノ區別ニ照シテ講述スルノ方法アリ而シテ余ハ第一ノ方法ニ據テ講シ來レリ

又向キニ說示シタルカ如ク經濟上區別ノ第一ハ生産トス而シテ此生産ヲ別ケテカ資本勞力土地ノ三トス

今茲ニ資本ト云フ字義ヲ解釋セサルヘカラス抑モ此語タルヤ佛蘭西語ニ之ヲ「カピタル」ト云フ即チ頭ト云フ意義ヲ含有セリ而シテ此頭ト云フ辭ハ總テ事物ノ要處主眼ヲ指示スル名稱ナリ故ニ經濟上ニ於テ「カピタル」ト云フハ收穫物又ヒ利益ノ反射ニシテ凡テ此等ノモノヲ製出スル根本ト云フ意ナリトス

今爰ニ之レカ詳細ナル説明ヲ盡スハ誠ニ完全ナル講義ト云フヘケレトモ空ク時間ヲ費スノ恐アリ故ニタ、穫收物カ時トシテ資本トナル事柄ニ就キ略說シ置ントス

昔時ノコトハ暫ク措キ今時ニ在テハ先占ニヨリテ所有權ヲ得ルハ稀ニシテ多クハ金錢ヲ以テ賣得スル者也然ラハ則チ此金錢ハ或ル事物ヲ製作スルノ資本ナリト云フヘシ

假令ハ或人貯有ノ金千フランヲ以テ他人ヨリ土地ヲ購求シタリト假想センニ此金千フランハ則チ其人ノ資本タルコトハ誰モ怪マサル可ク蓋シ彼ノ土地ト異ナレハナリ而シテコノ資本ヲ以テ購求シタル土地モ亦チ資本タリト云フ可シ假ヘハ其土地ノ樹實ヲ以テ其土地ニ樹木ヲ栽培シタリトセヨ其生殖セル樹

木ノ苗ハ土地ヨリ生スル所ノ収獲物ナリ而シテ之ヲ生シタル土地ハ其資本ダ
 リ然レトモ右ノ場合ニ於テ樹木ノ苗カ漸々生長シテ亭々タル喬木トナリシト
 キハ此樹木ハ單ニ土地即資本ヨリ得タル収獲物トハ云ハスシテ其樹木ヲ稱シ
 テ資本ト云フ可シ
 然レトモカノ杉檜ノ苗ノ如キハ終始樹ト樹ノ間餘地ナク錯接シテ植栽スヘキ
 モノニ非ス其稍々生長スルニ隨ヒ其間隙ヲ作サンカ爲メニ採取ラサルヘカ
 ラス而シテ其採取リシ苗ハ他ニ之ヲ賣却スヘシ此場合ニ於テハ其土地ニ植付
 タル樹木ハ之ヲ資本ト云フヘキモ已ニ採取テ他ニ賣却シテ金錢ニ換ヘタルモ
 ノハ土地即チ資本ヨリ生スル處ノ利益ト云ハサル可カラス又其樹木生長スル
 ニ及ヘハ繁鬱セル梢枝ヲ伐テ之ヲ賣却スヘシ是亦利益ヲ得ルモノナリ而シテ
 節儉者ハ其賣却シテ得タル利益ハ之ヲ一時ニ費用セスシテ其幾分チ貯蓄ス此
 ノ貯蓄金ハ年チ重テ又一個ノ資本ト爲ルモノナリ
 又例ヘハ或人田地ヲ所有シ之ニ種子ヲ蒔キ米麥ヲ作ランカ是レ資本田地中ニ
 資本チ蒔キ以テ資本チ増シタルカ如シ何トナレハ其期節ニ及ハ、米麥チ獲可

ク而シテ此米麥ハ地ヨリ生スル所ノ利益ナリ此利益即チ米麥ヲ賣却シテ代金
 チ得テ貯蓄シ又ハ他ニ利用セシトセハ是レ亦資本ナリ其資本又利益ヲ生シ其
 利益又資本トナリ遂ニ轉遷シテ止マサルナリ
 凡ソ經濟上吾人ノ品類ヲ區分シテ二トス其一ハ節儉者ニシテ他ノ一ハ浪費者
 是レナリ
 節儉者トハ己レカ得タル利益ハ之ヲ實費ニ消費ススルノ外ハ之ヲ貯蓄シ以テ
 不處ノ費用ニ備フルヲ云フ例ヘハ樹木ノ苗若シクハ採其他ノ生産物ヲ蓄キテ
 得タル金圓ノ一部分ハ日用ノ實費ニ充テ爾餘ノ部分ハ貯存シテ不處ノ用途ニ
 備フル者ノ如キ是ナリ浪費者トハ之ニ反シ其得タル利益ハ之ヲ無暗ニ消費シ
 遂ニ己レカ資本マテ消費シ去ルカ如キ者ヲ云フ故ニ一年若クハ壹月内ニ瑣々
 タル利益ヲ得テ節儉貯蓄シテ不處ノ用ニ供スル人アリ又少時ニシテ莫大ノ利
 金ヲ得ルモ一瞬間ニ之ヲ消費シテ遂ニ資本ヲ失却スル人アリ是レ節儉者ト浪
 費者ノ著顯ナル分界ナリ
 夫レ國民ノ節儉者タルト浪費者タルトハ國家經濟ニ著大ノ影響ヲ及ホスナリ

是ヲ以テ國家ノ事ニ當ル者政府ハ宜シク意ヲ注キ人民ヲシテ浪費ノ弊ニ陥ラサラシメテ益ヲ節儉ニ論導シテ富國ノ道ヲ計ルヲカメサル可ラス又人民タル者モ宜シク節儉スヘシ

却説凡ソ生産ハ勞力ヲ必用トスルモ又資本ナカル可ラス故ニ勞力ヲ加ヘ得タル利益ヲ貯蓄シテ以テ資本トナシ而シテ此資本ヲ運用シテ遞轉極リナク利益ヲ爲スコトヲ計ラサル可ラス

第二流通

第二 流通

凡ソ生産ハ只財貨ヲ生出セシムルノミニシテ自ラ増殖スヘキモノニ非ス必ス先ツ其生シタル財貨ヲシテ流通セシメサルヘカラス是レ經濟上第二ノ主點ナリトス

開道ラク日本ハ數多ノ島嶼アリト是レ余カ故國ト異ナリ海中ニ孤立セル國ナルニ因テ然ルトラン今先ツ假ニ此島嶼中二三ノ島嶼ハ氣候溫和土地沃饒ニシテ五穀生殖シ他ノ島嶼ニ優レル數等ナリト假定セヨ此ノ如ク氣候溫和土地沃饒ニシテ五穀生殖セハ其人民ハ食料ニ餘贏アルヤ必セリ故ニ此ノ餘贏ノ五穀

ハ之ヲ缺乏セル他ノ諸島ニ輸出スルトキハ必ス巨多ノ利得ヲ博スヘシ然ルニモシ徒ニ之ヲ措テ秘藏シ敢テ輸出スルヲ許サハランカ其五穀ヤ空ク蠶蝕センノミ其島嶼ノ富ヲ欲スルモ豈得可ケンヤ夫レ經濟上富トシテ價格ヲ有スル物ハ互ニ交易ノ目的トナリ彼我ノ使用ニ供シ得可キ物ヲ指シテ云フナリ故ニ爰ニ琳琅ノ寶玉ヲ所有スル者アリ貧窶生計ニ苦シムヲ以テ之ヲ賣却シテ以テ糊口ノ資ニ充ントスルモ誰レ一人トシテ之ヲ買ハント欲スルモノナク遂ニ其琳琅ノ寶玉ハ壹厘壹毛ノ利益ヲモ生セサランカ斯ノ如キ不便ノ物品ハ假令ヒ琳琅ノ玉ナリト雖トモ豈此玉ヲ呼ンテ需用アリ價格アリト云フヲ得可ケンヤ獨リ玉ノミナラス今ノ島嶼ノ如キモ亦然リ其豊カニシテ餘アル五穀ヲ積ミナカラ他ニ交易スル能ハサルトキハ富ニシテ價值アル島嶼トハ稱ス可ラサルナリ

夫レ然リ其交易スヘカラサル不用ノ寶玉タルヤ只之レ瓦礫ノミナリ此理ト同シク自己ノ所有地ニ杉苗若シクハ米穀ヲ作りテ日用ニ供スルノ除ハ之ヲ他ニ賣與スルトキハ自然之ヨリ利益ヲ得而シテ其利益ヲ貯蓄シ置ケハ又資本トナルヘキナリ然ルニ之ニ反シテ其杉苗若クハ米穀ヲ賣却セス毫モ他人ノ用途ニ

供セザラシメハ其米穀ハ腐蝕シ其杉苗ハ朽敗シ遂ニ無用ノ贅物トナラン而已
 是ヲ以テ饒沃豊稔ナル彼ノ二三ノ島嶼ハ豊饒ナラサル諸島ニ劣レルノ貧島ナ
 リト云フヘキナリ何トナレハ彼ノ二三ノ島嶼タルヤ其米穀ニ至テハ或ハ豊饒
 ナラン然レトモ其地金銀材木ナケレハ假令ヒ其人民ハ腹ヲ肥ヤシテ五穀ニ飽
 キ居ルニセヨ航海ノ必要アルモ舟ヲ造ルノ材料ナク雨露ヲ凌ントスルモ家屋
 ナ建築スルノ木材ナシ偶々土石アリテ石造ノ家屋ヲ構造セントスルモ之ニ必
 要ナル粘土鐵具ノ之ナキヲ奈何セン是由テ之ヲ見レハ其島嶼ノ状態ハ最モ
 憐ムヘキ貧乏ノ境界ナラスヤ
 余今是ノ如キ例ヲ掲ケ來ラハ諸君或ハ笑テ言ハント是レ架空ノ例ナリト余
 豈空架ノ例ヲ掲ケンヤ乞フ右ノ一島嶼ヲ日本全國ニ移シテ其舊時ノ有様ヲ想
 像セヨ日本國カ曾テ鎖港絶交ノ時ニ在テハ徒ラニ海外輸出入ヲ嚴禁シ稍ヤ前
 例ニ近キノ觀ヲ呈シタルニアラスヤタハニ日本國ノミナラス昔日野蠻時代ニ
 於テハ往々他ノ邦國ニモ此ノ如キコトアリシ佛國ノ如キモ昔時甲郡ノ物産ハ
 決シテ乙郡ニ輸出シテ彼我交易スルコトヲ得サルノ制アリキソレ此ノ如ク實

例一ニシテ足ラス曷ソ空架ノ設例ナリト云フヲ得ンヤ
 凡ソ經濟ノ主眼ハ實ニ交易ニアルモノナリ今若シ此コトナクソハ富ヲ増殖ス
 ルノ道決シテ有ルコトナシ故ニ其國タリ人タルヲ問ハス我レニ餘贏アレハ是
 レヲ空乏セル彼レニ供シ彼レニ餘剩アレハ我レ之ヲ得テ我欠乏ヲ充タシ互ニ
 彼是ノ有無ヲ通シテ需用ヲ充タサハヘカラス是レ則チ第二ノ要點タル流通
 ノ因テ生スル所以ナリ
 斯ク講述シ來ラハ人或ハ云ヘン果シテ汝チノ云フ如クハ日本ノ如キハ開港通
 交以來已ニ二十有餘年ノ星霜ヲ經タレハ今當ニ富貴ナラサルヘカラサルノ理
 ナリ然ルニ尙ホ未タ富國ヲ以テ數フ可ラサルハ何ノ故ソト寔ニ然リ日本開港
 以來已ニ二十有餘年ヲ經交易日ニ隆盛ナリ特ニ生糸及ヒ製茶ノ如キハ輸出日
 ニ加ハリ其利益ヤ實ニ少カラス是ヲ以テ漸次國富民豊ナル可キハ事理ノ見易
 キ所ナリ然ルニ事此ニ反シ尙ホ富ノ度ヲ進メサル所以ノモノハ日本人民ハ稍
 ヤ浪費ノ傾向アリ舶齋品ニシテ新奇目ヲ喜ハシ綺羅魂ヲ奪フノ物アレハ徒ラ
 ニ之ヲ愛慕弄翫シ刻苦勉學シテ得タル多少ノ利益ハ是レカ爲メニ雲散霧消シ

運輸交通

常ニ費ヤス所ハ得ル所ニ倍シ敢テ節儉貯蓄ノ念ナキカ如シ是レ其一原因ナリト云フモ 經言ナラサルヲ信ス

蓋シ一人ノ浪費ハ一家ノ浪費トナリ一家ノ浪費ハ一國ノ浪費トナル是レ必竟一國ハ各人ノ集合シタルモノナレハナリ是ヲ以テ各人能ク注意シテ節儉ニ力メナハ即チ國家奢侈ナラント欲スルモ豈得可シヤ 國家節儉ニテ奢侈ナキハ國家富貴ヲ致スノ基礎タル所以ナリ故ニ人民タル者節儉シテ以テ國家ノ富ヲ計ラスシテ可ナランヤ

世ノ立法者タル者ハ此經濟流通ノ點ニ付テハ可及的自由寛大ニ放任セサルヘカラス然ラハ之ヲ自由寛大ニスルニハ如何ナル方法ヲ以テスヘキヤ乞フ制文律ニ依據シテ是ヲ説明セン

第一ニ注意スヘキモノハ運輸交通ヲ自由ニスルコト是ナリ彼ノ河川道路掘割ノ如キハ運輸交通ノ主眼ニシテ有無相通スルニ缺ク可ラサルモノナレハ必ス之ヲ自由ナラシメサルヘカラス然レトモ自由其度ヲ越ヘ敢テ毫モ關與スルコトナクンハ此極度却テ不自由ノ點ニ傾向スルナリトセス例ヘハ河川ハ運輸ノ

要具ナルヲ以テ自由ナラシメサル可ラスト雖トモ之ヲ自然ノ變遷ニ放任スルトキハ或ハ遂ニ埋塞シテ運輸ノ不便ヲ生スヘク又道路ハ往來ノ要具ナルヲ以テ自由ナラシメサル可ラスト雖トモ狼リニ之ヲ掘割ルコトアラハ遂ニ往來杜塞シテ不便ヲ來スニ至ル可シ故ニ自由放任ノ度ヲ節スルナキトキハ却テ反對ノ結果ヲ生スヘキナリ立法者タルモノ宜シシ其適度ヲ考察セサルヘカラス

倩ラ字内各國ノ有様ヲ觀察スルニ其貧ナルト富ナルトハ一ニ運輸交通ノ便否如何ニ因ラスンハアラス彼ノベルヂク國ハ叢爾タル一小國ニ過キスト雖トモ鐵道敷設ノ盛ナル東ニ西ニ南ニ北ニ縱橫羅織宛然蜘蛛ノ如ク其交通實ニ快便ナリ宜哉其國經濟ノ敏活ナルヤ

佛國ニ於テモ其鐵道ノ綿々連亘スルコト幾千里ノ長サニ及フ而シテ尙之ヲ敷設センカ爲メ政府ハ毎年五十萬フランノ費額ヲ支出セリ然レトモ未ダ周チク國中ニ敷設スルニ至ラス全ク敷設ヲ終ヒ其支出ヲ要セサルニ至ルハ幾年ノ後ニアルヤ未ダ豫メ知ルヘカラサルナリ故ニ一國ノ經濟ハ一年ヨリ盛ナルニ至ルハ固ヨリ其所ナリ而シテ佛國ニ於テ其鐵道ノ一部ハ人民私有會社ノ受負

シテ乙地ノ物品ヲ購求スルヤ必セリ是ニ於テカ甲處ノ工人ハ運輸ニ困苦シテ
 費料嵩ミ而シテ別ニ利スル所ナク遂ニ以テ事業ヲ廢棄スルニ至ラン聞ク處ニ
 據レハ日本ニハ往々峻嶮ノ道アリテ運輸便ナラス爲メニ運搬シテ利アルヘキ
 ノ貨物モ是ヲ運搬スル能ハサルヨリ遂ニ其利ヲ空フスルモノアリト果シテ信
 カ

運輸ノ事ニ付テハ時ニ之ヲ營業ト爲ス者アリ即チ海陸運送會社及ヒ運送人は
 レナリ此會社及ヒ人ハ道路或ハ海上ヲ仕用シテ運送ヲ爲シ荷主ヨリ若干ノ賃
 料ヲ得ルモノナリ而シテ其荷物多數ナルニ於テハ其運賃ハ廉價トナル
 此運送ノ事ニ關スル規則ハ佛民法第七百八十二條已下及佛商法第九十六條
 乃至第一百八條同第二篇第九十條乃至第四百三十六條ケ條ナリトス(日本商法
 第四百八十一條乃至第五百十七條參觀)
 其民法商法共ニ初段ノケ條ハ陸運ニ關シ末段ノ箇條ハ海運ニ關スルモノトス
 而シテ此商法若シクハ民法ニ於テ流通ノコトヲ制限シタル不自由ノ個條アル
 トキハ是レ實ニ經濟ニ背馳セル不當ノ法ナリ

今右ノ佛法律ヲ仔細ニ分拆論究スルトキハ必スヤ改正スヘキ箇條多カルヘシ
 ト信ス然レトモ今茲ニ之ヲ贅言セサルナリ

余ハ他日通常講義ノ時ニ於テ流通ニ關スル契約ノ場合ヲ指示セントス即チ彼
 ノ交換契約賣買契約ノ如キ是レナリ賣買ハ語ヲ換ヒ云ハ、資本ノ交換ト云フ
 モ可ナリ例ヘハ収獲物ヲ賣却シテ金圓ヲ得其得タル金圓ヲ以テ土地ヲ買ンカ
 金圓即チ資本ヲ以テ土地即チ資本ト交換シタルモノナリ
 今利金ヲ貯蓄シテ一ノ資本ヲ得タリトセヨ此金圓即チ資本ヲ空シク手許ニ置
 クトキハ何等ノ利益ナキノミナラス或ハ盜難ノ患アルヲ以テ之ヲ他活用セサ
 ルヘカラス仍テ其金銀ヲ以テ一家屋ヲ買ヒ求メ己レカ住家又ハ工作場トナシ
 タリ是レ則己レカ資本金銀ヲ以テ資本家屋ヲ買求メタルモノナリ
 何故ニ家屋ヲ求メテ資本ナリトスルヤ凡ソ己レノ住家又ハ工作場ヲ所有セサ
 ルニ於テハ他人ノ家屋ヲ借用シテ期毎ニ若干ノ賃料ヲ拂ハサルヘカラス然ル
 ニ之ヲ買入テ己レノ物ト爲ストキハ期次ニ消費スヘキ賃料ヲ減シ大ニ利益ヲ
 生スヘケレハナリ又他ニ家屋ヲ購求シ而シテ之ヲ他人ニ貸與シ月々借家人ヨ

リ若干ノ質錢ヲ得ルコトアラノ是レ亦所謂資本ヨリ生スル所ノ利益ナリ
 右ノ場合ニ於テ賣人モ亦ダ利益ヲ得ルモノナリ何トナレハ賣主其持家ヲ賣却
 シタルハ之ヲ保存スルヨリモ金錢ニ換ヘタル方却テ利ナリトセシカ又ハ他ニ
 金錢使用ノ目的アリシニ依レハナリ是亦資本ト資本ノ交換ナリト云フヘシ
 右等ノ點ニ付キテハ立法者ハ宜シク其契約ヲ簡便ニシ以テ交易ヲ獎勵スヘキ
 ナリ法律カ其家屋ヲ賣拂ヒタル場合ニ於テハ賣主ヲシテ其代金ニ對シテ特權
 ヲ有セシメタルハ即チ賣買ヲ簡便ニスルノ趣旨ヨリ出タルモノナリ
 又買主ハ其物件ヲ買取りタルノ後ニ至リ賣主ノ外ニ眞所有者アリテ其物ノ取
 戻要求ヲ爲スアランコトヲ恐レテ常ニ不安心ノ情ヲ懷キ遂ニ取引ノ凝滞ヲ來
 シテ擔保ノ義務ヲ負ヒ相當ノ價金ヲ出タス可キモノト定メタリ
 凡ソ流通上ニ於テハ金錢ヲ以テ最第一ノ要具トス今モ之ナクソハ實物ト實
 物ト交換セサル可ラス實物交換ハ甚タ不便ナルモノナリ例ヘハ或ル物ノ需用
 ニ際シ己レノ所有品ヲ以テ之ト交換シテ得ントスルモ己レノ有スル物品ハ己

レカ得ント欲スル物品ノ所有者之ヲ欲セス又偶マ交換ニ應セントスル者アル
 モ其人遠地ニアリシトキハ其不便ヲ想フ可キナリ然ルニ金錢ヲ以テ交換セン
 トスルニ於テハ人皆之ヲ欲スルカ故ニ實ニ容易ニシテ且ツ簡便ナリ故ニ金
 ハ交換ヲ簡ニスル最良法ナリ
 實物交換ハ古代ニ行ヘレシカ漸ク其不便ヲ感シ遂ニ貨幣即チ金錢ヲ以テ之
 代用スルノ便法ヲ案出セリ而シテ其日本或ハ羅馬ノ如キハ元ト粗糲ナル鐵製
 (又貝殼等ヲ用ヘタルコトアリシ)ノモノナリシヲ以テ之ヲ偽造スル實ニ容易ナ
 リシ依テ其患害ヲ防カンカ爲メニ金屬中最上等ノ品位アル金銀ヲ擇ヒ之ヲ精
 鍊シ緻密ナル形狀ニ造ルニ至レリ
 然リト雖トモ此點ニ付テ當初ノ立法者大失策アリ即チ立法者カ金銀ノ格位ヲ
 異ニセル是レナリ必竟金ナリ銀ナリ其名稱ハ皆是レ商法上ノ附標ニシテ其効
 用ニ上下ノ差別アルナシ然ルニ最初立法者金銀ノ位格ニ差等ヲ立テ、規定シ
 タルヨリ遂ニ銀貨ト金貨ト賣買スルカ如キ結果トナリシナリ故ニ立法者カ之
 ヲ定メシハ今日ニ在テハ其失策ニシテ且不便ナルヲ悔ニ可シ

又タ金銀ニ次テ紙幣アリ信用券アリ信用券トハ例ヘハ今余カ故郷ナル佛國ニ金銀ヲ送ントスルニハ之ヲ封シテ郵便ニ托セサルヘカラス然ルニ如此スルトキハ不便ナルノミナラス又大ニ入費ヲ要ス故ニ余ハ先ツ橫濱若クハ東京ノ銀行ニ屬托シテ之ヲ佛國ニ送致スルナリ即チ余ハ其金圓ヲ銀行ニ渡シ銀行ハ余ニ證書ヲ附與ス余此證書ヲ佛國故郷ニ送ルナリ然ルトキハ佛國ニアル橫濱銀行又ハ東京銀行代理店ハ其證書面ニ記シタル金額ヲ故郷ノ者ニ拂フモノトス右ノ證書ヲ呼ンテ爲替券又ハ信用券ト云フナリ蓋シ其證書ノ記號押印ヲ信用シテ金額ヲ渡セハナリ

右陳述スル所ハ信用券ニ付テ云ヒシナリ其爲替切手ニ關シテハ商法ニ其規則アリ商法第百拾條乃至第百八拾九條而シテ其爲替切手誰人ニテモ取引スルモノニ非ス若シ取引人放蕩ニシテ浪費スルコトアレハ甚タ宜シカラサルヲ以テ確乎タル銀行アリテ必ス自宅ニ到リ取引スルナリ是又信用ノ名アル所以ナリ又紙幣モ一ノ信用券タルニ過キス何者紙幣ハ金銀ト全價アルニアラス他日之ヲ以テ金銀ト交換セントスルニアルノミナレハナリ唯タ其異ナル所ハ信用券

第三配當

ハ期限アルモノニシテ紙幣ハ其期限ナキノミ政府ハ此ノ紙幣ヲ以テ負債トナシ總テ經費計算簿ノ負債ノ部ニ其額ヲ記ス是レ亦信用券ト全キヲ觀ルニ足ルヘシ若シ紙幣ヲシテ信用券ニアラスト云フトキハ政府ハ紙幣ヲ以テ金位トナスノ權アリト云ハサルヘカラス政府豈此權アラシヤ否ト事實不能ナリ其價格アル所以ノモノハ唯他日金銀ト交換スヘキノ目的アルカ爲メノミ

第三 配當

配當トハ生産又ハ流通ノ爲メ盡シタル勞力ニ酬ユル代價ノ名義ヲ以テ分配スルヲ云フナリ

夫レ人ハ皆ナ躬ヲ生産ノ勞ニ當リ流通ノ勞ニ當ルモノニ非ラス數萬畝ノ土地ヲ有スル者ハ己レ一人ニテ耕作スルコト能ハサルカ故ニ人ヲ雇フテ耕作スルカ又ハ貸賃ヲ得テ之ヲ他人ニ貸付シ又大事業大工業ヲ爲ス者ハ數多ノ職工人ヲ雇ヒテ之ヲ爲シ而シテ其生産物ヲ運搬スルニモ亦別ニ運送人ニ頼ミテ運搬ス此他器物ニ獸類ニ皆ナ人ニ貸與シテ使用シ利益セシムルコトアリ是レ吾人カ常ニ見ル所ナリ此ノ如シ賃料ヲ得テ其物件ヲ人ニ貸付クルトキハ之ヲ物ノ

貸貸ト云ヒ人ニ雇ハレテ勞務ニ服スルトキハ之ヲ勞力ノ貸貸又ハ雇傭契約ト云フ若シ又何等ノ賃料ナクシテ物件ヲ貸附スルトキハ之ヲ使用貸借ト云フナリ今先ツ物件賃貸ノコトヲ説示サン

賃貸ナルモノハ生産流通配當ニ大ナル關係ヲ有スルモノナリ蓋シ物件ヲ有スル者ハ之ヲ使用シテ生産ヲ爲サント欲スルモ之ニ必要ナル他ノ資本ヲ有セス又ハ之ニ適當ナル勞力ナキトキハ其物件ヲ空ク打捨テ置カサル可ラス又之ヲ借ル者ノ方ニ在テモ生産ヲ爲スニ十分ナル資金ヲ有スレトモ之ニ必要ナル土地家屋其他ノ物品ヲ有セストセハ其資金ハ空シク貯藏シ置カサル可ラス利息貸ハ格別然ルニ物件ノ所有者ハ之ヲ貸シテ賃料ヲ得資金ヲ有スル者ハ之ヲ借テ生産スルコトヲ得ハ國家生産ノ途ヲ塞カサルノミナラス貨物ノ流通上ニモ亦大ニ利ナリ加之ナラス元來所有者ハ其物件ヲ取得シ所有スルニ付テハ多少ノ費用若クハ勞力ヲ要シタルヘシ左レハ此費シタル金圓勞力ニ對スル報酬ヲ得サル可ラス又之ヲ借ル者ノ方ニ在テハ貸主ニ賃料ヲ拂ハサル可ラサルヲ以テ此等ノ費用ト自己ノ勞力ニ酬ユル相當ノ収入トヲ得テ損失セサル様勉勵セ

サル可ラス若クスルニハ其賃料モ亦タ相當ニ取極メサル可ラス格外多額ノ賃料ヲ拂フトキハ自己ノ利益ナキノミナラス却テ損スルコトアルニ至ル可キナリ

斯クナルヲ以テ貸主ハ可成丈多額ノ資金ヲ得ント欲シ借主ハ可成丈少額ノ資金ヲ拂フコトニセント欲シ互ニ苦情ノ吐合ヲ爲スカ如ク思ハルレトモ此苦性ハ却テ經濟上ニ利ナルヘシ何トナレハ貸主カ賃料ヲ多ク得ント欲スルトキハ借主ハ其不當ナルヲ唱ラシテ之ヲ拒ミ借主カ少額ノ賃料ニ定メントセハ貸主ハ之ヲ拒ミ互ニ其物ノ價格ト其物ヨリ生ス得キ利益等ヲ證明シテ故障ヲ爲シ而シテ雙方素ト是レ眞ニ損失アルニヨリ斯ク爭フニアラサルカ故ニ各々一歩ヲ讓リテ其不平ノ中間ニ賃料ヲ定メテ相互ノ利益ヲ平均シ終ニ善ク公平ヲ得ルニ至ルヘケレハナリ是レ賃貸ノミ獨リ然ルニアラス世上ノ事物亦此ノ如キノミ例ヘハ物ノ賣買ニ付テ見ンニ賣主ハ斯クノ價ヲ以テ賣ルニアラサレハ利潤ナシト云ヒ買主ハ其額價ニテ買取ルトキハ損失スト互ニ揉合ヒテ始テ平均ノ價ヲ定ムルニ至ルナリ決シテ眞ニ一方ノ人ハ損失シテ他ノ一方ノ人ハ利

得スルニアラス要スル所ハ互ニ利益ノ多カラシムコトヲ欲スルニアルノミ
 賣買代價ハ當事者雙方ノ自由ニ定メ得キカ如ク質貸借ノ質料モ亦タ貸主借
 主雙方ノ自由ナリ法律ハ之ニ干渉シテ幾何金ニ拂フヘシ幾何金ヲ取ル可シト
 定ムルカ如キコトハ決シテ爲サ、ルナリ縱令法律カ雙方ノ利益中ニ立入テ之
 ヲ定ムルトモ到底實行サル可キモノニアラサルナリ故ニ法律ハ敢テ之ニ干渉
 セサルナリ然レトモ法律ハ當事者雙方ノ先見セサル所ノ事ニ付テハ十分之カ
 保護助力ヲ爲サ、ル可ラス當事者ノ先見ノ及ハサル所トハ權義ノ關係是ナリ
 質料ノ如キハ當事者素ヨリ先見スル所ナリ否ナ先見セタルカ故ニ質料ヲ定メ
 タリ然ルニ夫ノ權利ト義務トノ關係ハ先見ノ及フ所ニアラス是ヲ以テ法律ハ
 質料以外ノ規定ヲ爲シテ當事者ヲ保護シタルモノ一ニシテ足ラサルナリ
 今勞力及動産ノ質貸ハ暫キ措キ不動産ニ關スル質貸ニ付テ之ヲ摘述センニ法
 律ハ借主ノ權利ヲ規定シテ質借人ハ其質借權ヲ有償若クハ無償ニテ讓渡シ又
 ハ其質借物ヲ轉貸スルコトヲ得ト規定セリ(我民法ニヨレハ抵當ト爲スコトヲ
 モ得此規定ハ經濟上ノ理由ヨリ出タルモノナリ蓋シ質借人カ其物件ヲ借リテ

ル後事故アリテ旅行スルカ又ハ其他ノ事情ニヨリ自ラ其物件ヲ使用スルコト能
 ハサル場合アラシ此場合ニ於テ其物件ヲ貸主ニ返還セハ質主ハ大ニ喜フヘキモ
 借主ハ質料其他ノ費用ヲ出シタル故ニ償ヲ得スシテ返還スルハ大ニ損失ナリ
 左ラハ之ヲ打捨テ置ンカ借主ハ又利スル所ナキノミナラス經濟上ニ不利ナリ
 因テ之ヲ他人ニ讓渡スルカ又ハ轉貸スルトキ(又ハ抵當)ハ甚ダ都合ヨキナリ是
 レ此規定アル所以ナリ

又法律ハ建物ノ修繕ニ關シテ規定ヲ爲セリ即チ家屋ナラハ其家屋カ必ス大修
 繕ヲ加ヘサル可ラサルニ至ルトキハ質借人ニ多少ノ不便ヲ生セシムルモ質貸
 人ハ其修繕ヲ爲スコトヲ得ルヤ又質借人ハ其修繕ノ爲メ一ヶ月以上モ不便ヲ
 感シ又ハ其建物ノ一部若クハ全部カ使用スルコトヲ得スシテ營業ヲ停止スル
 ニ至ルトキハ質料ヲ減シ若クハ契約ヲ解除スルコトヲ得ルヤト云フニ若シ其
 建物ニ大修繕ヲ爲サ、ル可ラサル場合ニハ質借人ニ縱令多少ノ不便ヲ感スル
 モ質貸人ハ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ若シ質借人ノ暫時ニシテ且ツ僅小ナル不
 便ノ爲メニ其修繕ヲ爲スコトヲ得ストスルトキハ其建物ハ終ニ朽廢又ハ崩壞

シテ莫大ナル損失ト爲ラン是亦經濟上ノ理由ニ關スルコト知ル可シ然レトモ若シ賃借人カ此修繕カ一月以上ニモ及フトキハ賃借人ノ迷惑モ亦タ考ヘサル可ラス仍テ其修繕カ一ヶ月繼續スルトキハ借賃ノ減少ヲ要ムルコトヲ得併シ其修繕ノ爲メニ賃借物中住居ス可キ部分又ハ營業ニ必要ナル部分ヲ奪ハレテ使用スルコト能ハサル如キ場合ニ於テハ其時間ノ長短ヲ論セス賃貸契約ヲ解除スルコト得ルナリ

又法律ハ賃貸借期限ノコトヲ定メタリ即チ佛國ニ於テハ賃貸借ノ期限ハ長クモ五十年ヲ過クルヲ得サルナリ若シ五十年以上ノ期限ナルトキハ最早讓渡シタルモノト見做スナリ是亦經濟上ノ理由ヨリ出タルモノナリ蓋シ五十年以上モ其物ヲ他人ニ貸シ置クトキハ其不動産ハ長キ年間流通ヲ杜塞セラタルコトトナリ一般交易上ニ害アリ且ツ其財産ノ改良ヲ妨ケ生産上ニ不利ヲ來スナリ加之人ハ百年モ打過クルトキハ初メ契約シタル人ハ既ニ逝キ二代三代トナリ貸主モ代リ借主モ代リ初メ爲シタル契約ノ趣旨モ自然異様ニ解セラル、ニ至リ之カ爲メ遂ニ爭訟ヲ起スニ至ルナリ

(日本民法ニ於テモ亦タ此制限アリ即チ日本民法ニヨレハ賃貸借ノ期限ハ三十年トス三十年ヲ超ユルトキハ永賃貸トス永賃借ハ其期間三十年ヲ超ユル不動産ノ賃貸ヲ云フナリ而シテ此永賃借ハ五十年ヲ起ユルコトヲ得ス又法律上又ハ裁判上ノ管理人カ賃貸スル場合ニ於テ其期間ニ付キ特別ノ委任ナキトキハ第一獸類其他ノ動産ニ付テハ一年第二居宅店舗其他ノ建物ニ付テハ三ヶ年第三耕地池沼其他ノ土地ノ部分ニ付テハ五ヶ年第四牧場樹林ニ付テハ十年トス)

又法律ハ賃貸ノ期限ニ付テ當事者ノ想及ハサル所ヲ補ヒリ即チ茲ニ賃貸契約ニ期限ヲ定メタリシカ其期限已ニ滿ツルニモ拘ハラズ賃借人仍ホ利益シ賃借人之ヲ知リテ故障ヲ爲サ、ルトキハ新ニ賃貸借契約ヲ取結ヒタルモノト見做スナリ

然ラハ今日其期限滿ツタルニ賃借人ハ尙ホ其家ニ居リ賃借人ハ其立去ノ督促ヲ爲サ、ルトキハ縱令一日ト雖トモ暗黙ノ賃貸借契約アリトス可キヤ曰ク然リト斷定スルコト甚タ困難ナリ蓋シ僅カ一日ノ間黙シタルノ故ヲ以テ新賃貸

借成立セリト爲スハ苛酷ノ推測ナレハナリ然ラハ幾時間緘黙スルヲ要スルヤ
曰ク是レ事實ノ問題ナリ果シテ暗黙ノ契約アリシヤ否ヤヲ認定スルハ一ニ裁
判官ノ査定權内ニアリ然レトモ其期限ノ滿ツタル後ニ於テモ依然定期ノ質料
ヲ授受シタルカ如キ場合ニ於テハ最早暗黙ノ質貸契約アルコトハ疑フ可クモ
アラサルナリ

此ノ如ク黙許アルトキハ新賃借契約成立シタルモノト見做スト雖トモ其契約
ノ負擔及ヒ條件ハ悉ク前ノ質貸契約ト同一ナルニアラサルナリ先ツ前契約ニ
抵當又ハ保證人アリトセハ其抵當ハ消滅シ保證人ハ義務ヲ免カル、ナリ又最
初ノ契約ニ期限ヲ十ヶ年ト定メタリトセハ新賃借契約モ亦十ヶ年ト見做ス
ニアラス其新規ノ契約ハ期限ノ定マラサルモノナルカ故ニ一方ノ者其質貸借
ヲ解カントスルトキハ或ル一定ノ時期ニ豫メ解約ノコトヲ通知シテ之ヲ爲ス
コトヲ得

斯ク法律ニ於テ新賃借契約成立シタリトノ推定ヲ爲セシハ亦經濟ニ關スル
モノナリ蓋シ既ニ期限ノ滿了シタルニモ拘ハラズ當事者雙方之レヲ黙シテ以

質借權ノ性質

前ノ情況ニアル所以ハ雙方ニ便利アリテ然ルノミナラス其財産ノ利益ハ猶ホ
引繼キ生スルモノト言ハサル可ラス然ルヲ若シ期限滿了シタルトキハ縱ヒ相
默スルモ新規契約アルコトナクシテ貸主ハ何時ニテモ借主ヲ退去セシム
ルコトヲ得トセンカ一時其財産ノ利益ヲ停滯シ經濟上ニ害ナレハナリ
質貸ニ關スル規定ハ他ニ限モ之ナキホト多クアレト一々之ヲ陳フルトキハ際
限ナキニヨリ以下之ヲ畧シ是ヨリ分果小作獸類質貸ノコトニ移リ一言ス可シ
然レトモ之ニ移ルニ先ダテ茲ニ質借權ノ性質ヲ一言セン此事格別茲ニ論スル
ノ必要ナキカ如クナレトモ事經濟ニ關スルノミナラス諸君カ法律講究ノ爲メ
多少資スル所アルヘキヲ信スルナリ
抑モ質借人ノ權利ハ利益權、地役權ノ如ク直ニ物上ニ存シテ一般ノ人ニ對抗ス
ルヲ得可キ物權ナル乎又ハ之ニ反シ止テ特定ノ人質借人ニノミ對抗シ得ヘキ
對人權ナル乎此一點ヲ定ムルコト頗ル緊要ナリトス蓋シ質借人ノ權利ニシテ
物權ナリトセハ質借人其質貸シタル物件ヲ人ニ讓渡スモ質借人ハ其讓受人ニ
其權利ヲ對抗スルコトヲ得若シ之ニ反シテ一ノ對人權ナリトセハ讓受人ハ質

(法律ト經濟トノ關係)

借權ニ優レルル所有權ト稱スル物權ヲ有スルヲ以テ其權利ノ性質上賃借人ニ勝
チ制スルコトヲ得ヘシ此事亦大ニ經濟上ノ利害ニ關スルナリ

日本古來ノ慣例ハ措テ論セス現時ノ民法ニ於テハ賃借人ノ權利ヲ以テ一ノ物
權ナリト定メタリ是レ經濟上ノ理由ニ適ヒ且ツ論理ヲ貫キ一定ノ主義ニ基ク
モノナリシ獨リ奇ニ堪ヘサルハ佛民法ナリ佛民法ハ論理ヲ貫カス又一一定ノ主
義ナシ其然ル所以ハ佛國ニ於テハ賃借人ノ權利ハ物權ナルヤ將タ人權ナルヤ
ニ關シテ大ニ議論アリ一般學者ハ之ヲ對人權ナリト言ヘリ是レ佛民法ノ解釋
上其當ヲ得タル說ナリト信ス然ルニ立法者ハ或條件ヲ具備スル場合ニハ賃借
人ノ權利ヲ物權トナシ讓受人ニ對シテ其効力アルモノトセリ是レ折衷法ニシ
テ論理ヲ貫カサルモノナリ

或ル場合ニ賃借人ノ權利ヲ以テ物權ト定メタルハ全ク經濟上ノ考ヘニ出テ
タルモノナリ故ニ此佛民法ヲ茲ニ一言スル無用ナラサルヲ信ス

佛民法ニヨレハ其買主ニ對シテ賃借契約ヲ對抗スルニ欠クヘカラサル要件
ハ即チ契約ノ日附ヲ確定スルニ在リ何トナレハ若此要件ナクンハ後ニ日附

ノ先キナル證書ヲ偽造シテ買主ノ權利ヲ害スルノ恐アレハナリ(日本民法ハ
草案ニ規定セル日附確定ノ方法ヲ刪除シタルカ故ニ新民法ハ此日附確定ノ
方法ナシ)又其民法賃借篇第七百四十三條ヲ讀ムトキハ尙此他ニ一ノ要件
アルカ如クニ記セリ即チ實行ノ端緒是ナリ例ヘハ家屋ナレハ借主ノ一日ニ
テモ之ニ住居スルコトヲ要ス其證據ハ立方者ハ放逐ナル語ヲ用ヒタルヲ以
テ知ルヘシ放逐ト言フニハ既ニ其家屋ニ住居スルヲ要スルコト明ナリ然レ
トモ又他ノ學者ハ此文面ヲ排シテ實行ノ端緒アルヲ要セスト云ヘリ
解釋論ハ何レニテモ可ナリ但シ余ノ意見ヲ問フアラハ余ハ第一說ヲ至當ト
ス何故ニ賃借ハ一ノ對人權ニアラストノ原則ヲ設ケスシテ此特別法ヲ設ケ
タル乎曰ク經濟上ノ理由ニ基キタルモノナリ是レ編纂錄ヲ觀ルモ明瞭ナリ
トス凡ソ土地ヲ借ル者家屋ニ付テモ亦全シハ巨額ノ資本ヲ抛チ之ヲ改良シ
以テ耕作其他ノ事業ヲ與スモノナリ故ニ其勞ヲ虛シカラサラムルニハ必
ズ法律上賃借主ノ利益ヲ保護セサルヘカラス資本ヲ抛チ有益ノ事業ヲ起シ
ナカラ其利益ヲ奪ハルコトアリトセハ何人カ賃借主ト爲ルコトヲ欲スヘ

ケンヤ若シ夫レ斯ノ如クナレハ財産流通ノ途ヲ塞キ公益ヲ害スルコト少ナカラサルヘシ故ニ立法者ハ全ク國家經濟上ノ利益ヲ計リ賃借主ノ權利ヲ保護シタルモノナリ

然レトモ賃借人ノ利益ヲ保護スルノ一方ニ偏シテ買主ノ利益ヲ保護スルコトヲ忘ルヘカラス買主ニ於テモ其不動産カ已ニ貸貸セラレタルコトヲ知ラスシテ買取ルコトナシトセス假令公證人ヲシテ其貸貸ノ日附ヲ確定セシムルモ此等ノ條件タル敢テ賃借ヲ一般ニ公示スルノ方法ニアラス故ニ買主ハ百方力ヲ盡シテ探偵スルモ其買ハントスル不動産ハ既ニ義務ヲ負擔セルヤ否ヤヲ知ル能ハサルコトアリ殊ニ前ニ述タル第二說實行ノ端緒ヲ要セストノ説ヲ云フヲ執リテ實行ノ端緒ヲ要セストセハ買主ハ尙更其貸貸アルコトヲ知ルニ途ナク遂ニ恐レテ不動産ヲ買取ラントスル者ナキニ至ルヘシ若夫レ斯ノ如クナレハ曩キニ言フ所ト全シク財産ノ流通ヲ妨ケ公益ニ害アルコト少カラサルヘシ其弊害ハ如何シテ之ヲ防クヘキヤ佛民法ヲ編纂スル當時ニハ其方法ヲ設ケス千八百五十年六月二十三日ノ法律ヲ以テ始メテ之ヲ規

定セリ

千八百五十五年ノ法律ニ由レハ買主ニ對シテ賃借ヲ有効ナラシメンコトハ登記ヲ要シ即チ公ノ帳簿ニ登記セサルヘカラス然レトモ立法者ハ之ニ一ノ制限ヲ設ケ十八年以上ノ賃借ニ限ルトセリ何故ニ十八年以上ノモノニ限リテ登記ヲ要スト爲シ十八年以下ノモノニハ之ヲ要セサルヤ十八年以下ノ賃借ト雖トモ登記セサルハ其弊害ハ小ナリト雖トモ尙ホ同シク存スルモノトス故ニ此法律ハ立法論トシテハ攻撃ヲ免カル、ヲ得ス斯ノ如ク十八年以上ノ賃借ハ之ヲ公示セサルヲ得サルノ法ヲ設ケタルカ爲メニ賃借ハ物權トナラスシテ對人權ノ性質ヲ失ハス法律ハ唯ク經濟上ノ理由ヨリ買主ヲ保護シ同時ニ公益ヲ維持スル爲ニ設ケタルノミ

此法律アルヲ以テ見レハ賃借ハ理論上對人權タルノ性質ヲ失ハサルニモセヨ實際全ク物權ト言フテ可ナリ千八百五十五年ノ法律ハ元來所有權ノ支分タル物權ノ移轉ヲ公示セシムルヲ目的トス其中ニ十八年以上ノ賃借又ハ三ヶ年以上ノ賃錢ヲ前拂シタル證書ヲモ公示スヘシトノ條項アリ賃錢前拂ノ

證書ヨリシテ物權ヲ生セサルハ法律家ヲ俟タスヲ明ナリ斯ノ如ク其性質對人權タルモノカ實際物權ノ効力ヲ有スルコトナレリ
 今例ヲ以テ説明センニ茲ニ一人ノ買主アリ或ル不動産ヲ買ハント欲シテ登記役所ニ行キ帳簿ヲ檢閲シタルニ帳簿ニハ全ク賃貸ノコトヲ載セス然レトモ此一事ヲ以テハ未タ必スシモ賃貸ナキノ證據トスルニ足ラス永クシテ十八年ノ賃貸アルヤ知レス若シ十八年以下ノ賃貸ニシテ其日附確定セサレハ民法上買主ニ對シテ其効ナシト雖トモ日附確定セハ買主ニ對シテ有効ナリトス然ルニ此法律ニヨリ買主ノ受タル損害ハ實ニ大ナリトス今其損害ヲ列舉センニ蓋シ三アリ先ツ第一ニハ十八年間收益權ヲ失フコト第二ニハ賃錢ノ額究メテ廢ナルノ恐れアルコト第三ニハ既ニ賃錢ヲ拂ヒタルヤ知ルヘカラス假令ヒ全額ヲ拂ハストモ其一部分ハ之ヲ拂ヒタルコトアルヘシ是皆買主ニ取リテ損失ノ原因トナルモノナリ之ニ反シテ十八年以上ナルトキハ買主ハ不虞ノ損害ヲ被ムルコトナシ賃貸アルモ登記簿ニ就テ之ヲ檢接シ全ク買主ハサル乎或ハ覺悟ニテ買フヘシ孰レニシテモ秘密契約ノ犧牲ト爲ルコト

ナシ場合ニ依リテハ買主ハ賃貸アルコトヲ知リツ、買取ルコトアルヘシ何ントナレハ高キ賃錢ニテ賃貸シタル場合ニ於テ之ヲ買取ルトキハ已ノ利益トスルコトヲ得レハナリ又登記ノ制アル以上ハ三年以上賃錢ヲ前拂スルノ恐ナシ何ントナレハ千八百五十五年ノ法律ニハ三年以上ノ前拂證書ハ之ヲ登記セサルヘカラス否ラサレハ買主ニ對シテ二重拂ヒノ責ヲ免カレサレハナリ
 以上列舉スル二個ノ場合ニ於テ買主ノ不幸同一ナラサルコトヲ知ルヘシ是レ頗ル權衡ヲ失ヒタル法律ト言フヘキナリ尤モ第一ノ場合ニ於テモ買主ハ賃借主ニ對シテ權利ヲ有セスト言フノミニシテ其賣主即賃貸主ニ對シテハ要償ノ權利アリトス賣主ト已レトノ間ニハ買賣ノ効力全キヲ以テ擔保ノ訴ヲ起シテ其損害ヲ賠償セシムルヲ得ヘシ
 佛民法ハ此ノ如ク救濟法ヲ設ケタリト雖トモ其救濟タルヤ實ニ微弱ナルモ其ノニシテ多クハ其實益ナキモノト言フヘシ何ントナレハ既ニ人ニ賃貸シタル物件ヲ復タ他人ニ賣拂フ如キ者ハ大抵皆實力ナキ者ナリ故ニ賣主ニ對ス

ル要債權ハ十中八九ハ有名無實ナリトス
 右述フル所ヲ以テ佛國法ノ欠點ヲ示セリ日本民法ハ佛民法ニ比スレハ大ニ善
 良ナルコト言ヲ持タサルナリ日本民法ニ掲クル規則ハ佛ノ如ク混雜ナルモノ
 ニ非スシテ極メテ簡明ナルモノトス僅々數言ヲ以テ之ヲ盡スコトヲ得ヘシ第
 一ニハ佛民法ノ原則ニ反對シ凡ソ賃借主ノ權利ハ物權ニシテ一般ノ者ニ之ヲ
 對抗スルヲ得ヘキトノ原則ヲ立テ其年限ノ長短ニ從テ區別セス其年限ノ長短
 ニ拘ハラス常ニ登記セサルニ於テハ買主ニ對シテ其効ナキモノト規定シタリ
 キ
 斯ノ如クスルトキハ買主ハ第一ニ秘密賃貸ノ害ヲ受ケス又第二ニハ賃貸ノ廉
 ナルヨリシテ損害ヲ受クルコトナシ何ントナレハ登記ニヨリ之ヲ知ルヲ得レ
 ハナリ
 然レトモ斯ク言ハ、或ハ一ノ駁撃ヲ爲ス者アラン若シ茅屋ヲ一時賃借スル
 如キモ亦一々之ヲ登記スルモノトセハ時間ト費用トヲ徒費シ賃貸ニ比シテ
 得失相償ハサルヘシト此說一理ナキニ非ス民法草案ニハ一ノ良方ヲ設ケ其

弊ノ生スルヲ防止セリ即登記ト同一ノカアル他ノ一ノ方法ヲ設ケ或條件ノ
 具ハル場合ニハ登記ナキモ登記アルト同シク買主ニ對シテ賃貸ノ効アルモ
 ノトセリ所謂條件トハ他ナシ買主情ヲ知リテ買取リタルコト是ナリ換言セ
 ハ買主其賃貸アリシ事實ヲ知リタルコト是ナリ大半ノ場合ハ此方法ハ以テ
 登記ノ手續ヲ省クニ足ルヘシ其理由ハ輕少ナル賃貸ハ通常之ヲ買主ニ隱匿
 セサルヘシ否之ヲ隱匿スルノ必要ナキナリ故ニ斯カル場合ニハ買主ハ其事
 實ヲ知ルヲ以テ登記アル場合ト同シク其賃貸ノ効ナキコトヲ言立ツルヲ得
 ス佛國法ニハ登記ノ制度アルノミニシテ全ク之ニ代用スルモノナキハ法律
 ノ缺點ト云ヘキナリ
 要スルニ日本民法草案ハ一方ニ於テ賃借人ノ利益ヲ保護シ又一方ニハ買主
 ヲ保護ス賃借人ノ利益ヲ保護スルノ目的ヲ以テ其權利ヲ物權中ニ列セリス
 ノ如クシテ始メテ資本ヲ抛テ其賃借シタル不動産ヲ耕作改良シ賃借主ノ利
 益ト同時ニ國家經濟上ノ利益ヲ増進スルヲ得ヘシ又一方ニ於テハ買主ヲ保
 護スル爲メニ賃貸ヲ一般ニ登記スヘキモノト爲セリ買主ハ秘密契約ノ害ヲ

受クルコトナク全ク之ヲ買ハサルカ又ハ事實ヲ知テ買取カ二者其一ヲ出テ
 ス故ニ買ヘハ安心シテ買フナリ是流通ノ途ヲ塞クニ非ラスシテ之ヲ開クノ
 主意ニ出タルモノナリ

貸貸ノコトニ付尙一書スヘキ者アリ先ニ言フ如ク佛民法編纂者ハ其第七
 百四十三條ニ於テ大ニ舊法ヲ改正セリ爰ニ又一ノ改正ヲ行ヒタル點アリ第
 千七百六十一條是ナリ是亦賃借人ノ權利ヲ保護スルノ意ニ出タルモノナリ

羅馬法并ニ慣習法ニ於テハ賃借人ハ意外ニ強キ權利ヲ有シ何時トナク賃借
 人ヲ放逐スルコトヲ得タリ賃借人ヲ放逐シテ土地ナレハ自ラ之ヲ耕シ家屋
 ナレハ自ラ之ニ住スルコト自由ナリキ此法律ハ全ク條理ニ反セリ殊ニ賃借
 人ノ權利ハ古法ニ定ムル如ク一ノ對人權ナリトセハ猶ホ更其當ヲ得ス何ト
 ナレハ對人權ナレハ其之ヲ對抗セラル、契約上ノ義務アリ即其義務者カ契
 約ニ依テ負擔スル義務ニ背クコトナレハナリ

佛民法ハ第七百六十一條ニ於テ此法律ヲ改良セリ此條文ヲ一目スルトキ
 ハ實ニ分明ニ過クル無用ノコトヲ言フカ如シ曰ク賃借人ノ假令己レ自ラ其

賃貸シタル家屋ニ居住セント申立ツルトモ賃貸ヲ解除スルコトヲ得スト此
 改良ナキトキハ賃借主ハ一日モ安全ナルヲ得ス何時貸主ヨリ自己ノ用ニ供
 スル爲メニ又ハ好價ニ賣拂フ爲メニ又ハ更ニ他人ニ賃貸スル爲メ放逐ヲ命
 スルヤ知ルヘカラサルナリ

余ハ日本古來ノ慣例ヲ知悉セスト雖トモ日本民法モ亦應ニ此ノ如クナルヘ
 キハ言ヲ俟タサルナリ民法ニ於テ別ニ此事ヲ明記セサルハ固ト是レ明瞭ノ
 コトニシテ特ニ明文ヲ要セサルニ由ル何ントナレハ賃借人ノ權利ハ己ニ物
 權ナル以上ハ妄ニ之ヲ奪フコトヲ得サレハナリ

此佛民法第七百六十一條ニハ家屋ノコトノミヲ言ヘリ故ニ彼ノ危險ナル
 反對解釋法ニヨリ土地ノ借主ハ舊法ニ於ケル如ク何時トナク其權利ヲ剝奪
 セラル、コトヲ得ルモノト解スル者アルヘシト雖トモ是文面ニ抱泥スル說
 ニシテ全ク取ルニ足ラス一般解釋者ハ立法ノ精神ニ基キ斯カル不當ノ解釋
 ヲ爲サ、ルナリ

是ヨリ分果小作ニ付キ一言セン

分果小作

分果小作トハ契約ニ指示シタル比例ニヨリ通常ハ土地ヨリ生シタル果實ヲ折半シテ土地所有主ト小作人トノ間ニ分配スル所ノ土地賃貸ナリ故ニ土地ノ所有者ハ通常ノ土地賃貸ノ如ク一定ノ賃貸料ヲ得ルニアラス成偶ノ年貢ヲ収得スルモノナリ又賃借人ニ於テモ通常ノ土地賃借ノ如ク必ス一定ノ賃借料ヲ拂フニアラスシテ偶成ノ収獲物ヲ以テ賃料ト爲スモノナリ是故ニ此種ノ土地賃貸ハ當事者雙方年ノ豊凶ニ利害ヲ有スルモノナリ

日本ニ於テハ此果實ヲ分ツノ土地賃貸ナルモノ存セシヤ否ヤハ余之ヲ知ルコト諸君ニ及ハサルナリ然レトモ今ヲ距ル殆ト三十年前ニ稍ヤ之ニ似タルモノハ行ハレアリシコトハ余ガ知ル所ニシテ諸君ト共ニ語ルニ足レリ其似タルモノトハ即チ租稅ヲ實物ニテ上納スルノ慣習是ナリ是レハ分果小作ニアラス諸君ノ知ル如ク今日ニ於テハ租稅ハ金錢ヲ以テ上納スレトモ維新ノ時マテハ米麥大豆其他實物ヲ以テ納メタリシ此實物納稅ハ其納稅者ニ於テハ時ニヨリ大ニ利ナルコトアリシ何トナレハ年豊ナルトキハ其収獲多キヲ以テ自己ニ利益ナルハ勿論年凶歉ニシテ收獲ナキトキハ免租ニヨリ全ク之ヲ納ムルヲ要セキ

レハナリ是故ニ此實物納稅ハ佛國ノ果實ヲ分ツノ土地賃貸借ト其趣大ニ相似タリ

余ハ此分果小作ハ法律ノ保護獎勵ヲ以テ大ニ盛シナラシムヘキコトヲ希望スルナリ然レトモ之ト相似タル實物納稅ノ制度ニ至テハ經濟上之ヲ排斥セサル可ラス何トナレハ實物納稅ナルモノハ大ニ弊害アレハナリ請フ其弊害ヲ證セ

今租稅トシテ納ル實物ハ米又ハ麥ナリト假定センニ多クノ米麥カ一時ニ國庫ニ收マリ遂ニ米麥ノ價ニ激變ヲ來タスノミナラス國庫ノ收支上ニ困難ヲ來タスニ至ルナリ何トナレハ國家ノ費用多端ニシテ巨多ノ支出ヲ要スル時ニ當リテハ政府ハ其徵收シタル米麥ヲ通常ノ相場ヲ以テ賣ルモ其賣得金ハ未タ以テ費用ヲ支フルニ足ラサルカ故之ヲ高價ニ賣ラサルヘカラス而シテ之ヲ高價ニ賣ルニハ暫時之ヲ貯藏シ置キテ賣ラサルヘシ何トナレハ之ヲ貯ヘ置クトキハ世間ノ米麥ソレ丈少ナクナルヲ以テ需用ニ比シテ供給足ラス爲メニ世間米麥ノ價ハ自然騰貴ス而シテ此騰貴シタルトキ政府之ニ乘シテ賣出タスナリ是レ

恰モ姦商カ買占チ爲シテ物價ノ激動ヲ醸成シ民人チ苦ムルト同一ナルノミ豈
 寒心セサランヤ
 又例ヲ變シテ云ハンニ年豊ニシテ各地収獲多キトキハ租税ニ納ムルモ猶ホ世
 間米麥ニ餘アルカ故ニ米麥ノ價下落シ隨テ政府之チ賣出スモ其賣得金少ナク
 シテ到底國家ノ經費ニ充ツルニ足ラス爲メニ政府ハ財政上ニ大ナル困難ヲ來
 タスヘシ豈察セサル可ケンヤ
 加之政府ハ各地ヨリ上納スル米麥ヲ貯フルカ爲メ處々ニ數多ノ倉庫ヲ設ケサ
 ル可ラス而シテ此倉庫ノ設置ハ亦タ巨大ノ費用ヲ要スルモノナリ政府既ニ諸
 般ノ費用ニ堪ヘサル上ニ之ヲ貯フルカ爲メニ巨大ノ費用ヲ加フルトセハ政府
 ノ困難又想フ可キナリ
 實物上納ノ弊害此ノ如シ然レトモ今此ニ說カントスル分果小作即チ收穫チ分
 ツノ貸貸契約ハ之ニ比スレハ利アリテ害ナキモノナリ蓋シ實物上納ノ場合ニ
 アリテハ一方ハ政府ト稱スル公ケノ利害加ハリ居レトモ分果小作ニ於テハ雙
 方ノ利害全ク相反對スルカ故ニ其収獲ヲ貯ヘ置キテ世間ニ出サ、ルノ恐ナク

又一時ニ濫出スルノ弊モナク自然適當ノ結果ニ歸シ決シテ市上ノ價格ヲマテ
 激動セシムル如キ投機ノ危商ナシ
 然レトモ此分果小作ニ對シテハ有力ナル非難說アリ此非難說ノ理由ニ依リ佛
 國ニテハ此貸貸ノ慣習ハ漸次力ヲ失ヒ而シテ其非難說ハ益々勢力ヲ占ムルノ
 傾アリ請フ其梗概ヲ示サン
 凡ソ射利ノ業ニ於テ總利益ト純利益トノ二箇ノ利益アリ總利益トハ其事業ヲ
 爲スニ付テ要シタル費用ヲ扣除セサル収入ヲ云ヒ純利益トハ其事業ヲ爲スニ
 付テ要シタル費用ヲ扣除シテ手ニ殘ル純粹ナル収入ヲ云フナリ今佛蘭西ノ所
 謂分果小作ハ其収獲ノ半ヲ得而シテ其半タルヤ純利益ノ半ニ非ラスシテ總利
 益ノ半ナリ而シテ其折半タルヤ敢テ法律ノ禁令スル所ニアラサルナリ佛ノ習
 慣此ノ如クナルヲ以テ賃借人ハ實ニ重キ義務ヲ負擔スルモノト云ハサル可ラ
 ス何トナレハ賃借ハ其土地ナリ田畠ナリ之ヲ耕スニ付テハ幾何ノ耕作費用ヲ
 掛ケタルヤ知ル可ラス而シテ總収入ノ折半ヲ所有主ニ拂フカ故ニ其要シタル
 費用ハ自己ノ手ニ所得セル折半ノ収獲ヨリ扣除セサル可ラサル可ラス斯ク之

ヲ扣除スルトキハ手ニ殘ル純利益ハ僅少ナルノミナラス時トシテ其純利益絶
 テ之ナキコトアルナリ是則チ此種ノ契約カ漸次減少スルノ傾アル所以ナリ猶
 ホ例ヲ以テ之ヲ示サン
 例へハ其賃借土地ヲ耕シテ年々百石ノ収獲アリト假定セヨ此百石ハ何等ノ資
 本ヲ下スコトナク又何等ノ勞力ヲ加フルコトナクシテ生スルニ非ラス賃借人
 ハ之ニ肥料ヲ爲サル可ラス又種子ヲ蒔カサル可ラス又鋤セサル可ラス鐵セ
 サル可ラス而シテ此肥料ヲ買ヒ種子ヲ買フニ付キ金圓ヲ借入タルコトアルへ
 シ又此金圓ニ利子ヲ拂フタルコトアルへシ斯ク種々雜太ノ費用ヲ爲シ勤勞ヲ
 爲シテ漸ク百石ヲ収獲スルニ至リシモノナリ左レハ此百石中ノ拾石ハ其費用
 セシ金額ニ當ルモノトセハ其拾石ヲ費用トシテ扣除シ殘ル純利益九十石ヲ折
 半シテ各々四十五石ツ、得可キモノナリ然ルニ賃借人ト賃借人トノ分ケ方ハ
 決シテ此ノ如クセスシテ其總利益百石ヲ折半シテ五十石ツ、分配スルカ故ニ
 賃借人ハ拾石ノ損失ヲ負擔スルニ至レリ是故ニ賃借人ハ可成丈費用ヲ省カン
 トシ又ハ費用ヲ要セサル土地ヲ借ラントスルカ故ニ歸着スル所口賃借人賃借

人雙方ニ不利ナル結果ヲ生シ隨テ國家經濟ニモ不利ナル結果ヲ生スルナリ例
 へハ麥ノ中ニモ通常ノ麥ト燕麥トアリ而シテ燕麥ヲ作ルハ通常ノ麥ヲ作ルヨ
 リモ其費用少ナキヲ以テ現ニ利益アル通常ノ麥ヲ作ラスシテ燕麥ヲ作ルナリ
 (燕麥ハ麵包ヲ製スレハ色黒クシテ其價卑シ)而シテ其燕麥ヨリ如何ナル利益ヲ
 生スルヤト云フニ通常ノ麥ヨリモ其収獲遙ニ低クシテ結局賃借人モ亦タ不利
 ニシテ土地賃料ノ幾分タモ得サルアリ而シテ獨リ燕麥ノミ多クシテ肝腎ナル
 人ノ精ヲ養フ可キ通常ノ麥カ少ナキトキハ社會一般ノ不利タル言ヲ竣タサル
 ナリ
 尙ホ之ヨリ甚シキモノアリ即チ牧畜是ナリ牧畜ノ爲メニ要スル草ノ費用ハ燕
 麥ヲ作ル費用ヨリモ尙ホ少ナシ若シ夫レ通常ノ麥ヲ作ル代ハリニ燕麥ヲ作ル
 代ハリニ牧場ヲ開イテ獸類ヲ牧畜センカ獨リ賃借主ノ不利ノミナラス經濟社
 會ノ爲メニモ甚タ不利益ナリ
 寔ニ此ノ如クシテ賃借人ノ損失ハ甚カラサルへ何トナレハ初メ其土地ヲ取
 得スルニ付テハ巨額ノ金圓ヲ出シタルヤ必セリ又其土地ノ耕作ヲ得可キニ至

ルマテハ少ナカラサル費用ヲ爲シタルナルヘシ果シテ然ラハ其収獲ヲ以テシテハ到底得失相償ハス終ニ資本家ノ衰廢ヲ見シテ然ラハ之ヲ救フノ術ナキカ曰ク唯タ一アリ此救済方法ハ日本ニモ佛國ニモ共ニ行ヒ得キ方法ナリ唯タ怪シム此方法ハ佛國ニ於テ未ダ十分ニ行ハレサルヲ其救済方トハ何ソ曰ク前ノ説明中ニ暗ニ見ヘタルカ如ク直ニ總収獲ヲ分ツコトヲ爲サスシテ費用ヲ引去リタル純益ヲ分ツコト是ナリ

然レトモ此考案タルヤ又非難ナキニアラス其非難ニ曰ク若シ純益ヲ分ツコトトナストキハ貸借人ハ貸借人ノ立替ノ詐ナキヲ知ランカ爲メ絶ヘス其費用ノ支出ヲ監督セサル可ラス然ラサレハ借主ハ百圓ノ費用ヲ爲シテ百二十圓若クハ百三十圓ト詐ハルヤ知ル可ラス又借主ノ方ヨアリテハ現實百圓ノ費用ヲ爲シテ貸主ノ異議ニヨリ百圓以下ノ費用ニ下サレテ損失スルヤ知ル可ラス故ニ其費用ノ度毎ニ一々之ヲ知ラサル可ラス果シテ此ノ如クセンカ其監督ノ結果ハ終ニ健訟ノ弊ヲ惹起シテ又將ニ訴訟止ムコトナカラントスト此説多少ノ理由アリ此非難ノ理由ヲ避クル方法案ハ余之ヲ有セリ即チ余ノ考案ニヨレハ直

ニ總収獲ヲ分ツモ妨ケナキモノナリ即チ賃借人ノ得可キ収獲額ヲ賃借人ノ得可キ収獲額ヨリモ多カラシムルコト是ナリ其耕作物ノ性質ニヨリ十分ノ六トカ七トカ其半ヨリ多ク得セシムル方法ナリ此方法ハ決シテ實行シ難キモノニアラス何トナレハ地方ニヨリ米又ハ麥ヲ作ルコトハ斯々ノ費額ヲ要スト一ノ物價表ヲ製スル容易ノコトナレハナリ此ノ如クナストキハ費用ヲ監督スルノ煩モナク又濫用ノ弊害ヲ生スルコトモナキナリ

又或ハ點ニ付テ非難スル者アリ即チ賃借人ハ多クハ貸ニシテ資本ヲ有スル者ハ稀ナリ賃シケレハコン分果小作ヲ爲スナリ苟モ資金アランカ何ソ通常賃借ヲ爲サ、ランヤ左レハ此賃シキ小作人カ耕作費用ヲ立替ヒルノ資本アリトハ得テ想像ス可ラス然ルニ小作人ヲシテ此等ノ立替ヲ爲サシムルトハ無用ノ考ナリ故ニ分果小作ハ到底經濟上ノ不利タルヲ免レスト此論亦タ有力ノ非難タルニ相違ナシ然レトモ又之ニ答フルノ方法アリ

第一 其耕作ニ要スル費額ヲ貸借主ヨリ賃借人ニ渡シ置クコトノ方法ナリ而シテ其渡シタル金額ハ格別嚴重ニ監督スルヲ要セス果實ヲ得タル時其費用ト

シテ渡シタル金額ヲ先チ其果實中ヨリ受取り而後ニ其果實ヲ分ツナリ
 第二 貸貸人ノ渡シタル費金ヲ先ツ其果實ヨリ引去ルニアラシテ其果實ヲ分ツタル後貸借人ノ分ケ得タル部分ヨリ受取ルノ方法ナリ第一方法ト異ナル所ハ第一方法ハ其費金ヲ先ツ總収獲ヨリ引去リ而シテ後ニ其果實ヲ二人ニ分ツモノニシテ第二ノ方法ハ先ツ其果實ヲ二人ニ分ケ而後貸貸人ノ渡シタル費金ヲ貸借人ノ得分中ヨリ受取ルニアリ此二方法ハ孰レモ優劣ナシ若シ強テ優劣ノ區別ヲ爲サントセハ第一ノ方法ヲ以テ簡便ナリトス
 此ノ如クスルトキハ上來述タル所ノ實際ナク双方ノ利益トナリ且ツ國家經濟ノ一助ナリ
 此果實ヲ分ツノ貸貸ハ通常ノ貸貸ト大ニ異ニシテ其性質夫ノ會社契約ト甚ク相肖タルモノナリ蓋シ人ノ相團結シテ會社ヲ成スヤ社員互ニ相信用スルニ因ル即チ信用ナルモノヲ以テ一ノ元素ト爲セリ此貸貸モ亦然リ德義心モナク勉強力モナキ者ニ貸貸スルトキハ其土地ヲ濫用シ又ハ全ク使用セス爲メニ生シ得可キ果實モ生セスシテ大ニ損失スルヤ知ル可ラス故ニ此契約ハ相知リ相信

獸類貸貸

スル者ノ間ニ行ハレ結局ノ利益連帶セリ佛蘭西法律ニ於テモ之ヲ貸貸ノ編ニ掲ケテ貸貸トシテ行ハレ居レトモ其實會社法ニ似タル規則ヲ以テ之ヲ定メタリ即チ此貸貸借ニ限リ轉貸ヲ禁セシコト是ナリ此規定ノ理由ハ元ト互ニ相信シテ爲ス所ノ契約ナルカ故ニ貸借人之ヲ外人ニ轉貸スルトキハ貸貸人ノ意ニ背クコトナルヲ以テナリ
 以上ニ陳タル要點ハ之ヲ日本民法草案ニ掲ケタリシ併シ其草案ハ弊害ヲ救フ可キ種々ノ細則ハ之ヲ掲ケス唯タ其原則ヲ掲ケルニ止メタリキ
 貸貸ニ付テ尙ホ茲ニ講スヘキモノ一アリ即チ獸類ノ貸貸是ナリ獸類貸貸ハ日本ノ習慣ニ之ナキカ如ク見ユ佛蘭西ノ貸貸法ニ於テハ三十個條ノ規定アリ日本民法草案ハ僅カ十個條ヲ設ケタリシ
 今日日本ニ於テ牧畜ノ業ヲ起スハ經濟上最モ緊要ナリト信ス今外國人カ日本國內ヲ通行シテ最モ驚ク可キハ牧畜業ノ開ケサルコト是ナリ今日世界何レノ國ニ到ルモ日本底牧畜業ノ振ハサル國トテハ之ナキナリ遺憾ナラスヤ
 牧畜ハ古代ニ於テモ又今代ニ於テモ之レノミラ業トスル人アリ今此事ニ付キ

(法律ト經濟トノ關係)

諸君ノ注意ヲ促サンニ此牧畜ハ常ニ一個ノ物産タルノヨナラス其物産ヲ與スノ基即チ耕作ノ要具ナリ先ツ牛ニ付テ云ハンニ諸君ノ知ル如ク牛ノ肉ハ一般ニ賞美サレ其乳ハ滋養トナルノヨナラス種々ノ飲食物ヲ製スルノ資料トナリ其皮其骨ハ種々ノ製造品トナルナリ斯ノ如ク種々ノ需用アリ而シテ之ヲ飼養スルノ費用ハ實ニ僅少ニシテ到底其利益ト比スルニ足ラサルナリ

又牛ノ農業上ノ用ヲ爲スノ點ハ第一耕作ニ必要ナル力役ヲ助ク即チ物ヲ運搬シ又田地ヲ鋤スルニ付テ牛ノ力ヲ假ルコト多シ第二ハ肥料ヲ得肥料ハ農業上大ナル利益ヲ與フルナリ

此他馬ニ羊ニ皆大ニ利益アリ

日本ニ於テ務メテ此牧畜業ヲ盛大ナラシメサル可ラス然ラハ此牧畜業ハ如何ニシテ開ク可キカ賃借人即チ牧畜ヲ爲ス可キ者ニ於テ其資本ヲ出シテ之ヲ買求ム可キヤト云フニ賃借人ハ自ラ之ヲ買求ムルノ資力ナキハ世間一般ノ有様ナリ

然ラハ其資本ハ政府ヨリ出ス可キカト云フニ是レ不可ナリ何トナレハ日本政

府ハ十數年前ニ亞米利加ヨリ羊等ヲ買入レテ牧畜ヲ試ミタルコトアリシカ巨額ノ金圓ノミヲ要シテ之ニ相應スル利益ナカリシ左レハ政府ハ到底牧畜ノ飼主トナルノ能力ナシ唯タ政府ハ牧畜事業ヲ獎勵ス可キ手段ヲ設ケテ牧畜ノ業ヲ爲ス者ニ或ハ稅ヲ免シ若クハ減スル等ノコトヲ爲スノ職任者ナリ

然ラハ則チ之ヲ買入ル、者ハ資本家ヲ措テ他ニ之ナキナリ而シテ其資本家ハ其買入レタル費金ヲ如何シテ取返スカト云フニ即チ今述タル所ノ方法ニヨリ其獸類ヲ小作人ニ貸付ク而シテ其利益ヲ雙方ニ分ツニアリ其利益ヲ分タントセハ小作人ハ之ヲ建物ニ住マハセ病ニ罹リ又ハ斃ル、等ノコトナキニ注意セサル可ラス

佛蘭西ニ行ヘル、獸類貸貸ハ牛ナレハ其生殖セル子ヲ折半シテ雙方ニ分ケ其乳汁ハ小作人全ク之ヲ得羊ナレハ其生殖セル子モ又其毛モ雙方ニ折半ス而シテ其肥料ハ乳汁ト同ク毎日生スルモノ故ニ其度毎ニ雙方ニ分ツトキハ甚々煩ハシキヲ以テ小作人ノミ全ク之ヲ得故ニ小作人ニ取テハ實ニ利益ナリ

又其獸類ヲ土地ニ付從シテ貸貸スル方法アリ此方法ニヨルトキハ借主ハ何如

ナル利益アリヤト云フニ此場合ニハ契約ノ性質大ニ異ニシテ賃借人ハ牛ナリ羊ナリ其子モ其毛モ其乳汁モ總テ之ヲ自分ニ取得シ而シテ賃借人ニ初メ約束シタル額ノ賃料ヲ拂へハ足レリトス是レ畜類ハ主タル契約ノ耕作ノ助トシテ賃貸シタルニ過キサルカ故ナリ其代ハリ賃借人ハ獸類ノ死セシ如キ場合ニハ其缺ヲ補ハサル可ラズ

此附從ノ獸類賃貸ハ主トシテ獸類ヲ賃貸シタル場合ニ比スレハ絶ヘス計算スルノ煩ナク甚タ都合ヨキモノナリ但シ初ニ當リ其獸類ノ評價ヲ爲サハル可ラス其評價ヲ爲シタル後ハ賃借人自由ニ飼畜スルコトヲ得而シテ能ク之ヲシテ繁殖セシメハ賃借人ノ利益タルカ故ニ賃借人ハ好シテ其繁殖ニ從事シ終ニ此賃借ノ盛大ヲ來タシ經濟上ニ一面目ヲ加フヘシ

土地ニ付從セシムルニアラスシテ單獨ニ獸類ヲ賃借スル者ハ多クハ資本ヲ有セサル貧乏人ナルカ故ニ其飼養方タル至テ忽カニシテ山里ヤ路傍ノ生草ヲ喰ハシメテ而シテ其叔獲ノ半ヲ得ント欲スル者ナリ現ニ佛蘭西ノ片田舎ニ往キテ見ルトキハ僅カ二三疋ノ獸類ヲ賃借シテ細キ一家ノ生計ヲ立テ居ル者鮮カ

ラサルナリ

注意ノ爲メ猶ホ一言セシニ佛蘭西ノ如ク雨ノ多キ國ハ牧畜業ニ適當ナリト説ク者アレトモ甚タ誤レリ佛蘭西國中最モ多ク雨ノ降ル「ノルマンゼー」ハ牧畜業ノ盛ナルコト國中第一ナリ

濕地ハ羊ニ適セスト云フ牛ハ少シモ妨クナシ日本ハ處々ニ乾燥ノ土地アルカ故ニ羊ヲ牧畜スルコト能ハスト云フ可ラス「スエス」國ハ日本ヨリモ猶ホ山ノ多キ國ニシテ牧畜ノ業大ニ開テ世界第一ノ牧畜國ナリ而シテ其獸類ハ皆ナ山野ニ飼養セリ其山野ハ政府ノ所有ナルカ故ニ人民ハ自由ニ踏入テ牧畜セリ日本ハ頃日マテ法律ナカリシ故ニ自ラ進テ事業ヲ興ス者ハナカリシカ既ニ法律ヲ以テ十分共私利ヲ保護スルニ至リタレハ是ヨリ諸般ノ事業家カ振起スルコトハ思フナリ

使用賃借

是ヨリ賃借ノコトヲ論セン

賃借ヲ別チテ二トス曰ク使用賃借曰ク消費賃借ナリ使用賃借トハ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ使用ノ爲メ之ニ動産又ハ不動産ヲ交付シ其約定期限ニ至リ一

(法律ト經濟トノ關係)

方カ其借受ケタル原物ヲ返還スル義務ヲ負擔スル契約ナリ
此使用貸借ハ本業無償ノモノナリ即チ借主ハ之ヲ借ルニ付キ其報酬トシテ何
等ノ物モ與ヘサルナリ若シ借主カ之ニ賃料其他ノ名義ヲ以テ貸主ニ報酬ヲ與
フルトキハ是レ使用貸借ナラスシテ一ノ賃貸借契約ナリ

又此使用貸借ハ其物件ノ借主ヲシテ明示若クハ默示ノ期限ノ後ニ物件ヲ返還
スルノ義務ヲ負ハシムルナリ而シテ借主之ヲ返還スルニハ初メ受取りタル物
チ現狀ノ儘ニテ返セハ足レリ若シ其物件カ全ク變災ノ爲メニ滅盡スルトキハ
借主ハ之ヲ返還スルノ義務ヲ免カル、ナリ若シ又一部分ノ滅盡ナルトキハ其
滅盡セスシテ現存スル部分ヲ返セハ足レリ

使用貸借ノコトハ或ハ冗長ニ涉ルノ恐レアルヲ以テ詳シクハ論セス唯タ經濟
上ヨリ考察シテ一言スルニ止メノミ
經濟上ヨリ考察スルトキハ使用貸借ハ可成的多ク行ハレンコトヲ望マサル可
ラス蓋シ使用貸借ハ元ト何等ノ出捐ヲモ爲サスシテ借受クルモノナルカ故ニ
借主ハ大ニ利益アリ而シテ之ヲ貸シタル所有主ニ於テモ亦タ損失アルコトナ

シ何トナレハ所有主ハ自分ニ使用スルノ必要ナキヲ以テ貸付ケタルモノナレ
ハナリ故ニ此種ノ貸借ハ財産ヲ不用ニ置クノ弊ナク國家經濟上ニ利益アルヤ
明ナリ

然ルニ茲ニ異議ヲ爲ス者アリ曰ク使用貸借ハ多ク行ハレサルヲ以テ一般ノ利
益トス何トナレハ貸借ニヨリテ物件ヲ使用セシメサルトキハ必要アル者ハ必
ス他ニ之ヲ買取ルヘシ之ヲ買取ルトキハ他ノ者ニ利益アルカ故ニ經濟上ノ利
益ナリト此説タルヤ最モ忌ムヘク最モ嫌フモノナルニモ拘ハラズ不幸ニシテ

世間此論者ト其感ヲ同フスル者アリ
夫レ斯ノ如キ説ヲ吐ク者ハ物件カ所有者ノ手裡ニ存スルトキハ其滅盡ヲ希望
スルノ説ヲ立テサル可ラス蓋シ此説ニヨレハ物件滅盡スルトキハ所有者ハ新
ニ之ヲ買求メサル可ラス之ヲ買求ムルトキハ自然商業ノ盛大ヲ見ルト云フニ
至ルヘケレハナリ而シテ世間又然リト唱フル者アリ至愚モ茲ニ至テ極レリト
云フ可シ何トナレハ其物ノ滅盡ナシト假定セヨ新ニ買入ル、金圓ハ之ヲ他ニ
使用スルカ故ニ其物ハ手裡ニ存シテ利用セラル、ナリ

是ヨリ消費貸借ノコトヲ説カン

消費貸借トハ當事者ノ一方カ代替物ノ所有權ヲ他ノ一方ニ移轉シ他ノ一方ハ之ヲ消費シテ或ル時期ノ後ニ其消費シタル物ト同數量同品質ノ物ヲ返還スル義務ヲ負擔スル契約ナリ故ニ此貸借契約ニヨリ物ヲ借入レタルトキハ其物ノ所有權ヲ得ルカ故ニ其借入物カ食品ナルトキ之ヲ食用シ薪炭ナルトキハ之ヲ焚燒シ又金圓ナルトキハ使用ス然レトモ其借人ハ之ヲ消費スルモ之ト同量同質ノ物ヲ返還セサル可ラス故ニ其消費シタル物カ飲食品又ハ薪炭ナランカ之ト同様ノ物ヲ他ニ得テ返還セザ可ラス

此消費貸借ノ目的トナリ得可キモノハ獨リ金額ニ限ラサルナリ凡ソ人ノ所有權ノ目的トナリ得可キモノハ皆ナ此貸借ノ目的物トナルコトヲ得ルナリ然レトモ余輩ハ茲ニ主トシテ金圓ノ消費貸借ヲ説述スヘシ蓋シ此貸借中最モ經濟ニ關係ヲ有スルモノハ金圓消費貸借ナレハナリ

先ツ注意ノ爲メニ一言センニ消費物ハ概シテ當事者ノ意思ニ因ル代替物ト見做セトモ此貸借ノ目的物ハ常ニ必ス消費物(消費物トハ一回ノ使用ニヨリ消耗

スルモノヲ云フ)ナリト誤解ス可ラス假使一回ノ使用ニ依リ消耗スルモノニテモ當事者ノ意思ニテ之ヲ消耗ス可ラスト爲ストキハ消費貸借ニアラサルナリ例ヘハ米商又ハ油商カ同業者ノ店舗ヲシテ充分備アルカ如ク見セシムル爲メ共同業者ニ自己ノ商品ヲ他日其儘返サシムルノ約束ヲ以テ貸付ケ共店舗ニ裝置セシムルカ如キハ消費物ナレトモ代替物ト爲セシモノナリ從テ此貸借ノ部類ニ屬セサルナリ之ニ反シ其性質一回ノ使用ニテ消耗セサル物ニテモ尙ホ此目的物ト爲スコトヲ得例ヘハ一書肆ノ主人同業者ヨリ和佛法律學校講義録第一號若干冊ヲ借リ而シテ同書同冊ヲ返還セント約シタルトキノ如キハ不消費物ナレトモ代替物ト爲セシモノナリ從テ消費貸借ノ支配ヲ受ケ故ニ消費貸借ハ消費物ニ關スル貸借ニアラスシテ代替物ニ關スル貸借ナリ而シテ其代替物トハ當事者ノ意思又ハ法律ニ因リ同種ノ物ヲ以テ代フルコトヲ得ルモノヲ云フナリ

此消費貸借ハ使用貸借ト其表面ヲ異ニスレトモ其性質ヲ探究スルトキハ一ノ使用貸借ニ過キササルナリ何トナレハ之ヲ消費スルハ一ノ使用方法ニ外ナラス

即ち此物ノ性質上消費セサレハ使用スル能ハサルカ故ニ消費スルモノナリ而シテ其期限ノ終ニ至リ之ト同數量同品質ノ物ヲ返還セハ恰モ借入レタル物ヲ其儘返還スルカ如クナレハナリ又消費貸借ハ無償契約ナリ此點ニ付テモ使用貸借ト異ナル所ナシ

然レトモ消費貸借ト使用貸借トノ間ニハ著シキ一個ノ差異アリ其目的物ノ滅盡シタル場合はナリ使用貸借ノ場合は在テハ其物件天變地異等ノ不可抗力ニ依リ滅盡スルトキハ借主ハ返還ノ義務ヲ免レ滅盡ノ損失ハ全ク貸主ノ負擔トナルナリ然ルニ消費貸借ノ場合は在テハ不可抗力ノ爲メニ滅盡スルモ借主ハ返還ノ義務ヲ免レス是レ兩者ノ間ニ存スル著キ差異ナリトス消費貸借ハ亦タ使用貸借ノ如ク無用ノ物ヲ有益ノ使用ニ供スルモノナレハ管ニ借主ノ利益アルノミナラス一般經濟上ニモ大ナル利益アリトス但シ借主之ヲ奢侈ニノミ使用スルカ如キトキハ別ニ利益ナカルヘシ然レトモ之ヲ専ラ自己ノ奢侈ノ爲メニ消費スルカ如キコトハ世間甚タ稀ナルコトナレハ暫ク之ヲ想像ヨリ除却セサルヘカラス

曩キニ余ハ消費貸借ノコトニ付キテハ主トシテ金額ノコトニ付キ説述スヘシト云ヘリ金額ノ消費貸借中利足付貸借ナルモノアリ利足付トハ諸君公平生目撃セル如ク借人カ其元金ニ多少ノ利息ヲ付シテ返還スルヲ云フナリ此利息付貸借ハ經濟上富ノ配當ト至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ大ニ論セサル可ラス凡ソ金圓ハ他ノ物品ト異ニシテ之ヲ使用スルノ途多クシテ其方法ニ因却スルカ如キコトナシト云フモ過言ニアラサルナリ故ニ何人ノ手ニアルチ間ハス之カ使用ニヨリ利益スルコトヲ知ル可シ左レハ夫ノ借主モ亦之ヲ借用シテ以テ多少ノ利益ヲ得タリト云ハサル可ラス既ニ利益ヲ得タリトセハ利息ノ名義ヲ以テ其得タル利益ノ幾分ヲ貸主ニ與フルコトヲ要ス斯ノ如クスルトキハ貸主ハ自己ノ使用ヲ廢シテ借主ニ貸シテ使用セシメタル報酬ヲ得ルコトナリ結局雙方ノ利益トナリ隨テ社會利益ノ配當モ亦タ圓滑ナルカ如シ然レトモ金圓ニ利息ヲ付スルコトニ付テハ世上議論ノ多キコトナレハ茲ニ左ノ二點ヲ論究セサル可ラス而シテ此二點タルヤ一ハ經濟ニ關シ一ハ法律ニ關スル至大ノ要アルモノトス

第一 利息附ノ貸借ハ正理ニ適スルヤ及有益ナルヤ否○此問題ニ對シテハ正當ニシテ且ツ有益ナリト答ヒサル可ラス其有益ナル所以ハ別ニ説明ヲ要セスシテ明ナリ世間最モ有益ノ物ヲ何等ノ報酬ヲモ得スシテ人ニ貸スコトヲ欲セス今金圓ヲ貸スニ當リ貸主ハ利息即チ報酬ナケレハ貸サスト云ハ、之ヲ借ント欲スル者ハ必ス其利息ヲ拂ハサル可ラス然ラサレハ世上又貸付者ナカルヘク隨テ之ヲ借用スルノ必要アリト雖トモ終ニ其必要ヲ充タス能ハサルヘシ世人苟モ貸借ノ必要ナルヲ認メナハ貸借ノ利息附ナルヲ以テ無益ナリト云フハ甚タ至難ノコトタル可シ

然レトモ人或ハ疑テ抱テ曰ハン貸主カ借主ヨリ得ル所ノ利息ハ要スルニ借主カ其金圓ノ使用ヨリ得タル利益ノ一部ナリ果シテ然ラハ貸主ハ之ヲ貸附クルコトヲ爲サスシテ自ラ之ヲ使用セハ其利益ノ全部ヲ取得ス可シ故ニ專ラ貸主ヨリ看察スルトキハ別ニ利益アルヲ認メ難シト余ハ之ニ反問シテ曰ハン貸主若シ其金圓使用ノ途ナキトキハ如何又其方法ナキトキハ如何又其途アリ其方アリト雖トモ自ラ使用シ能ハサルトキハ如何ト

又疑ヲ抱ク者曰ク若シ其利息高キトキハ借主ノ得可キ利益ハ尠少ナラスヤ加之ナラス借主之ヲ使用スル方法ナキトキハ毫末ノ利益タモ之ナキニ非ラスヤト寔ニ然レトモ借主ノ得可キ利益ノ多寡ハ未タ有利貸借ヲ排斥スルニ足ラス又借主力使用ノ途ナキコトハ殆ト之ナカルヘシ兎ニ角茲ニ之ヲ論スルニ當テハ使用ノ途アリ又其所得アルコトヲ想像セサルヘカラス然レトモ利息付ノ貸借ハ果シテ正理ニ適スルヤ否ヤニ付テハ種々ノ異論ヲ容ルハコトヲ得又現ニ異論ヲ容ル、者アリ之ニ付テハ先ツ第二點ヲ論定セサル可ラス

第二 利息附貸借アリトセハ其息利ノ高ハ如何ニシテ定ムヘキ乎其定額ハ當事者ノ自由ニ放任スヘキカ將テ制限ヲ付スヘキカ是レ經濟上ヨリ論セサル可ラス

此第二點ニ付テハ公益上及ヒ經濟上ヨリ論下シテ制限ヲ附スルヲ以テ可ナリ正ナリト唱フル者アリ余ハ先ツ第一ニ於テ利息附貸借ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ利息附貸借ハ希臘羅馬ニ於テ未ダ曾テ禁シタルコトアラザルナリ唯

僅ニ其高ニ制限ヲ付セシコトアリシノミ中古佛國ニ於テハ全ク之ヲ禁シタリ
 乞フ沿革ニ就テ之ヲ見シ
 利息附貸借ヲ許シタル法律ノ最初ニ顯ハレタルハ印度ノ法律ナリ希臘法羅馬
 法ハ皆ナ之ニ基キ而シテ歐洲諸國漸次之ニ倣ヘリ惟フニ日本ノ利息付貸借ノ
 慣行ハ夫レ或ハ支那ヨリ傳來シタルニアラサルカ
 然ルニ中古ニ至リ耶蘇教ノ影響ニヨリ歐羅巴ニ於テハ貸借ニ利息ヲ附スルコ
 トヲ嚴禁シ之ニ肯ク者アルトキハ嚴刑ニ處スルコト、ナレリ蓋シ中古歐羅巴
 ニ於テハ宗教ノ勢力甚タ熾シニシテ遂ニ宗教ト通常ノ法律トヲ混合シ宗教ノ
 法律中ニ通常ノ法律ヲ設クルニ至レリ而シテ其法律タルヤ皆テ嚴酷ニシテ悚
 慄スヘキモノ、ハミナリキ是レ他ナシ其法律ノ元素ハ宗教ノ法則ヨリ成レハナ
 リ此利息附貸借ハ其法則中ノ誓約全書ト新約全書トニ於テ之ヲ禁スル旨ヲ記
 載セリ當時此禁制ハ道德上ノ法則トシテ掲ケタルモノナリシカ之ヲ法律上ニ
 適用ス可キモノトナシ終ニ移シテ以テ法律上ノ規則トナセリ然レトモ其規定
 タル遠ク眞理ノ域ヲ離レタルモノナレハ其命脈ヲ永遠ニ保持スルコトヲ得サ

ルハ蓋シ亦タ當然ナリト云フヘシ
 此ノ如ク中古ニ於ケル利息ノ禁制ハ偏ニ宗教上ノ法則ニ根基スルコトヲ知ラ
 ハ別ニ之ヲ論スルノ必要ナシ何トナレハ宗教ト法律トノ混合ハ其理非既ニ明
 白ナレハナリ然ルマ嘆哉當時此禁制ヲシテ單タ宗教上ノ法則ニノミ原因セシ
 メスシテ更ニ一ノ理由ヲ付シテ利息禁制ハ公義ニ基クモノナリト稱セリ是ニ
 於テカ學者之ヲ駁撃スルノ止ムヲ得サルニ至レリ其公義上ノ理由トハ何ソ當
 時說者謂ラク土地ヲ貸付スルトキハ借主ハ之ヲ耕セハ米麥其他ノ果實ヲ得可
 シト雖トモ夫ノ金錢ニ至テハ決シテ此ノ如キモノニ非ラス又土地以外ノ所有
 品ヲ貸與スル場合モ同一ニテ所有品自ラカ利ヲ生スルモノニアラサルナリ故
 ニ金錢其他ノ物品ノ貸借ニ利息ヲ付スルハ甚タ不當ナリト此說タル今日ヨリ
 之ヲ見レハ實ニ嗤笑ニ堪ヘサルナリ說者ノ意ニヨルトキハ家屋ノ如キ亦タ自
 ラ利ヲ生スルモノニ非ラスト言ハサル可ラス而シテ當時果シテ家賃ヲ拂フコ
 トヲ禁シタルコトアリシヤ家賃ヲ禁セスシテ金利ヲ禁セシハ寔ニ兒戲ニ類セ
 リト云ハサル可ラス且夫レ家屋ヤ金圓ヤ皆テ能ク果實ヲ生スルモノナリ豈獨

リ土地ノミナランヤ
今若シ借ルヘキノ家ナシト假定センカ借主タル者ハ已レノ金圓ヲ以テ之ヲ買入ル、カ又ハ之ヲ建築スルカ執レニシテモ相當ノ金額ヲ費サ、ル可ラス然ルニ今之ヲ借入レタルカ爲メ別ニ金圓ヲ費ヤスヲ要セカリシニアラスヤ而シテ其金圓ヲ以テ土地ヲ買入レタリトセヨ其土地ヨリ果實ヲ得ヘシ左レハ歸スル所其家ヲ借リタルニヨリ果實ヲ牧獲シタルモノナリ是ヲ以テ之カ報酬トシテ賃料ヲ拂フハ固ヨリ當然ナリ又貸主ヨリ看察スルモ自己ノ使用ヲ缺キテ他人ニ使用セシメタルモノナレハ其報酬ヲ得可キハ當然ナリ
金圓ヲ借入レタル場合ニ於テモ亦タ之ト同一ナリ其金圓ヲ以テ家屋ヲ建築セリトセハ其家屋ノ成リタルハ金圓ヲ借入レタルカ爲メナリ又土地ヲ買入レテ果實ヲ取得センカ其果實ヲ取得スルハ元ト金圓借用シタルカ爲メナリ是ニ由テ之ヲ見レハ金圓ノ貸借ニ在テハ其金圓カ如何ナル場合ニ使用サル、モ又如何ナル方法ニ使用サル、モ之ニ關スルコトナク利息ヲ拂ハシムルノ至當ナルヲ知ル可シ

利息ノ正當ナルコト固ヨリ言テ誤タサルナリ然ルニ余輩カ驚嘆ニ堪ヘサルモノハ今日ノ經濟學者中尙ホ貸借ノ利息ヲ不正ナリト唱フル者アルコト是ナリ現ニ佛國有名ノ學者ブールドン氏(此人ハ今ヨリ二十年前ニ死セリ)ノ如キハ痛ク其不正ナルヲ論セリ此ブールドン氏ノ說ハ敢テ宗教上ニ基クニアラス又中古ノ思想ニ基クアラズ全ク他點ヨリ看察シテ論下セシモノナリ又現時佛國ノ法律學者中ニ博識ノ聞高キ或ル學者ハ近コロ書テ著ハシテ貸金ニ利息ヲ付スルノ不正ナルヲ痛論セリ其著書ヲ或ル友人ヨリ寄セタルヲ以テ余ハ反覆丁寧ニ之ヲ讀メリ此學者ハ大ニ中古時代ノ理論ヲ敷衍セリ左レト此等ノ論ハ如何ニ近時ノ學者ニセヨ又如何ニ博識ニセヨ諸君ハ此說ヲ可トシ賃借ニ利息ヲ付スルハ不正ナリ經濟上ノ原則ニ反ストハ決シテ認メサルヘシ夫レ經濟上配當ノ原則トシテ資本家ハ其資本ヲ使用シテ得ル所ノ利益ノ一部分ヲ取得シ其他ノ部分ノ利益ハ勞力者ニ於テ分配スヘキモノナリ諺ニ言フ「金カナケレハ何事ヲモ爲ス能ハス」トハ一般ニ通用スヘキ正確モノニアラスト雖トモ之ヲ茲ニ適用スルヲ得可シ即チ如何ナル才能如何ナル器量アル人

(法律ト經濟トノ關係)

ニテモ資本ナカラシカ今時ニ在テハ何等ノ事業ヲモ爲スコト能ハサルヘシス
ノ如キ必要ノ費本ヲ借り而シテ之カ利息即チ報州ヲ附與スルノ不正ヲ説クハ
蓋シ臆若クテラサル可ラス
第二 既ニ利息ヲ以テ正當ナリトセハ其利息ハ幾何ノ割合ヲ超ユ可ラステ法
律上制限ス可キカ又ハ其高ハ幾何ニスルモ一ニ當事者ノ自由ニ委ヌ可キカ換
言セハ利息制限ノ可否如何
今夫レ數人相集リテ一ノ殖産業ヲ起シ是ニ因テ得タル利益ヲ各自ニ分配セン
カ其分配ノ割合ハ數人ノ者自由ニ定メ得可ク其割合カ如何ニ高額ニ上ルモ法
律ハ之ヲ妨クサルナリ獨リ數人ノ計畫ニ係ル場合ノモナラス他ノ場合ニ在テ
モ亦然ラサルナシ例ヘハ土地若クハ田畝ヲ人ニ貸貸シタリトセヨ其賃借人ハ
其地主ニ賃料ヲ拂ハサル可ラス而シテ其賃料タルヤ幾何額ヲ超過ス可ラス幾
何額ノ定款ハ無功ナリト制限シタル法律ハ何レノ時何レノ國ニ於テモ未タ曾
テ見サルナリ又家屋ノ賃貸借ニ於テモ幾何額ヲ超過ス可ラス幾何額ノ定款ハ
無効ナリトスル法律ハ之ナキナリ

又例ヘハ數人相集テ會社ヲ組織シ一人ハ土地家屋其他ノ實物ヲ離出シ他ノ一
人ハ技藝若クハ才能ヲ以テシ又其他ノ者ハ信用其他ノモノヲ以テセリト假定
セヨ其會社事業ニヨリ得タル利益ノ分配ハ誰ハ幾割彼レハ幾何ト之カ割合ヲ
定ムルハ社員ノ隨意ニシテ他ヨリ干渉スルコトナシ
又例ヘハ一ノ製造業ヲ起シ數多ノ職工ヲ使役シテ其賃錢ヲ供スル場合ニ於テ
法律ハ未タ曾テ職工ト親方トノ間ニ存スル賃錢ノ割合ニ干渉シタルモノナシ
此賃錢タルヤ其實想ヲ穿テハ其事業ヨリ得タル利益ノ一部ニシテ富ノ分配即
チ配當ナリ
諸般ノ事業ニ於テ其利益ノ分配ニ制限ヲ付セサルコト此ノ如シ然ルニ金錢貸
借ノ利息ニ付テハ數多ノ國ニ於テハ之ニ制限ヲ付シ幾分ノ高ヲ超過ス可ラス
ト定メタル法律アリ是果シテ正當ナルヤ否此事日本ノ特別法ニ就テモ亦タ論
スルコトヲ得可シ
諸君モ知ル如ク日本ノ利息制限法ニヨレハ百圓以下幾割百圓以上千圓以下幾
割千圓以上ハ幾割ト金高ニヨリ制限ヲ異ニセリ聞ク所ニヨレハ此規則制定前

ニハ利息ノ額ハ當事者ノ自由ナリシト云フ。兎ニ角利息ノコトニ付テハ二箇ノ法律アルモノト知ルヘシ。即チ一ハ之ヲ制限シ一ハ制限セサル法是ナリ。而シテ日本利息上ノ制度ハ歐洲沿革ト相反對セリ。蓋シ歐羅巴ニ在テハ初メ利息ニ制限ヲ設ケシカ。漸次之ヲ全廢シ或ハ減少ス。現ニ佛國ノ如キハ稍ヤ其自由ニ委スルノ傾向アリ。然ルニ日本ハ以前ニ之ヲシテ今ニ之アリ。是レ歐洲ノ進歩ト反比例ヲ爲スニアラスヤ。

佛國ニ於テハ利息ノ制限ハ民事ニ付テハ五分商事ニ付テハ六分ノ定メナリ之ニ付テ經濟學者ノ議論絶ユルコトナシ。或ハ其制限ヲ不正ナリト論シ或ハ舊來ノ慣行廢ス可ラスト説キ實ニ器々タリシ。然ルニ今ヨリ五年前ニ至リ商事ニ於ケル六分ノ制限ヲ廢止シ商事ニ在テハ幾何ノ割合ニ定ムルモ當事者ノ隨意ニシテ法律ノ干渉セサルコトハナレリ。惟フニ民事ニ付テハ五分ノ制限モ亦タ廢止セララルコト遠キニアラサルヘキハ余カ深ク信シテ疑ハサル所ナリ。

余ハ日本ノ此制度ニ於ケル進歩ハ歐洲ト反對ナリト云ヘリ。然レトモ佛蘭西ニ於テモ其初メハ之ヲ制限セサリシカ。中コロニ至テ之ヲ制限スルニ至リタルモ

ノナリ。左レハ日本ノ制限ニ付テ非難スルトキハ同時ニ佛蘭西ノ制度ヲ非難スルコトハナル。佛蘭西ハ却テ日本ヨリモ疾クニ制限ヲ設ケタリ。日本ハ初メ自由ニシテ今ハ制限シタルカ故ニ日本今日ハ二段目ノ場合ナリ。佛蘭西ハ初メ自由ニシテ中コロ制限シ而シテ今又之ヲ廢シテ自由ニ委スルノ傾向ナレハ佛蘭西今日ハ三段目ノ場合ナリ。左レト日本ハ佛蘭西ヨリモ先キニ進行スルヤ知ル可ラス。

余輩ハ利息制限ス可ラスト主張スルニ付キ十分ナル理由ヲ有セリ。今此理由ヲ論スルニ先チ茲ニ歴史ニ就テ其沿革ヲ一言セサル可ラス。

佛蘭西ニ於テ今日マテ行ハレ居ル法律ハ多クハ羅馬法ニ基キタルモノナリ。故ニ茲ニ羅馬法ヲ説カハ別ニ佛蘭西法ノ説明ヲ爲サストモ諸君自ラ之ヲ知ルニ足ラン。

羅馬ニ於テハ利息制限ニ二箇アリ。其一ハ年一割二分以上ニ貸スコトヲ得ストノ制限是ナリ。羅馬語ニ「サンデシユマ」シユラ」(Centesima annua)ト云フ。ハ月十分ノ一ト云フコトナリ。日本ニ於テモ亦タ一割二分ノ制限アルハ羅馬法ニ依リ

シヤ否ヤハ知ラサレトモ又奇ナリト云フヘシ
 其二ノ制限ハ奇態ノ方法ナリ即チ利息カ漸次重テ來リテ元金ト同一ノ額ニ至
 ルトキハ利息付ノ貸借ナシトスル制限是ナリ此制限ニヨルトキハ一割二分ノ
 利息ハ八年半ニシテ元金ト同一ノ額トナルナリ故ニ縱ヘ十年ノ年限ヲ以テ
 貸借シタリトセハ其貸借ヨリ八年半ノ後ニハ其利息額元金ト同一ニナルカ故
 ニ借主ハ八年半ノ後ニハ利息ヲ拂フノ義務ナク其時ヨリ後ハ五年經ルモ十年
 經ルモ貸主ハ唯タ元金ヲ受取ルコトヲ得ルノミナリ
 更ニ迦テ希臘國ノ利息制限ヲ陳ヘント欲スレトモ希臘ノ法律ハ羅馬法ノ如ク
 整頓シタルモノニ非ラス隨テ之ヲ知ルニハ種々ノ法律中ヨリ搜索セサル可ラ
 ス故ニ茲ニ之ヲ略シテ陳ヘス止タ印度ノ「マヌー」法典ニ就テ一言セン
 印度ノ「マヌー」ノ法典ヲ見ルニ羅馬法ノ第二制限ノ如ク其利息ノ額カ元金ノ額
 ト等シキニ至ルトキハ以後ハ利息ヲ拂フニ及ハストセリ考フルニ羅馬ノ第二
 制限ハ羅馬人自ラ發明シタルニ非ラスシテ此印度ノ古法ヲ採用シタルモノナ
 ルヘシ

又印度ノ「マヌー」ノ法典ニハ利息ノ高キ月二分ニ制限セリ故ニ年二割四分ニ當
 ルナリ此二分ノ制限ハ稍ヤ自由ニ近キモノト云フヘシ此印度ノ制限額カ至當
 ニシテ稱ス可キ點ハ擔保ノ有無ニヨリテ其利息ヲ異スルコト是ナリ蓋シ擔保
 ナキトキハ格別ナレトモ借主ヨリ抵當ヲ出シタルトキハ其利息ハ二分ノ高キ
 利息ヲ以テセストモ一分若クハ一分幾厘ノ利息ニテ足レリト爲スハ普通ノ道
 理ナリ利息制限ヲ設ケスンハ則チ止メン苟モ之ヲ設クル以上ハ抵當ノ有無ニ
 注意セサル可ラス印度ノ「マヌー」法典ニ於テ抵當ノ有無ニヨリ其制限ヲ異ニシ
 タルハ之ヲ今世一概ノ法律ニ比スレハ優ルコトヤ遠シト云フ可シ
 利息制限ノ沿革此ノ如シ是ヨリ利息制限ノ不當ナル理由ヲ示サン
 利息制限ス可ラサル理由二アリ(第一)自分ノ物ヲ人ニ貸ストキハ自分ハ其用ヲ
 缺クヲ以テ相當ノ報酬ヲ得サル可ラス(第二)人ニ金圓ヲ貸ストキハ其辨濟ニ依
 リ再ヒ己レノ手ニ戻ルヤ否ヤ未タ期ヲ可ラス故ニ其辨濟期限ヲ定メ且ツ相當
 ノ報酬ヲ得サル可ラス要フルニハ己レノ用ヲ缺キ一ハ危險ヲ蹈ムニ由ル而
 シテ其用度ヤ常ニ同一ナラス其危險ヤ又常ニ同一ナラサルナリ其時ニ依リ其

(法律ト經濟トノ關係)

人ニ依リテ用度危險ヲ異ニスルカ故ニ之ヲ當事者ノ適意ニ委セサル可ラス假
 ヘハ金圓ヲ貸付シタル後突然不慮ノ入用出來タリトセンカ共入用ニ應セント
 スルモ金圓ハ已ニ人ニ貸付シタルヲ以テ如何トモス可ラス又其金圓ヲ貸付シ
 タルノ後頗フル利益ヲ得可キ物アリ之ヲ買取ラントスルモ已ニ其金圓ナキチ
 如何セン他ヨリ借ランカ他人之ヲ貸サハルトキハ又如何トモスルコト能ハサ
 ルナリ是ニ因リ共用ヲ缺クノ報酬ヲ得ル固ヨリ其所ナリ

又例ヘハ各別ノ合意ニ依ル借主二人アリ一人ハ正直ニシテ且ツ辨濟ヲ確保ス
 ヘキ充分ナル不動産ヲ有ス他ノ一人ハ其人物ノ底モ知レス又別段財産モ之ナ
 キ者ト假定センニ借主前者ナランニハ其辨濟ヲ得サルノ恐レナキカ故ニ其利
 息ハ左マテ高キヲ要セサルヘシト雖トモ共借主後者ナランニハ時ニ辨濟ヲ得
 可ラサルノ恐レアルヲ以テ前者ト同一ノ利息ニテ貸附クルハ甚タ危險ナリト
 ノ感想ハ誰モ皆同一ナルヘシ此例動産ノ所有者ニ移スモ同一ナリ即チ巨多ノ
 動産ヲ有スル者ハ稍ヤ其權利ヲ確保スルノ見込アリト雖トモ無一物ノ者ニ對
 シテハ頗フル危險タルノ念ヲ抱クヘキナリ此他別ニ財産ヲ有セサル者ト雖ト

モ儘カナル保證人ノアルト否トニ依リ危險ニ差異アリ從テ其利息ニモ亦タ影
 響セサルヘカラス

古ヨリ諸國利息制限ノ法律アリト雖トモ印度マヌーノ法律ヲ除ク外一トシテ
 擔保ノ有無ニ依リ利息ノ制限ヲ異ニシタル者ナキハ怪訝ニ堪ヘサルナリ
 然リト雖トモ余ハ日本其他ノ國ノ法律ヲシテ「マヌー」法典ノ如クナラシメ
 欲スルニ非ラサルナリ何トナレハ縱令抵當ノ如キ擔保アリトスルモ其擔保
 ル抵當ハ確實ナルモノアリ不確實ナルモノアリ其確實不確實ノ程度ヲ計リテ
 一々之ニ適應ナル法律ヲ制定スルコトハ決シテ能ハサルコトナレハナリ現ニ
 日本ノ如キハ一ノ抵當ヲ二重三重ニスルコト行ハルハナリ左レハ第一ノ抵當
 權者ハ初メ確實ナル擔保ヲ有スレトモ二重三重ノ抵當設定ノ爲メ其擔保ハ次
 第ニ不確實ナルニ至ルナリ立法者ハ果シテ此程度ニ隨ヒ其利息ヲシテ適宜ナ
 ラシムルコトヲ得可キヤ故ニ余ハ「マヌー」法典ヲ日本佛國等ノ法律ニ比シテ優
 レリト曰フト雖トモ日本佛國等ノ法律ヲシテ又「マヌー」ノ法典ノ如クナラシメ
 ント欲スルニアラサルナリ

決シテ少ナカラス論者此等ノ人ヲ目シテ憫ム可キ境遇ニ在ル不幸且ツ無實力者リナト云フヤ論者克ク眸ヲ商人社會ニ凝ラサハ思半ニ過クルアラソ然レトモ余輩ハ駁論ヲ茲ニ止メス更ニ進メテ論者ノ狹隘ナル想像ニ基キ眞ニ不幸無産ナル者ニ就キ制限論ノ非ナルヲ見ソ
不幸ニシテ且ツ無實力ナル者ヲ救護スル爲メニ制限スト曰フト雖トモ是レ決シテ救護スルノ方法ト爲スニ足ラス之ヲ救護スルノ道ハ此ニアラスシテ他ニ存スルナリ若シ此方法ニシテ眞ニ當レリト爲サハ金額ト物品トノ差異ハアレトモ理ニ於テ又當ニ借家人ノ如キ者ヲモ不幸者ナリ可憫者ナリトシテ其借賃ヲ制限セサル可ラス果シテ之ヲ制限シタル法律アリヤ又職工ニシテ貧困ノ餘其職業ニ必要ナル道具器械ヲ失ヒ他ヨリ借賃シテ日々ノ營業ヲ爲ス者ヲモ亦保護セサル可ラス猶ホ卑近ノ例ヲ日本ニ取テ示サンニ現ニ東京ノ人力車夫ノ如キハ自ラ人力車ヲ所有スル者稀ニシテ殆ト皆ナ他ヨリ借來リ日々若干ノ賃料ヲ拂フモノナリ而シテ此等ノ者ハ其賃料ヲ扣除シタル僅少ノ勞力賃金ニテ細キ烟ヲ立テリト雖トモ兎ニ角此ニ據テ以テ生計ヲ爲セリ又荷車其他ノ器

械ヲ賃借シテ漸ク其日ノ生業ヲ爲ス者ニ付テモ同一ナリ試ニ此等ノ賃料ヲ算シテハ實ニ其高大ナルニ驚クナル可シ察スルニ荷車人力車等ノ賃料ハ大概一日五錢ニ下ラサル可シ今之ヲ五錢ト假定セヨ通常荷車等ノ賃額ハ知レ切タルコトナレハ此五錢ヲ一年ニ勘定スルトキハ其歩合ハ法律上制限シタル金利ノ割合ヨリモ遙カ超過スルヘシ是レ夫ノ日歩ノ貸金ト何ソ撰ヘン即チ貧究人カ其日限リノ一圓内外ノ金額ヲ借入レ之ヲ其日生業ノ資本トナシ之ヲ利用シテ魚類又ハ野菜ヲ市ニ鬻キ利殖シテ二圓内外ノ金額ヲ得此所得中ヨリ貸主ニ五錢ノ日歩ヲ拂フコトアルハ諸君ノ知ル所ナリ此一日五錢ノ利息ハ則チ一日五分ノ割合ナリ故ニ之ヲ三百六十五日ニ乘シテハ其割合果シテ幾何ソヤ此ノ如キモノ佛國ニモ亦之アリ然レトモ法律ハ之ニ干渉シテ其割合ヲ制限セント欲スルハ誤謬ナルノミナラス實際行ハレサルナリ何トナレハ一日五錢ノ利ハ高ハ則チ高ナリ然レトモ彼等ハ是ニ據テ以テ若干ノ利益ヲ得其中ヨリ五錢ヲ拂ヒ殘額ヲ以テ生計ノ資ト爲スナレハ決シテ高利息ノ爲メニ困苦ニ陷非レリ憫ム可キ者ナリ救フ可キ者トハ云フ可ラサレハナリ殊ニ此等ノ貸借ハ日毎ノ

重利

モノナレハ借主辨濟セサレハ貸主ハ翌日ノ貸借ヲ爲サ、ルカ故ニ法律ノ忍ル
、危険アルコトナシ
此ノ如ク論シ來ルトキハ借主カ利息借ノ爲メ漸次負債相嵩ミ轉々零落シテ惘
ム可キ境界ニ陷ルヲ救ハシカ爲メ其利息ヲ制限ストノ法律ハ實ニ笑フ可キ
ナリ夫レ利息付貸借ニ於テ借主ヲ保護ス可キノ點ハ此ニアラスシテ他ニアル
ナリ他トハ何ゾ重利息即チ是ナリ重利息トハ拂制限ノ經過シタル利息ヲ元金
ニ組入レ之ヨリ更ニ利子ヲ生セシムコトナリ例ヘハ三ヶ月ノ期限ニテ若干圓
ヲ借入レタレトモ其期限ニ至リ辨濟スルコト能ハサルニ依リ猶ホ三ヶ月ノ延
期ヲ乞ヒ而シテ之ヲ延期スルニ當リ其期限ヲ經過シタル三ヶ月分ノ利子ハ之
ヲ元金ニ組入レタリトセハ此組入レタル利金ハ己ニ元金トナリシ故ニ之ヨリ
更ニ利息ヲ生スルナリ此ノ如クシテ延期ノ三ヶ月ヲ過キテ又更ニ若干月ノ延
期ヲ乞ヒ這般モ又タ上ノ如ク延期間ニ生シタル利子ヲ元金ニ組入レ次第ニ利
カ利ヲ生スルトキハ其元金ハ意外ノ高額トナリ借主ノ困難ヤ想フ可シ此ニ至
リ法律ノ保護スルハ上ノ制限ニ比スレハ大ニ理アルナリ

今此重利即チ利息ヲ元金ニ組入ル、コトニ關シ法律ニ二箇ノ規定アリ此規定
ハ多少其重利ノ困難ヲ救ハントスルモノナリ
第一 時効法ニヨレハ利息ハ五年ヲ經過スレハ之ヲ拂フノ義務ヲ免カル、モ
ノトナセリ(佛民法第二百七十二條日本民法時効編第五百十六條此五年ノ
期限ハ決シテ長カラサルナリ
貸主ハ利子ノ請求ヲ爲スコトナク打捨テ置クトキハ利益ナキノミナラス時効
ノ爲メニ其權利ヲ失フカ故ニ期毎ニ之ヲ請求ス可ク又借主ニ於テハ之ヲ拂フ
コトナクシテ打過クルトキハ利子相重リテ困難ヲ増スカ故ニ可成丈其辨濟ヲ
速ニ爲サンコトヲ力メナハ左程ノ難儀ヲ來タサル、ヘシ
第二 民法ニヨレハ貸借ノ當時ニ於テ利子ヲ元金ニ組入ル、ノ約束ヲ爲スヲ
得ス必ス特別ノ合意又ハ裁判所ニ請求スルヲ要スト爲セリ即チ其利息ヲ拂ハ
サル場合ニ至テ之ヲ元金ニ組入ル、ノ約束ヲ爲スハ是レ一ノ合意ニシテ借主
ハ新ニ一ノ義務ヲ負フタルモノナルカ故ニ干渉スヘキノ限ニアラス然レトモ
貸借ヲ爲ス當初ニ其利子ヲ元金ニ組入ル、約束ハ之ヲ禁セサル可ラストセリ

(法律ト經濟トノ關係)



而シテ民法ハ之ニ満足セス猶ホ規定シテ已ニ經過シタル一年分ノ利息ニアラサレハ元金ニ組入ル、ヲ得スト爲セリ(佛國民法第千五百四十四條日本民法三百九十四條)○日本民法ハ毎ニ特別ニ合意シ又ハ裁判所ニ請求シ且其時ヨリ後ニ非サレハ此ニ利息ヲ生セシムル爲メ云々ト明瞭ニ規定シタルトモ佛民法ハ此點明瞭ナラス佛蘭西ノ俚言ニ兩耳ヲ掩フテ眠ルト云フコトアリ此言人ハ世ヲ忘レント欲スルモ到底忘レ得キモノニアラストノ意味ナリ此語玆ニ適用セハ人ハ歳々目覺シテ年毎ニ利息ノ相累ナルヲ見サル可ラス目覺シテ之ヲ見ルトキハ其額ノ高大ニ至ルニ驚ク可シ是ニ因テ法律ハ之ヲ制限シテ無限ニ積ムナキヲ欲セリ

然レトモ此制限タルヤ之ヲ實際ニ徵スルニ或ル手段ノ爲メニ凌カレタリト云フ可シ何トナレハ今金圓ヲ貸借スルニ當リ貸主ハ一割五分ノ利息ニアラサレハ貸スコトヲ肯シセス借主ハ之ヲ借ラサレハ急ヲ救フ能ハサル場合ニ於テハ其一割五分ノ利息ヲ約シテ而シテ一割五分ハ法律ノ禁スル所ナルニヨリ茲ニ一工夫ヲ案シ契約ノ表面上ハ一割二分ト爲シ而シテ他ノ三分ハ秘密ニ授受ス

例へハ八百五十圓ヲ借リテ一割五分ノ利息ニ定ムルトキハ其證書面ニ金千圓云々ノ利息一割二分ノ定メノコト、記載スルナリ此ノ如ク表面上千圓ノ額ヲ記シテ一割二分ノ定款ヲ掲クルトキハ實ニ一割五分ノ利息トナルヲ猶ホ他ニ手段アリ即チ千圓ヲ一ケ年貸ス場合ニ當リ貸主ハ一割五分ノ勘定ヲ以テ一ケ年ノ利息ヲ豫メ其元金ヨリ扣除シ而シテ借主ヲシテ證書面ニ千圓ノ額ト一割二分ノコトヲ記載セシム此他例ヲ舉クレハ枚舉ニ遑アラスト雖トモ法律ヲ潜脱スルノ方法ヲ諸君ニ示スハ余カ欲セサル所ナリ右ノ例ハ人ノ已ニ知ル所ナルヲ以テ之ヲ示シタルノミ

夫レ法律上ノ利息制限ハ之ヲ經濟上ヨリ論スルトキハ到底廢セサル可ラス凡ソ利息ノ高低質料ノ上下其他百般事物ノ價格ハ經濟學上ノ憲法トモ稱スヘキ需用供給ノ法則ニ支配セラル、モノナリ即チ貨幣ノ多キトキハ貸人即チ金主多クシテ借人少ナク隨テ金圓ヲ有スル者ハ空クシテ貯藏スルヨリモ貸付ケテ利息ヲ得ルノ益ナルニ如カサルヲ以テ其貸方ニ競争シ其利息益ス下落スルニ至ルヘク之ニ反シ今年ノ如キ金融逼迫ノ時ニ當テハ借人多クシテ貸人少ナク

隨テ其歩合高クトモ借入山ノ如クナルヲ以テ其利息ハ益ス騰貴ス可シ此事如何ナル法律ヲ以テモ抑止スルコト能ハサルナリ

殊ニ金圓貸借ノ如キハ需用供給ノ法則ノ外ニ尙ホ信用ナルモノアリテ此信用ハ又以テ其利息高低ノ一原因ナリ例ヘハ甲乙二人アリ甲ハ相當ノ資産アリ名譽アリ信用アリ乙ハ資産モナク名譽モナク信用モナキモノトセンカ若シ甲カ金圓ヲ借ラントスルトキハ金圓ヲ有スル人ハ喜テ之ニ貸與スルノミナラス其利息ハ五分コトモ四分ニテモ蓋シ其人ノ定ムル所ニ任セン然ルニ夫ノ無一物ニシテ信用ナキ乙ニ至テハ誰カ辯濟ヲ得サルノ危險ヲ蹈テ此ノ如キ低利ノ金圓ヲ貸サンヤ一割五分六分若クハ二割ニアラサレハ貸スコトヲ肯ンセサル可シ故ニ乙ハ止ヲ得ス其高利ノ金額ヲ借ラサルヘカラス而シテ此高利ノ金タル乙決シテ借り易キニアラサルナリ諸君ノ知ル如ク先年日本政府カ公債ヲ募集セシカ其公債ノ利子通常貸借ノ利子ニ比スレハ至テ低利ナリ然レトモ人民ハ猶ホ喜ソテ之ニ應セリ是レ何ソヤ蓋シ政府ヲ信用スレハナリ

此二法則ハ實ニ自然ノ道理ナルコトヲ知ル可シ然レトモ如何ニ政府ナリトテ

常ニ低利ヲ以テ借入レ得ルモノト誤解ス可ラス政府ト雖トモ亦一個人ノ如ク經濟上ノ厚則ノ支配ヲ免カル能ハサルナリ今政府カ戰亂ノ爲メ金圓ノ必要ヲ生シ公債ヲ爲スニ常テハ其募集スル所ハ實ニ巨額ナルヲ以テ低利ヲ以テハ能クス可ラサルカ故ニ(外債ヲ募集セントスルモ其戰爭ノ勝敗未タ期ス可ラサルヲ以テ外國ハ信用セス)偶マ之ヲ諾スルモ高利ニアラサレハ貸サ、ル可シ國家ハ已レ自ラ設ケタル制限ヲ破ラサル可ラス佛國ハ嘗テ此ノ如キ場合ニ遭遇シタルコトアリシ佛國ノ金利制限ハ前已ニ説述シタル如ク民事ハ五分ナリ然ルニ佛國政府ハ金圓ノ必須ヨリ公債ヲ募集セシカ其公債ノ利子ハ八十二分ノ五ト爲セリ是レ明ニ法律ニ背ケリ何トナレハ八十二分ノ五ハ百分ノ五ヲ超過スルコト數學者ヲ俟タサレハナリ加之額面百圓トシテ其募集スル所ノ金額ハ實ニ八十二圓ナリ換言セハ八十二圓ノ債權ニ對シテ百圓ノ辨濟ヲ爲ス日本モ亦然リ此ノ如ク政府自ラ二箇ノ點ニ於テ欺ケリ若シ之ヲシテ一個人ノ所爲ニ係ラシメハ國家ハ其二箇ノ點ニ對シテ刑罰ヲ加フルヤ必セリ佛國ニ於テハ高利貸ヲ罰ス然ルニ國家自ラ此事ヲ爲シテ得タリトスルハ不正モ亦極レリト云フ

可シ然レトモ是レ止ムヲ得サルニ出タルモノナリ若シ此ノ如クセサレハ一國ノ經費ヲ支フルコト能ハス隨テ國家ノ命脈ヲ維持スルコト能ハサルニ由ルナリ

然レトモ政府タルカ故ニ獨リ此必要アルノミニアラス一個人ト雖トモ亦タ高利ニ據ルニ非ラサレハ其急迫ヲ救フコト能ハサル場合決シテ少ナカラサルナリ例ヘハ其金圓ナケレハ大ニ名譽ヲ墜シ信用ヲ失ヒ又ハ大ニ損失ヲ招クカ如キコトアラン例ヘハ商人アリ三日若クハ四日ノ間ニ必ス仕拂ハサル可ラサル金圓ヲ要スト雖トモ當時其金圓ヲ所有セストモ若シ之ヲ仕拂ハサルモハ名譽ヲ墜シ信用ヲ失フノミナラス破産ノ宣告ヲ受ケ後來再ヒ其營業ヲ爲スヲ得サルノ恐アルヲ以テ縱令通常ノ利息ヨリ高クトモ之ヲ借入レテ急テ救ヒ以テ名譽ト信用トヲ完フシテ後來ヲ保存ス可シ此ノ如ク後來ノ爲メニ一時ノ借入ヲ爲ス者ニ對シ法律ハ猶ホ其貸借ニ干渉セテ幾何ノ利息ニアラサレハ爲ス可ラスト爲スノ理由アリヤ此ノ如キ干渉ハ眞ノ保護ナラスシテ却テ其借主ヲ害スルモノナリ何トナレハ借主ハ其利息ヲ拂フタルニ依テ借入ル、コトヲ得タリ

若シ之ヲ拂ハサレハ貸主ハ貸サ、ルヤ知ル可ラス果シテ借入ル、コトヲ得ザリシトセンカ借主ハ已レノ急テ救フコト能ハザリシヤ知ル可キナリ又例ヘハ某ノ受負人カ政府ヨリ或工事ヲ引受ケタリトヒヨ其工事カ期日マテ履行セラレサルトキハ償金ヲ政府ニ出シタル上其着手シタル工事ハ空シク打捨サル可ラサルハ諸君ノ常ニ道路修繕等ニ於テ見ル所ナラン今此受負人カ其事業ニ着手シテ既ニ過半成功シタルニ資本缺乏シテ將ニ其事業ヲ繼續完成スルコト能ハサラントスルニ至リ百方奔走金圓ヲ借入レントスレトモ人法律上ノ利息ニテ貸スコトヲ欲セス爲メニ借入ル、コト能ハサランカ償金ヲ徴セラレ且ツ着手シタル過半ノ工事ハ空シク政府ニ取上ケラレ得可キ利益ヲ失フノミナラス現實ノ損失ヤ又巨大ナリ若シ此場合ニ制限法ナキトキハ制限法ヨリモ高キ利息ニ借入レ終ニ全ク其事業ヲ成スコトヲ得可シ

此他重病ニ罹リタレトモ醫藥ノ料ナシ而シテ人法律上ノ制限額ヲ以テ貸スコトヲ欲セス爲メニ本復スルコト能ハサルカ如キ場合ヲ想像セヨ此制限法ノ甚タ不可ナルヲ知ル可シ

終ニ臨ミ一言センニ日本ノ制限法ニヨレハ百圓以上千圓以下幾何百圓未滿幾何千圓以上ハ幾何ト制限ニ差異ヲ付シ而シテ百圓以上千圓未滿ノ貸借ハ百圓未滿ノモノニ比スレハ低利ナリ是或ハ正鵠ヲ失シタルモノニ非ラサルナキヲ得ンヤ何トナレハ百圓未滿ノ借主ハ百圓以上ノ借主ニ比スレハ殆ト皆ナ細民ナリ左レハ此等ノ者ニハ宜シク其利子ヲ低フシテ一層ノ保護ヲ爲スヲ要スレハナリ然ルニ規定之ニ反對スルハ何故シヤ察スルニ僅少ナル百圓未滿ノ貸主ニハ多クノ利ヲ得セシム可ラス百圓以上ノ貸主ニハ其金額ノ多キニ應シテ利セシムヘシトノ主意ナラン然レトモ金額ノ多寡ニ依リ救護ニ差異ヲ設クルハ到底其理アルヲ知ル可ラサルナリ又日本ノ制限法ニヨレハ或ハ奇怪ナル結果ヲ顯出スルコトアラン即チ千圓以上ノ貸借ニ關スル場合ニ貸主ハ法廷ニ於テ自分ノ債權額ハ幾千圓ナレトモ元來百圓ツ、數回ニ貸シタルモノナレハ百圓未滿ノ制限法ニ依テ利子ヲ得ント云フトキハ裁判官ハ如何ニ判スルカ法律ハ同一ノ人ニ貸スニ數回ヲ以テス可ラストノ禁制ヲ爲サ、ルカ故ニ裁判官ハ之ヲ非ナリトスルコト能ハサルヘシ若シ夫レ法律之ヲ壓フテ一人ニ貸スニ數回

第四消費

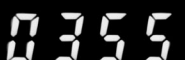
ヲ以テス可ラストセンカ是レ不當ノ法律ニアラスシテ何ソ諸國未タ此ノ如キ法律ヲ見サルナリ

第四 消費

消費ナル文字ハ甚タ事實ニ適當セサルナリ率口之ヲ貯蓄ト云ハン方却テ穩當ナリ

蓋シ經濟學者カ此消費ノ部類ニ於テ論スル所ノモノハ消費スルコトヲ説クニアラスシテ其反對ナル消費スヘカラサルコト即チ貯蓄ノコトヲ説クニ在レハナリ然ラハ則チ貯蓄ト云フノ穩當ナル知ル可シ但シ消費ノコトモ亦多少論セサルヲ得ス物ヲ生産シ流通セシムルノミニシテ其一部分ヲモ消費スル無キカ如キハ決シテ想像シ得可キ所ニアラサレハナリ然レトモ此事タル間接且附從ノコトノミ此部類ニ於テ直接ニ説ク所ハ即チ貯蓄ナリ故ニ消費ナル語ヲ更メテ貯蓄ト稱ス可シ而シテ之ヲ貯蓄ト呼做ストキハ本講義ニ於テ諸君ノ會得チ容易ニスルノ便アリ何者法典中貯蓄チ目的トシテ規定セル制度頗ル多シ例セハ後見人ノ制ノ如シ後見人ヲ設ケタルハ幼者ニ屬スル財産保存チ目的トスル

(法律ト經濟トノ關係)



人口ノ經濟ニ於ケル關係

モノナリ然ルニ今之ヲ消費ナル語ヲ置テ説明セントスルトキハ其之ヲ消費ノ部中コ入ル、所以チ説明セサルヘカラス是已ニ煩ナリ寧ロ初ヨリ保存ト稱スルノ簡明ニシテ且ツ便益アルニ如カサルナリ

又右ニ述ヘタル四種ノ區別外ニ尙ホ經濟ニ關スル一論題アリ即チ人口ノ理論是ナリ此人口論ハ經濟學上必ス研究セサル可ラスト雖トモ別ニ一種ノ部類ヲ爲スニアラスシテ前ノ四部類ニ附從セルモノナリ人口論ノ重要ナル諸國ニ於テ此事ニ關シ大ニ苦慮スル者アルヲ以テ知ルヘシ或國ニ於テハ人口ノ繁殖セサルヲ憂ヒ又他ノ國ニ在テハ其過多ナルヲ慮ル者アリ寔ニ其多キニ過クルト少キニ過クルトハ共ニ大ニ憂フヘキモノナリ又日本ニ於テモ此論題ニ關シ大ニ杞憂ヲ懷ケル者アリ

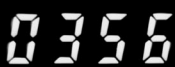
今先ツ人口繁殖ノ場合ヲ觀察センニ人口多キトキハ生産者多クシテ益ス競争ノ生スルヲ以テ生産者ニ取テハ甚タ不利ナリ然レトモ又人口繁殖セハ其生産物ノ消費多キヲ加フカ故ニ大ニ利アリトス故ニ人口繁殖スト雖トモ又以テ相濟フニ足ルカ如シ

然レトモ人口ノ繁殖ハ夫ノ配當ニ害アルコトヤ明ナリ何トナレハ勞力者ノ數ヲ増スカ故ニ各人受クル所ノ賃銀ノ額自ラ減少スレハナリ然レトモ是亦タ匡濟スルノ方法ナキニアラサルナリ

日本ニ於テ人口ノ繁殖スルヲ見テ一國ノ生産物ハ其人口ニ供スルコト足ラスト做シテ憂フル者アリコレ杞憂ノミ日本ニ於テ眞ニ人口繁殖ノ憂ヲ來タス可キハ尙ホ數世紀ヲ經サル可ラス現時ニ在テハ未タ深ク憂フルニ足ラス何トナレハ日本國中處々ニ不毛ノ地多シ若シ之ヲ開拓シテ殖産ノ勞ヲ執ラハ其人口ニ應シ得可キ富ヲ生スルニ十分ナレハナリ然レトモ若シ現時ノ日本ニシテ從來存スル物ノミヲ以テ自ラ足レト爲サハ人口繁殖ノ杞憂ヲシテ眞ノ憂タラシムルニ至ラン故ニ宜シク進ンテ生産ノ道ヲ開カサルヘカラス

消費ノ事ニ付テ立法者ハ人民ニ向テ斯ク消費スヘカラストマテ干涉ス可ラスト雖トモ又大ニ經濟ニ關スルヲ以テ立法者ノ注意ス要キ所ナリ是ヲ以テ各國概ネ貯金預所ヲ設置シテ貯蓄ヲ獎勵セリ日本ノ如キモ亦タ貯蓄ノ爲メ貯金預所アリ暗ニ貯蓄ヲ獎勵セリ又政府カ贅澤品ニ重稅ヲ賦課スルコトアリ此重稅

(法律ト經濟トノ關係)



失踪

ハ贅澤品ハ事ニ利ナラサルカ故ニ之ヲシテ人民ヲシテ間接ニ消費セシメサラ
シムルト此類ノ物品ヲ製セラシムルトノ目的ニ出ツルモノ多シ
又民法中ニ失踪ナルモノアリ失踪トハ住所及ヒ居所ヲ亡失シ又ハ音信絶エテ
生死分明ナラサルヲ云フナリ故ニ失踪人トハ其生存シ居ルヤ又ハ既ニ死去セ
シヤ音信モナク復歸モセスシテ其コト分明ナラサル人ヲ云フナリ若シ其生死
ノホト判然ナル場合ニハ決シテ失踪ト云フコトヲ得サルナリ
此失踪ニ關スル規定モ亦大ニ經濟ニ關スルモノナリ今法律ノ規定ヲ見ルニ
失踪者カ總理代人ヲ定メ置キタルトキハ其代理人ヲシテ失踪推定中失踪者ノ
財産ヲ管理セシメ若シ失踪者カ代理人ヲ定メ置カサリシトキハ關係人ノ請求
ニ因リ裁判所ハ管理人ヲ命ジ之ヲシテ其財産ヲ管理セシム(佛民法第百十二條
乃至第百十四條日本民法人事編第二百七十條第二百七十一條此ノ如ク代理人
又ハ管理人ヲシテ失踪者ノ財産ヲ管理セシムル所以ハ若シ管理スル人ナクシ
テ空シク打捨テ置クトキハ其財産ハ他人ノ濫用スル所トナリ若クハ夫脱スル
所トナリ又ハ全ク不使用ノ爲メ何等ノ收益ヲ得ルコトナク結局失踪者ノ不利

益タルノミナラス一般ノ富ノ利益ヲ缺クヲ以テナリ
然レトモ法律ハ又經濟上ノ或ル點ヨリ觀察シテ其財産ヲシテ長ヘニ他人ノ管
理ニ在ラシメスシテ社會ニ流通セシメンコトヲ欲シタリ蓋シ代理人管理人ハ
命ヲ承ケテ他人ノ財産ヲ管理スルモノナレハ或ハ其利益ヲ怠ルヘク又或ハ財
産ノ改良ヲ忽コスヘク隨テ經濟上ニ害アリ是ヲ以テ失踪者代理人ヲ定メ置カ
サルトキハ五年代理人ヲ定メ置キタルトキハ十年(日本ハ七年)經過シテ音信
ヲ得ス又ハ復歸セサルニ於テハ失踪者ノ死亡ニ因リ利益ノ關係ヲ有スル者ヨ
リ失踪ノ宣告ヲ請求シ其宣告ノ後失踪者ノ財産ヲ假(占有)スルコトヲ得故ニ例
ヘハ失踪ノ宣告ヲ請求シテ裁判所ハ某ハ失踪人ナリト宣告裁判シ而シテ其請
求シタル人占有者トナリテ失踪者ノ土地其他ノ金圓ヲ占有シタリトセハ土地
ハ之ヲ耕作又ハ工事植藝ヲ爲スコトヲ得可ク金圓ハ流通シテ利益ヲ収ムルコ
トヲ得然レトモ占有者或ハ其財産ヲ妄用シ又ハ濫費シテ失踪者ノ利益ヲ害ス
ルナキヲ保セサルニヨリ占有者ヲシテ失踪者復歸スルトキハ其財産ヲ返還セ
シムル爲メ保證人日本人事編ハ保證人以外ノ擔保ヲ以テスルコトヲ得ルノ明

役見

文ヲ掲クテ立ツヘキモノト定メタリ
 此ノ如ク占有ヲナシタル後三十年ヲ經過シタルトキハ失踪者ノ相續順位ニ在
 ル者真正ノ所有者トナリ保證人ハ其義務ヲ免カル、ナリ(日本人事編第二百八
 十一條ハ保證人及ヒ他ノ擔保ハ十五年ノ後止息ストセリ)
 佛民法ハ失踪者ヲ目シテ長壽ヲ保ツモノト見做シ失踪者カ誕生ヨリ百年ヲ經
 過シタルトキハ假古有ヨリ三十年ヲ經サルトモ始メテ確定ノ占有トシテ相續
 開始スルモノト爲セリ例ヘハ九十歳ノ人カ失踪セハ十年ヲ經過シテ相續開始
 スルモノトス然レトモ吾人ハ斯カル百歳ノ長壽ヲ保ツハ實ニ稀有ノコトナレ
 ハ此百年ノ規定ハ夫レ長キニ失セサルカ(日本ニハ此規定ナシ)
 又民法ニ於テ禁治産者ノ財産幼者ノ財産相續者ナキ財産等ニ付テ詳細ノ規定
 アリ此等ノ規則ハ無能力者ノ利益ヲ保護スルカ其目的ナリト雖トモ要スルニ
 其財産ヲ保存スルノ趣旨ナレハ固ヨリ經濟上ニ關スルモノナリ又阿片煙ノ禁
 制ハ必竟人ノ健康ヲ保護スルニ出テタルモノナリト雖トモ此禁制ハ又多少消
 費ノ點ニ關係アルモノトス

婚姻養子

佛國相續
ノ人口上
ニ於クル
非難

民法ノ婚姻及ヒ養子法ノ如キハ大ニ人口ノ増減並ニ消費ニ關係アルモノナリ
 夫レ人口ノ増殖ハ消費上良結果ヲ來ス可ク又其減少ハ之ニ反對ノ結果ヲ見ル
 可シ故ニ立法者ハ可及的人口増殖ノ事ニ注意セサルヘカラス然レトモ徒ラニ
 注意ヲ増殖ノ一點ニノミ傾ケ生産ニ注意セサルトキハ供給ノ缺乏ヲ來タシ遂
 ニ悲ム可キ現象ヲ社會ニ惹キ起サン故ニ人口ノ増殖ト同時ニ製産ニ注意セサ
 ルヘカラス
 茲ニ相續制度ノコトニ付キ一言論セサル可ラサルモノアリ諸君ノ知レルカ如
 ク佛蘭西ノ相續制度ハ日本ト異ニシテ平等分派ナリ即チ長子タルト次子タル
 トト問ハス又其子ノ幾人タルヲ問ハス遺産ハ其子ノ間ニ平等ニ分ツナリ是ニ
 於テ或ル學者ハ現時佛國ノ人口増殖セサルヲ論シテ一ニ其相續制度ノ善長ナ
 ラサルニ基因スト云ヘリ何故分派相續ハ人口増殖セサルノ原因ナルカト云フ
 ニ相續人數人アリテ一ノ遺産ヲ此數人ノ相續人間ニ平等分配スルトキハ其遺
 産多クシテハ格別ナレトモ若シ其遺産少ナキトキハ各相續人ノ得可キ部分ハ甚
 タ僅小ナルカ故ニ其相續人ハ到底生活ニ究セサルヲ得サルニ至ル是故ニ人各

(法律ト經濟トノ關係)

々相慎ンテ子ヲ舉クルコト多カラサルヲ欲ス人既ニ子ヲ舉クルチ慎ムトセハ
人口ノ増殖セサルヤ固ヨリ其所ナリ故ニ平等相續ハ人口増殖ヲ妨クルノ原因
ナリ寧ロ長子相續ノ制ニ改ムルニ如カスト是レ或ル學者カ相續制度ノ人口増
減ニ關係アルコトヲ論シテ平等相續ノ非ヲ鳴ラス理由ナリ然レトモ此論タル
甚タ淺識謬見タルノ誹ヲ免レサルナリ乞フ試ニ一駁セン
論者ハ平等ニ分配スルトキハ其相續人ノ得キ部分ハ實ニ僅少ニシテ生活ニ
究スルカ故ニ父母タル者ハ之ヲ慮カリ多クノ子ヲ舉ケサルコトヲ欲ス云々ト
論スレトモ其議論ヤ實ニ撞着セリ何トナレハ若シ長子相續トセンカ其遺産ヲ
得ル者ハ獨リ長子ノミニシテ二男三男ハ相續ニ與カルコトヲ得ス隨テ其得可
キ部分ナルモノハ絶テアルコトナシ然ラハ則チ其次子タル者ノ生活ニ究スル
ノ點ハ分派ノ場合ヨリモ猶ホ甚タシカラシ次子已ニ生活ニ究ス父母タル者其
二男三男ヲ舉クルヲ欲セサルコト又平等分派ノ場合ヨリモ一寧ノ程度ヲ進ム
ルニアラスヤ論シテ此ニ至ラハ分派相續ノ制度ヲ以テ人口ノ増殖ニ害アリト
云フノ謬ナルヲ知ル可キナリ今此說ヲ以テ假ニ理アリトスルモ甚タ事實ニ相

保
險

違セリ何トナレハ佛國ニ於テ如何ナル田舎ノ隅ニ到ルモ子ヲ欲セサル者トテ
ハ一人モナク皆ナ二人三人ノ子ヲ有シ且ツ之ヲ躰愛シテ老後ノ樂トナスノミ
ナラス人モ亦タ子多キヲ見テ彼レハ幸福ナリト稱シ合ヒリ故ニ子ヲ舉クルヲ
欲セストハ事實ヲ度外ニ措キタルノ論ナリ抑モ佛國カ近年他國ニ比例シテ格
外人口ノ増殖ヲ見サルハ他ニ原因スルモノニシテ決シテ相續ニノミ原因スル
モノニアラサルナリ
諸君ヨ余ハ以上ニテ法律ト經濟トノ關係ヲ説キ終レリ然レトモ其説ク所極メ
テ簡畧ニシテ未タ以テ盡セリト云フ可ラス其詳細ノ事ノ如キハ他日諸君ト共
ニ講究スルコトアラントス請フ諸君諒焉
筆者曰ク教頭本校ニ於テ別ニ講述セラレタル法律經濟關係論ノ中ニ保險
法ノ一章アリ今之ヲ左ニ抄録シテ諸君カ保險法ノ何タル一般ヲ知ルノ資ニ
供ス
保險 (ASSURANCE) ハ佛蘭西原語ノ意義ニ於テハ或ル惡結果ヲ可成的減少セシメ
ントノ意義ヲ有スルナリ

(法律ト經濟トノ關係)

故ニ或ル事柄ヨリ顯出スルコトアル可キ惡結果ヲ制限スルヲ保險ト云フナリ然レトモ此保險法アルカ爲メ時ニ顯出ス可キ惡結果ハ全ク消滅スルモノト解ス可ラス唯タ其顯出スル惡結果ヲ可成的制限シテ顯出セザラシムルヲ以テ保險本然ノ字義ナリトス例ヲ以テ云ハ、火災保險ハ火災ヲ豫防スルモノニアラス又之カ爲メ火災ノ絶滅スルモノニ非ラス唯タ其火災ノ爲メニ生スル損害ヲ或人ヨリ補償スルヲ以テ火災保險ノ主意ナリトス

斯ク云ハ、諸君或ハ疑ハン若シ單ニ他人ヲシテ火災ニ罹リシ人ノ損害ヲ償ハシムル事ノミナラハ保險ナルモノハ何等ノ必要モナカルヘシ何トナレハ其償ハレタル人ハ利益アレトモ之ヲ償フタル人ハ損失スルカ故ニ全體ヨリ看察スルトキハ毫モ保險法ヲ設クルノ利益ナクハナリト夫レ然リ豈夫レ然ランヤ玆ニ五十名ノ人相集マリ各々一千圓ヲ醸出シテ保險組合ヲ成シタリト假定セヨ其五十人中ノ一人カ所有スル家屋火災ノ爲メニ滅盡シ一千圓ノ損失ヲ爲セリトセハ一人ニシテ一千圓ノ損失ハ實ニ巨大ナリト云フ可シ然レトモ之ヲ保險上ヨリ論スルトキハ其一千圓ノ損失ハ五十人ニ於テ償フカ

故ニ之ヲ頭分スルトキハ一人ニ付キ二十圓ニ過キス一人一千圓ノ損失ハ巨額ナリト雖トモ二十圓ナレハ左マテ巨額ノ損失ト云フコトヲ得ス況ンヤ其人五十人ニ止マラス百人若クハ千人ナルトキハ一人僅カ一圓乃至拾圓ノ損失ナルニ於テオヤ是則チ保險法ノ起ル必要アル所以ナリ

此ノ如ク保險ナルモノハ一人ノ損害ヲ多人數ニテ賠償シ而シテ其多人數ナルヤ十人ヨリ百人百人ヨリモ千人共人數ノ多キニ伴ヒ其擔當ノ割合減少スルヲ以テ保險法ノ趣意ハ可成人ノ寡キヨリモ多キヲ要スルコト、ナルナリ是レ又現時保險會社ノ與ル所以ナリ

損害ヲ生ス可キ原因即チ災害ノ種類ハ世間決シテ一ニ止マラスト雖トモ今保險ノ種類チ大別スレハ海上保險ト陸上保險トノ二トス

海上保險ハ上古ヨリ之アリシモノニ非ラス中古漸ク其必要ニ迫マリ興レリ而シテ今代諸國大半海上保險ノ法律備ヘレリ佛蘭西ニ於テモ亦タ現行商法ニ於テ規定シ盛ニ行ヘレ居レリ其商法ニ規定セサル以前ニ在テハ特別法中ニ於テ規定セリ

陸上保險ニ至テハ歐洲中制法ヲ設ケタル國ナシ現ニ佛國ノ如キ一モ陸上保

險ニ關スル法律ナシ然レトモ今盛ニ行ハレ居レリ

陸上保險ノ種類ハ數多アレトモ今其主要ナルモノヲ示サンニ

(イ) 火災保險

(ロ) 洪水保險

(ハ) 土地生産保險 例ヘハ日本ノ如キ雪ノ降ル國ハ其雪ノ爲メニ土地ノ

生産上ニ損害ヲ生スルコトアリ其他氷霜早魃ノ爲メニ損害ヲ生スルコト

アリ此等ノ損害ニ對スル保險ヲ生産保險ト云フナリ又獸疫ヨリ生スル損

害ニ對シテ保險スルコトアリ之ヲ動物ノ保險ト云フナリ

(ニ) 鐵道保險

(ホ) 工業保險 例ヘハ鑛山ノ破製器械ノ破裂其他災害ニヨリ職人ノ死傷ニ對

スル保險ノ如シ

(ヘ) 生命保險 保險生命ハ火災保險ニ次テ必要ナルモノナリ今生命保險ト云

フトキハ生命ノ上ノ保險ナル故ニ稍ヤ奇ニ聞ユレトモ或ル人ノ死去シタ

相互保險

ルトキ其死去ニ因ル損害ヲ遺屬ニ償フコトニシテ毫モ奇ナル所ナシ

日本法律草案ニ於テハ陸上保險ノ明文ヲ掲ケタリ而シテ其中火災保險ト生

命保險トノコトニ關シテハ各項ニ於テ詳シク規定セリ筆記者曰ク現民法ノ

立法者ハ其草案ノ規定ヲ削除シテ之ヲ商法ノ規定ニ讓レリ故ニ現民法ニハ

保險ノ規定ナキニ至レリ海上保險ノコトハ商法中ニ規定セリ

保險ノ行ハル、方法ニ二アリ第一ハ相互ノ保險ナリ相互ノ保險トハ前例ニ

掲ケタルカ如ク數人ノ間ニ約定スル民事上ノ結合ニシテ或ハ災害ニ因リ財

産上ニ及ホスコトアル損害ヲ其各自ノ供資ニ應シテ補償スル爲メ供ヘタル

共有資本ヲ用テ數人ノ者相互ニ保險人トナリ又被保險人トナルヲ云フナリ

故ニ相互ノ保險ハ可成の人數ノ多キコトヲ要ス若シ其人數ヲ二人ト假定シ

テ其損害一千圓トスルトキハ其負擔額ノ割合多キノモナラス斯カル、少數

人ヨリ組織シタル保險ハ之ナキニ如カサルナリ

此相互ノ保險方法ハ大ニ不利益ナル點ノ存スルニヨリ今日ハ以前ノ如ク盛

ニ行ハル、ニアラスシテ漸次衰廢ノ傾アリ其不利益ノ點トハ例ヘハ茲ニ五

(法律ト經濟トノ關係)

十人相集テ各自若干ノ金額ヲ醸出シテ互ニ保險人トナリ被保險人トナリ而シテ其五十人ハ各々家屋ヲ有セリトセヨ此各自カ有スル家屋ハ皆ナ同一ノ價格ヲ有スルニアラス或ハ低價ノモノアルヘク或ハ高價ノモノアルヘク或ハ通常ノモノアルヘシ而シテ若シ其低價ノ家屋ノ燒失シタルトキハ其損害ノ補償トシテ其家屋ノ價額ヲ五十人ニテ負擔シ各々五十分ノ一ヲ拂ハサル可ラス又高價ノ家屋燒失スルトキハ其家屋ノ價額ヲ五十人ニテ負擔シ各々五十分ノ一ヲ拂ハサル可ラス然ラハ則チ相互ノ火災保險ナルモ先ツ各自ノ所有セル家屋ノ價額ヲ評價セサル可ラス何トナレハ高價ノ家屋モ低價ノ家屋モ皆ナ同一ノ金額ヲ以テ賠償スルハ甚ダ不都合ナルカ故ニ其賠償ハ各家屋ノ有スル價ニ比例スルコトヲ要スレハナリ斯ノ如ク先ツ家屋ノ評價ヲ爲スヘキモノトスルトキハ五十名ノ人々ハ皆ナ自己ノ職業アルカ故ニ自ラ評價ヲ爲スノ暇ナク又自ラ評價スルトキハ不公平アルヤ知ル可ラス是ヲ以テ他ヨリ評價人ヲ備入レサル可ラス評價人ヲ備入レンカ之ニ相當ノ給料ヲ與ヘサル可ラス加之火災ハ常ニ必ス全燒スルモノニアラス或ハ半燒ナルコ

トアリ或ハ三四分ノ燒失ナルコトアリ此ノ如キトキハ其燒失シタル部分ノ價額ハ幾何其損害額ハ幾何ト巨細ニ鑑定評價セシメサル可ラス而シテ獨リ此等ノ費用ト手数トヲ要スルニ止ラハ尙ホ可ナリト雖トモ若シ其共有資本ヲ以テ損害ヲ全償スルニ足ラサルトキハ五十名ノ人ヲシテ其價金ノ補足額ヲ拂込マシメサルヘカラス而シテ此補足額ノ退徴タルヤ之ヲ得ルコト甚ダ困難ナル憂アリ何トナレハ其五十人ノ人々ハ火災ノアラサル前ニハ或ハ自ラ此災害ニ罹ルナキヤヲ恐レ好テ出金シタルモ已ニ一旦他ノ組合人火災ニ罹リタル人ニ其共有資本ヲ以テ損害ヲ償ヒタル上ハ將來決シテ自己ノ爲メニ毫モ益スル所ナキヲ知り其補足額ノ拂込ヲ爲スコトヲ好マサル可ケレハナリ

又此相互保險ハ到底當初ニ約束シタル人員ニ止マル可キモノニアラス其組合ノ益メニハ可成ノ人數ノ増加スルヲ要ス故ニ常ニ其増員ノコトニ注意セサル可ラス而シテ之ヲ増スニハ各自奔走シテ相集ムルコト能ハサルカ故ニ別ニ相當ノ役員ヲ置カサル可ラス已ニ役員ヲ置カンカ其役員ヲ監督スル上

役人ナカル可ラス是亦タ組合員間ニ厭倦紛争ヲ來タシテ遂ニ解散スルノ一因タルヘシ

此ノ如ク困難アルチ以テ佛國ニ於テハ今日此相互ノ保險方ハ次第ニ減少セリ想フニ十年乃至二十年ノ後ニハ恐ラシ此相互ノ火災保險ハ其跡ヲ滅セン日本ニ於テハ今日マテ此方法ニ依レル保險アルコトナシ想フニ將來ニ於テモ亦タ起ルコトナカルヘシ然レトモ契約ハ自由ナリ法律ノ禁セサルニ非ラサルヨリハ隨意ニ爲シ得ヘキカ故ニ人若シ相互保險ヲ爲スニ利アリトスルトキハ之ヲ爲スナラン若シ之ヲ爲サンカ之ニ關スル法律ナカル可ラス是以テ民法草案ハ相互保險ニ關スル條文ヲ掲ケタリ

斯ク云ハ、諸君或ハ云ハン相互保險ハ經濟上何等ノ利益ナキモノナリト是レ誤レリ今前例ヲ取テ其利益アルヲ示サン各々一千圓ノ價アル家屋ノ所有者百人相集マリ火災ニ對スル相互保險ノ組合ヲ成セリトセンニ其所有者ノ一人火災ニ罹リタルトキハ各所有者ノ頭分出金額ハ千圓ノ百分一即チ拾圓タルヘシ夫レ此拾圓ノ損失ハ實ニ千圓ノ資本ヲ所有スル者ヨリ看察セハ僅

定料保險

ニ不快ヲ感スルノミニシテ別ニ資本ヲ剝奪セラル、ノ感ヲ起サ、ルヘキモ若シ一人ニテ千圓ヲ失フトキハ之カ爲メ自己ノ生業ニシ且ツ國家經濟上ニ影響ス可キ殖産ノ方法ヲ剝奪セラルヘシ然ルニ各自左程ニ感セサル拾圓千入トスレハ僅ニ一圓ノ損失ヲ以テ此生産ノ方法ヲ奪ハスシテ止ム是ニ由テ之ヲ見レハ一般ノ富ニ於テハ一人ニシテ千圓ノ損失ヲ受クルヨリハ率々百八十圓又ハ千人一圓ノ損失ヲ受クルノ優レルニ如カサルナリ

第二ノ方法ハ定料保險ナリ定料保險トハ被保險者ヨリ保險人ノ負擔シタル危險ノ存續スル時間ニ從ヒ其危險ノ對價トシテ保險人ニ支拂フヘキ定額ノ金圓(保險料)ヲ以テ約スル保險ヲ云フナリ

上ニ説明シタル相互ノ保險方ハ保險スル人ト保險セラル、人兩ナカラ相集合スト雖トモ此定料保險ハ保險ヲ爲ス人ノミ相集テ會社ヲ組成シ而シテ何人タルヲ問ハス皆ナ之ニ依頼シ保險料ヲ拂フテ被保險人トナルコトヲ得ルノ仕組ナリ

又上ニ述タル相互ノ保險組合ハ商事上ノ會社ニアラスシテ民事上ノモノナ

ルニ過キス然ルニ茲ニ述フル保險會社即チ定料保險ハ商事上ノ會社ナリ隨テ頭取アリ支配人アリ他ノ役員アリ

此商事上ノ保險會社ハ可成的多額ノ資本金ヲ要ス而シテ此資本金ヲ集ムルニハ通常ハ發起人カ最も多額ノ金圓ヲ嚮出ス例ヘハ資本金拾萬圓トスレハ發起人ハ其三分ノ一若クハ二分ノ一ヲ持出シ殘餘ノ三分ノ二若クハ二分ノ一ヲ株券ト爲シ世間ニ賣出シテ募集スルナリ

此ノ如クシテ此會社カ漸次信用ヲ得ルニ從ヒ保險ヲ依頼スル人ヲ増スナリ而シテ其保險ヲ依頼スル人ハ年々保險料ヲ其會社ニ拂フモノトス此保險料ハ場所ニヨリ同一ナラサレトモ大抵五分ナリ横濱ハ三分ノ定トナリ居レリ又此保險料ノ割合ハ其家屋ノ構造ニ依テ異ナリ例ヘハ木造ノ家屋ヲ有スル被保險人ハ練瓦造ノ家屋ヲ有スル被保險者ヨリモ多額ノ保險料ヲ拂ハサル可ラス而シテ其家屋ノ評價ヲ爲スニハ保險會社ニ相當ノ役員アリテ火災保險依頼スル者アルトキハ其依頼人ノ家屋ヲ鑑定シテ足下ノ拂フヘキ保險料ハ幾許ト其割合ヲ定ムルナリ而シテ其保險サレタル人ノ家屋カ燒失スルト

キハ被保險人ハ其償金ヲ得ント申込ムナリ然ルトキハ一週日ヲ出サル間ニ會社ハ其償金ヲ拂フナリ

保險會社カ其償金ヲ拂フニ付テハ相互ノ保險ト異ニシテ會社ノ資本金ヲ以テ拂フカ故ニ組合員ヨリ別ニ其割前ヲ取立ツルカ如キコトナシ又此會社カ被保險人ヨリ保險料ヲ取立ツルコトニ付テハ會社ニハ之ニ專任ノ役員アリテ此役員ハ恰モ政府カ人民ヨリ租稅ヲ取立ラルカ如キ手續ニテ能ク之ヲ取集ムルナリ

又此保險會社ハ被保險人ノ員數ヲ増加スルコトヲ務ムル役員アルカ故ニ空シク時間ヲ費ヤスカ如キコトナシ

相互ノ保險ニ於テ各人毫モ利スル所ナシ何トナレハ己レノ家ヲ燒失シタル者ハ其家屋ノ償金ヨリ他ニ得ルモノナケレハナリ又他ノ共同組合員ニ於テモ償金ヲ出シテ損スルノミニシテ別ニ利益ヲ得サルナリ然ルニ此保險會社ハ大ニ利益ヲ得ルモノナリ其利益アル所以ハ漸次依頼人ノ員數増加スルトキハ隨テ保險料モ増如ス而シテ火災ハ依頼人ノ員數ニ比例スルモノニアラ

ナルカ故ニ保險料トシテ收入スル所ノ金額ハ多ク家屋焼失ノ賠償トシテ支出スル所ノ金額ハ少ナキナリ此故ニ此會社ハ依頼人保險人ノ増加ニ從ヒ益ス利益アリ余モ自己ノ家屋ノ保險ヲ依頼シ置キシカ毎年四百圓ツ、ノ保險料ヲ拂ヒ居レリ此保險料ノ拂込今年マテ五年續キタル故ニ己ニ二千圓ノ額ニ上レリ想フニ世間余ト同シク保險料ノモ拂居ル人少ナカラサルヘシ此等ニ付テ見ルモ保險會社ノ利益アルコト知ル可シ

此保險契約ハ民法上ニテ云ヘハ射倖契約ナリ而シテ此契約ハ經濟上ニ利益アルモノトシテ法律上ニモ經濟上ニモ共ニ存セリ諸君ノ知ル如ク射倖契約中法律ノ嚴禁スルモノアリ賭博ノ如キ是ナリ此保險契約モ亦タ賭博ノ如ク禁スヘキモノ、如ク見ユ然ルニ法律ノ之ヲ禁セサルハ何故ソヤ曰ク其賭博ト其性質ヲ異ニスレハナリ即チ賭博ハ其約スル所ノ價額唯一箇ニシテ偶然ノ事故ニ因リ之ヲ得ル者ノ何人ナルカ又之ヲ失フ者ノ何人ナルカノ決スヘキナク而シテ之ヲ受クル者ハ正當ノ原由ナクシテ之ヲ受クルナリ何トナレハ之ヲ受クル者ハ對手人ニ何等ノ價額ヲモ供給セス又其對手人ハ之ニ贈與

ヲ爲スノ意思アラサレハナリ之ニ反シ保險契約ハ確定ノ金額ヲ供給シ之ニ依テ利益即チ災害ノ場合ノ安全ヲ買フモノナリ換言セハ雙方ノ豫見ノ如ク發生スルコトアルヘキ損害ノ賠償ヲ受クルノ權利ヲ買フモノナリ例ヘハ余一年ニ四百圓ノ保險料ヲ拂フテ償金ヲ受クルノ權利アルカ故ニ火災ノ爲メニ自家ノ焼失スルコトアルモ別ニ憂フルナシトフ安心即チ無形上ノ利益存セリ故ニ若シ災害ノ生セザルトキト雖トモ被保險人原由ナクシテ定料ヲ與ヘタリト云フヲ得ス何トナレハ此安全ハ災害ナキト雖トモ其價値ハ法律上ノ利益トナリテ存スレハナリ即チ火災保險付ノ家屋ナルトキハ之ヲ抵當トシテ金圓ヲ借用スルニ方リ他ノ保險ナキ家屋ニ比スレハ一層容易ナルハ勿論貸借ニ付キ一層利益ナル條件ヲ得ヘキカ如キ是ナリ

又保險人ノ方ニ於テモ相互ノ保險ニ付テハ毫モ利得セスト雖トモ定料保險ニ關シテハ利得スルコトアルヘシ殊ニ一期内ニ數多ノ被保險人ヨリ夥多ノ保險料ヲ受収シ而シテ其賠償ス可キ災害僅小ナルトキハ保險會社ノ利得スルモノナリ要スルニ賭博ハ雙方ニ利益ナシト雖トモ保險契約ハ雙方ニ利益

アルモノナリ
 右述フル所ニヨリ保險契約ノ賭博ト異ナルコト知ル可シ茲ニ注意ノ爲メ一
 言セサル可ラサルコトアリ即チ民法草案ニ於テ規定セル如ク火災其他財産
 ニ及ホス損害ニ對スル保險ニ付テハ其被保險人トナリシ者身己ノ物件ヲ保
 存スルカ爲メナルコトヲ必要トス例ヘハ甲者自ラ保險料ヲ出シテ余ノ家屋
 ヲ保險シ余知ラスト假定セヨ而シテ若シ余ノ家屋火難ノ爲メ燒失シタル時
 ハ已レ其償金ヲ利益スルカ如キハ法律ノ宜シク禁スヘキ所ナリ何トナレハ
 他人ノ家屋ニ付テ保險契約ヲ爲スコトヲ得ルトキハ大膽ナル者アリテ東京
 全市ノ家屋ヲ保險ニ付スルヤ知ル可ラス而シテ若シ一タヒ火災ノ爲メ數多
 ノ家屋延燒スルトキハ被保險人ノ利得ハ實ニ莫大ナルコトアルヘシ斯ノ如
 キ所爲ハ全ク賭博ノ性質ヲ具フルモノナリ加之保險ノ基礎タリ原則タル所
 ノ保險ハ決シテ被保險人ノ爲メ利益ノ原因タル可ラス唯タ償金ヲ得ルノ權
 利タル可シト云ヘル趣旨ニ背クモノナリ何トナレハ其物件ノ保存ニ付キ毫
 モ利益ヲ有セサル者ハ其滅盡ニ付テモ亦タ毫モ損害ヲ受クルコトナカルヘ

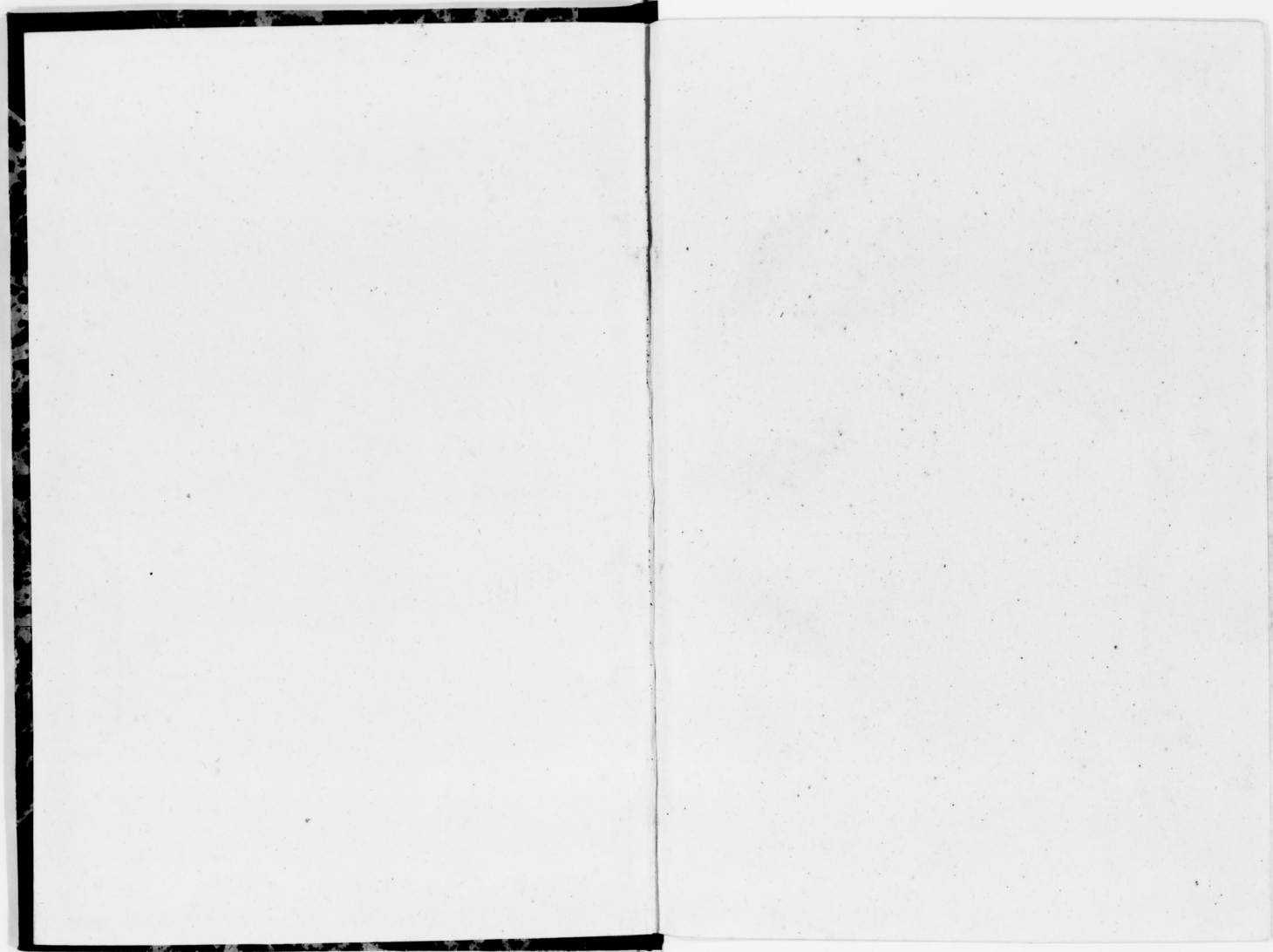
キカ故ニ賠償セラル、ノ權利ヲ有セサルヘクレハナリ是ヲ以テ保險ハ被保
 險人カ其物件ノ保存ニ付キ利益ヲ有スルコトヲ必要トスルナリ云々

去書... 關... 林... 程... 楚...

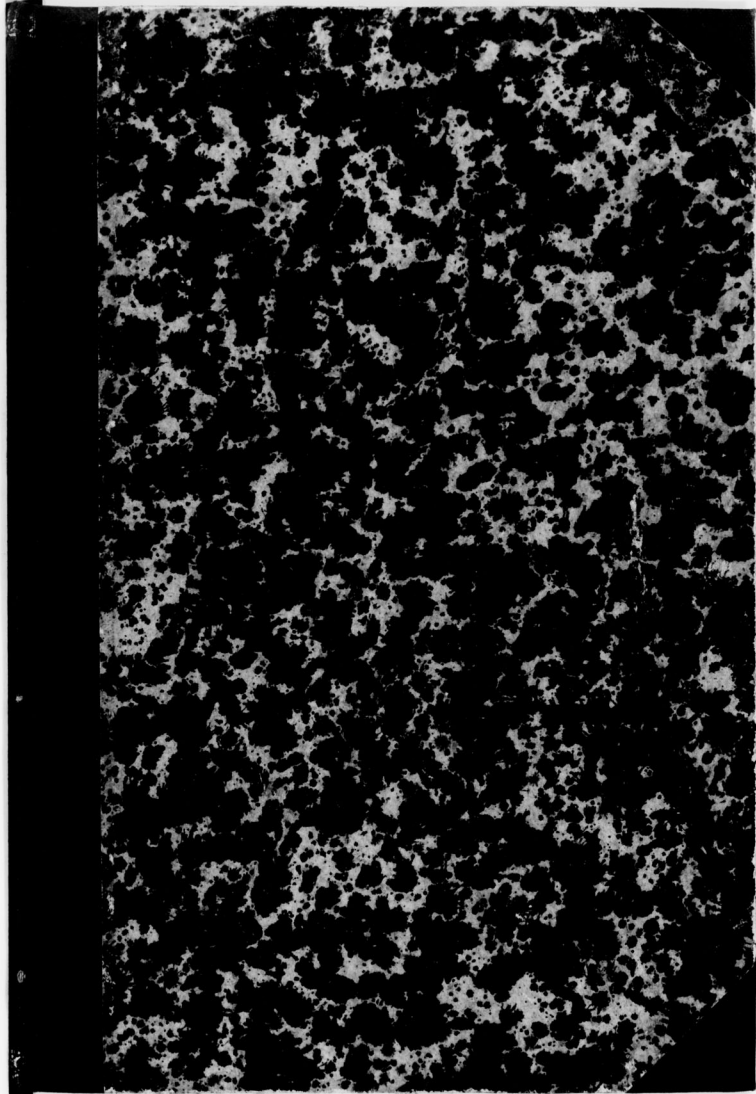
百四十五

... 人... 地... 物... 心... 意... 氣... 血... 精... 神... 骨... 髓... 筋... 脈... 皮... 肉... 毛... 髮... 爪... 齒... 舌... 唇... 鼻... 耳... 目... 口... 舌... 喉... 咽... 膈... 胃... 脾... 肝... 膽... 肺... 大... 小... 腸... 胃... 膽... 脾... 肝... 肺... 心... 腎... 膀... 胱... 三... 焦... 膽... 胃... 脾... 肝... 肺... 心... 腎... 膀... 胱... 三... 焦...

0367



0368



0369